

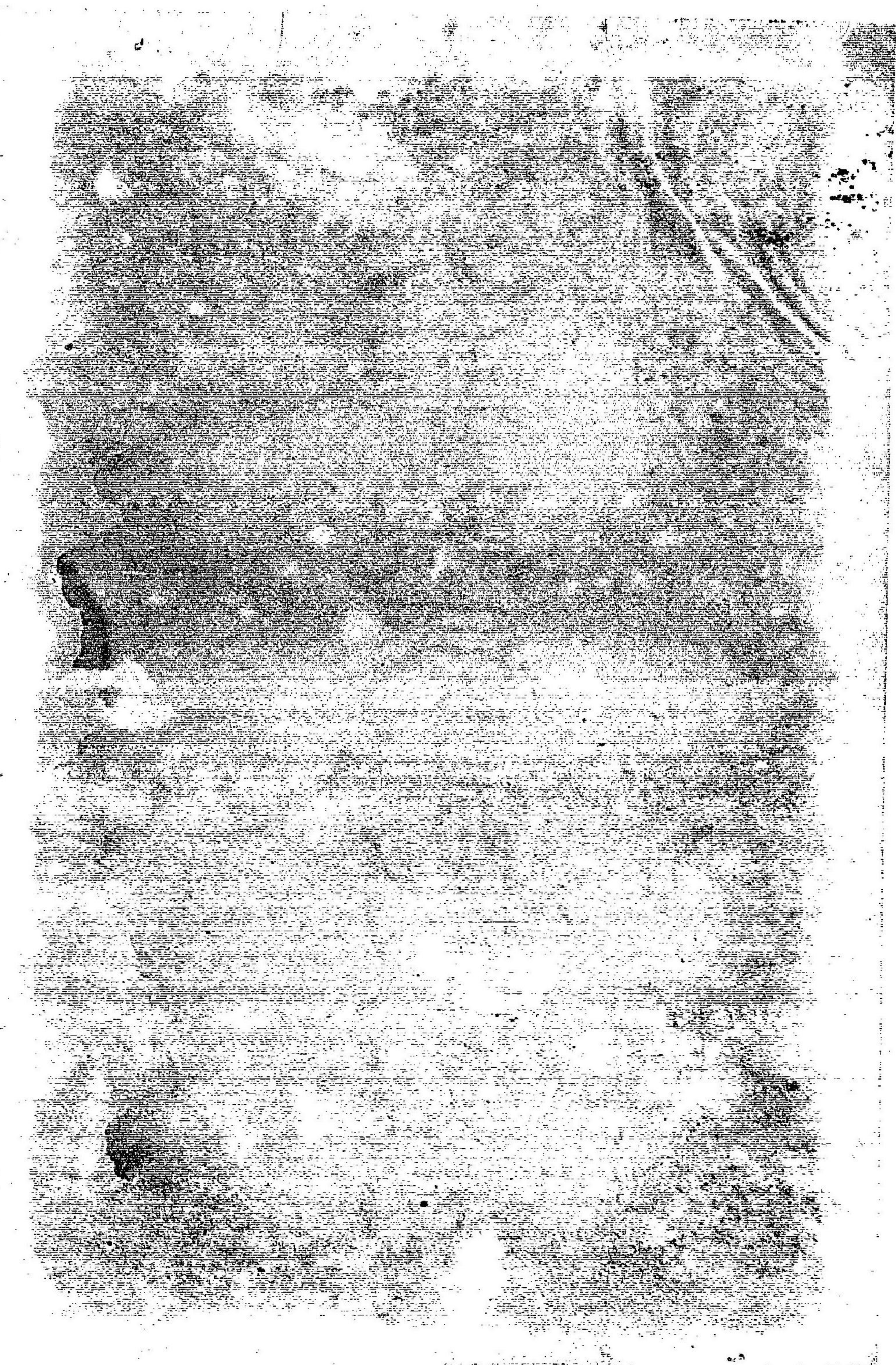
司法省藏版

大審院民事判決錄

八年十二月印行



明治



CZ / CZ
~~2/4~~ 2811
~~101~~ 12

正誤

三丁
一六五丁
二二一丁
三二八丁

十行
三行
十一行
十二行

必ハス
判然ヨリ
不眼
管轄

ハ必ス
タリ
不
管轄

大審院民事判決錄 明治十七年
十月分

目錄

第四百八十三號	質地受戻一件	一	一	丁
第四百八十四號	約定履行建家取戻一件	一	六	丁
第四百八十五號	貨物代償金要求一件	一	九	丁
第四百八十六號	證券取戻一件	一	〇	丁
第四百八十七號	山地境界爭論繪圖面重複取消一件	三	〇	丁
第四百八十八號	地圖並順記簿重複一件	四	三	丁
第四百八十九號	家督相續差拒解除請求一件	五	五	丁
第四百九十號	地券書換催促一件	五	八	丁
第四百九十一號	墓地所有爭論一件	六	一	丁
第四百九十二號	新架樋取拂違約一件	六	三	丁
第四百九十三號	代償金催促一件	七	七	丁
第四百九十四號	地所明渡請求一件	八	〇	丁
第四百九十五號	水車營業差拒一件	八	五	丁
第四百九十六號	地所引渡請求一件	九	四	丁
第四百九十七號	封書取戻一件	九	九	丁
第四百九十八號	賣藥營業差留一件	一〇	一	丁

第四百九十九號	小作米代金取戻一件	一〇六丁
第五百一號	新規水除土手取拂一件	一一一丁
第五百二號	民有山地券記名請求一件	一一三丁
第五百三號	貸金催促一件	一二三丁
第五百四號	貸金催促一件	一二六丁
第五百五號	田地取戻一件	一三五丁
第五百六號	地券證引渡請求一件	一三八丁
第五百七號	貸地所取戻一件	一四六丁
第五百八號	頼母子講掛金催促豫審一件	一五三丁
第五百九號	立木代金請求一件	一五八丁
第六百一號	草手料米催促一件	一六一丁
第六百二號	草手料米催促一件	一六四丁
第六百三號	田畑山林秣場數名前換請求一件	一六七丁
第六百四號	止宿料費用損害要償一件	一七一丁
第六百五號	家督相續一件	一七五丁
第六百六號	山林所有權壅塞立木專伐一件	一七八丁
第六百七號	協議費怠納請求一件	一八六丁
第六百八號	協議費怠納請求一件	一九四丁

第五百拾七號	協議費怠納請求一件	二〇二丁
第五百拾八號	協議費怠納請求一件	二一八丁
第五百拾九號	協議費怠納請求一件	二二〇丁
第五百二十號	協議費怠納請求一件	二二七丁
第五百二十一號	協議費怠納請求一件	二三五丁
第五百二十二號	協議費怠納請求一件	二四三丁
第五百二十三號	協議費怠納請求一件	二五一丁
第五百二十四號	協議費怠納請求一件	二五九丁
第五百二十五號	共有地爭論濟口違約一件	二六七丁
第五百二十六號	共有地爭論濟口違約一件	二七二丁
第五百二十七號	氏子分離差拒ノ一件	二七八丁
第五百二十八號	質入地所建家引渡差拒一件	二八四丁
第五百二十九號	賄地券面名受違一件	二八八丁
第五百三十號	賣買田畑約定履行一件	二九三丁
第五百三十一號	執行裁判一件	三〇〇丁
第五百三十二號	講金催促一件	三〇七丁
第五百三十三號	幼者ノ資財出納上ヨリ生スル損害要償一件	三一二丁
第五百三十四號	秣山妨害解除一件	三一七丁

第五百三十五號	寺附物件引渡一件	三二三丁
第五百三十六號	上告ニ係ル入費並往キニ渡シタル入費取戻一件	三三〇丁
第五百三十七號	地券調印差拒一件	三三四丁
第五百三十八號	貸金催促一件	三三九丁

大審院民事判決錄 明治十七年
 ○第四百八十三號

質地上告ノ判文(明治十六年九月十五日上告) 同 十七年十月一日申渡



右三名代言人

被上告人

質地上告ノ訴訟東京控訴裁判所ノ裁判ヲ不當トスル上告一件審理スル處左ノ如シ

東京府本郷區駒込西片町十番地
 士族 飯塚雄次郎

千葉縣下總國香取郡高倉村四番地
 地平民 古川庄左衛門

同縣同國同郡同村九番地平民
 櫻井甚吾

東京府日本橋區矢ノ倉町一番地
 寄留秋田縣平民 渡邊小太郎

千葉縣下總國下埴生郡飯岡村五
 十二番地平民 山口吉右衛門

本件ノ起訴者ハ被上告者ニシテ明治四未年十二月中十箇年季ヲ以テ上告人ノ内飯塚雄次郎
亡父直衛ニ質入レシタル本訴論地ヲ雄次郎ニ係リ受戻サントスルモノナリ而シテ其質地タ
ル證據ハ被上告第一號戸長役場奥印帳ニ當時ノ質地全文ヲ記載シテ明ラカナリ然ルニ上告
者ハ流地ニ買取タリト申立爾後他賣セシ事情ヲ被上告者認知シタリト云モ曾テ認知シタル
ヲナク又上告者カ他賣ノ後村役場ノ公認ヲ受アル如キ幾多ノ證據アルモ基本立タサルモノ
ナレハ効力コレナキモノナリト云フニアリ

上告者ノ内雄次郎ハ本訴論地ハ舊主稻葉正邦ノ爲メ亡父直衛カ流地ニ買受タルナリ今其證
文ハ紛失シタルモ被上告者ハ近村ニアリテ上告人中古川庄左衛門等(控訴引)ニ轉賣セシ事
情ヲ認知セサルノ道理ナキニ何等故障ヲ申立タルコトナク且上告第一號證地引帳及二號
賣買證三號名寄帳寫ニ公認セラレタルニテ明ラカナリ被上告第一號證ノ如キハ戸長代理八
代源兵衛ノ申立ニヨレハ總テノ書類引續後明治十三年五月櫻井榮藏ヨリ引續タルモノニテ
同人ニ慥ナルヤト問ヒシニ然リト答タルニヨリ然レハ割印スヘシト申聞割印サセタルモノ
ナリトノ事ナレハ該證ハ常人ナル榮藏ノ保證ニ過キスシテ信ヲ置クニ足ラサル者ナリト
又云フ本件ハ物權ノ訴ナルニヨリ其所有者ニ係リ要求スルコト當然ナルヘク上告者ニ對ス
ルハ不筋ナリト而シテ上告者ハ始審ニ勝テ終審ニ敗レタリ

原控訴裁判所ハ本案ヲ理スルニ該リ論地轉賣人古川庄左衛門櫻井甚吾根本嘉三郎ヲ喚問シ
タルニ
庄左衛門ハ飯塚雄次郎亡父ノ雇主稻葉正邦代理生間信安ヨリ檜垣三郎次ノ保證ヲ以テ買取

リタルモノニテ乙第三號證末記ノ如ク戸長役場之ヲ保證シ尙同第一號證地引帳及第四號名
寄帳等ニ公認セラレテ現有スル上ハ被上告者ノ所有ニハコレナシト

甚吾ハ庄左衛門ヨリ右ノ一部ヲ買取リタル旨ニテ其論旨ハ庄左衛門ニ替ルコトナシ
右ニ對スル原裁判ハ左ノ如クナリ

第一 被告雄次郎ハ明治四年中論地ヲ流地ニ買取リテ後明治八年中引合人古川庄左衛門
ニ轉賣シタリト云フモ當時戸長役場ノ奥印帳ニ原告カ質地ノ名義ニ記載アリテ流地ノ
名義ナシ名寄帳ニハ飯塚直衛ニ入ルトアリ且戸長代理八代源兵衛ノ證言アリ況ヤ被告
カ流地ノ證ナシト斷言スルヲヤ是論地ハ流地ニアラスシテ依然質地ノ名義存在シ其所
有權ハ未ダ被告ニ移ラサルモノナリ

第二 物件ノ訴訟必ハス現有者ニ係ルヘキ法律ナキヲ以テ權利者即チ原告隨意ナリトス
第三 古川庄左衛門カ呈供スル第一號證ヲ以テ論地ヲ買受タルハ引合人檜垣三郎次ヨリ
番外第一二號證ノ古證文ヲ示サレタルニ因リ被告ノ所有タルヲ認メタリト云フモ真正
ノ賣買ト視認ムルヲ得ス

第四 前條ノ如ク古川庄左衛門ハ明治八年中檜垣三郎次ヨリ假證書ヲ以テ論地ヲ買受ケ
又明治十年四月中本證即チ第二號證ヲ稻葉正邦ヨリ委任ヲ受ケタル生間信安ヨリ受取
タリトノ事ナレハ其所有權ヲ得サルモノトス

第五 櫻井甚吾カ明治八年中論地ノ内九筆ヲ古川庄左衛門ヨリ買受ケタルモ亦古川庄左
衛門ト其轍ヲ同フスルニ付所有權ヲ得サルモノトス

第六 根本嘉三郎カ明治十一年三月中論地ノ内五筆ヲ櫻井甚吾ヨリ買得タルハ正當ノ手

續キテ盡シタルニ因リ所有權ヲ得タルモノトス

右ノ裁判ニ對スル上告ノ要旨左ノ如シ

第一條

一 原判文第一條中（其奥印帳ヲ閱スルニ原告質地ニ記載シアリ流地名義ニ無之名寄帳ニハ飯塚直衛ニ入ルトアリ且戸長代理八代源兵衛ノ證言モアレハ論地ハ流地ニ非サルヲ明了ナリ況ンヤ被告カ流地ノ證無之ト斷言スルニ於テナヤ）トアレハ奥印帳ハ被上告者ニ於テ證據トシテ呈スル能ハサルモノナレハ訟廷ニ於テハ信ヲ措キモノニ非ス何トナレハ明治十五年十月四日戸長代八代源兵衛ノ申立ニ（其奥印帳ニ割印シタルハ榮藏カ真正ノモノニ相違ナシト申スニ付相違ナクハ奥印ス可シト申シタル次第ナリ）トアリ而シテ榮藏ハ常人ナリ是ヨリ帳簿ヲ引繼クニ際シ相違ナキヲ證セン爲メ其割印ヲ要スルトハ何ト云フコトヤ必竟戸長カ信ヲ置キ難キカ故ニ常人ニ保證セシメタリト云フ可ケレハ其効力ハ即チ常人ノ保證ニ過キサレハナリ

二 被上告者ノ云フ如クスレハ當時被上告第一號證奥印ノ公務ニ當レル者ハ櫻井二三郎ナリ而シテ乙第一號證地引帳ニ村總代トナリテ公證奥印ヲ爲シタルモ同二三郎ナリ（此地引帳ニハ論地ノ舊反別テ下紙ヲ以テ示セシ如ク上告人古川庄左衛門櫻井甚吾ニ所有ノ移轉セシテ公認セラレタルモノナリ）而シテ地引帳ノ効力ヲ問ハ、地券發行ニ際シ區畫及ヒ人民各自ノ所有ヲ明細ニシ縣廳ニ呈シテ始メテ地券ヲ授與セラレ、モノニシテ所有ヲ見ル根基ノ證據ト云フ可キモノナリ

三 又乙第二號證ハ論地ノ内數筆ヲ上告人ノ一人櫻井甚吾ヨリ根本嘉三郎ニ轉賣シタルモノニシテ其奥印ヲ爲セシハ戸長櫻井二三郎又乙第四號證ハ乙第一號地引帳ニ付帶セシ名寄帳ニシテ本訴論地ハ皆上告人古川庄左衛門櫻井甚吾等ニ所有ノ轉賣セシテ拔萃公認ヲ經タルモノニシテ是レニ奥印ヲ爲セシ者モ亦同ク櫻井二三郎ナリ是レ眞ニ被上告者カ云フ如ク本訴地所ハ流地ニ非スシテ被上告第一號證ノ効力アルモノナラハ何ソ村吏ノ身分ヲ以テ此ノ如ク反對ニ二様ノ奥印ヲ爲スノ道理アラナヤ

四 又地券發行ノ事ハ恰モ其所有ヲ確定スルノ際一般人民ノ了知スル所ナルノミナラス乙第一號乙第四號地券確定ノ公簿其他乙第二號轉賣證ノ如キ總テ村役場ニ登記ノ手續ヲ爲セシ上ハ一般人民之レヲ了知スルハ法律ノ認ムル所ニシテ知ラスト云フヲ許サ、ルモノナリ果シテ然ラハ被上告者ニ於テ其所有權ニ侵害ヲ來スモノヲ恬トシテ不問ニ措クノ理アラナヤ

五 又八代源兵衛カ證言ノ如キ被上告第一號證ノ奥印帳ヲ引繼ク際櫻井榮藏ヲシテ之レニ割印ヲ爲サシメ相違ナキヲ證セシメタリト僅ニ榮藏ニ依リテ其心證ト爲セシト見レハ其證言何ソ信スルニ足ラン

六 又流地證ナシト斷言セシコトナシ仮リニアリトスルモ前項ノ事實ニ依リ乙第一號乙第二號第四號證ノ如ク被上告者カ其所有ヲ既ニ拋棄セシコト明レハ敢テ右ノ斷言ヲ以テ被上告者ニ利ヲ與フル材料ト爲スヲ得サルモノナリ然ルニ前掲ノ如ク裁判セラレタルハ不當ナリ

七 右等ノ法理ヲ要領トシ論究シタルニ之ニ對シ審理ヲ下サレカリシトノ事

第二條

同判文第三條中（古川庄左衛門カ呈供スル第一號證ヲ以テ論地ヲ買受ケタル引合人楢垣三郎治ヨリ番外第一二號證ノ古證文ヲ示サレタルニ因リ被告所有タルヲ認メ直ニ賣買ノ契約ヲ成シタリト云フモ云々被告ニ對シテ所有權ノ認ムヘキ證據トスルニ足ラス）ト古川庄左衛門カ單ニ該古證文ヲ以テ飯塚直衛ノ所有ヲ認メタル如ク判シテアレハ決シテ然ラス古川庄左衛門ハ村役場ニアル名寄帳ニ論地ハ飯塚直衛ニ入ルト記シアリテ質入ト記載ナク正ニ飯塚直衛ノ所有ニ移リタルヲ知り買取リタリ（勿論當時ニアリテハ地所賣買ヲ以テ所有ノ轉セシモ）古證文ノ事ハ賣買ノ手續トシテ申立テアルニ其要領ノ申立ニ辯明ヲ與ヘスシテ枝葉ニ屬ス可キ古證文ノ點ノミニ辯明ヲ下サレシハ審理不盡ナリ

第三條

同判文第四條中（明治十年四月中本證書即チ第二號證ヲ稻葉正邦ヨリ委任ヲ受ケタル生間信安ヨリ受取リタリトノ事ナレハ右正邦ハ論地ノ所有者ニ非レハ委任ノ効ナク又該證ノ與證ハ當時戶長櫻井二三郎ニ請求スヘキ筈ナルニ同人ヲ攔キ書戶長櫻井甚吾ノ與書ヲ受クル如キ事實ヲ見ルモ云々古川庄左衛門ニ於テハ其所有權ヲ得サル者トス）トアレハ稻葉正邦飯塚直衛生間信安等ノ間ハ前項ノ如キ事實アリテ直衛ノ死後信安ニ於テ其事務ヲ引繼キ地方人民信シテ本訴田地ヲ賣買セシモノナレハ更ニ疑フ可キ所ナシ抑モ事實タルモノハ時ノ形勢事態ニ依リ成立ツモノニシテ必ス法律及ヒ規則等ヲ以テ論證ス可キモ

ノニ非ス勿論法律ハ結果ヲ重ノス可キモノニシテ本訴田地ノ如キ乙第一號證乙第四號證ノ如ク一村人民村役人及ヒ行政府ノ公認ヲ經テ其所有ヲ確定セシモノナレハ單ニ事實ノ規則ニ適セサルヲ以テ所有權ヲ剝奪スルヲ得サルナリ

第四條

同判文第五條中（櫻井甚吾ハ云々）（中）本案第三條記載ノ事實ニ關涉シ其賣買ノ成立公正ニ非ルヲ承知シ居リ未ダ公證ヲ受サル中直チニ古川庄左衛門ヨリ公地即九筆ノ田畑ヲ買得タルナレハ云々所有權ヲ得サル者トス）トアレハ前條ニ論セシ如ク事實ハ一般ノ法律規則ニ適該シテ論ズルヲ得サルノミナラス乙第一號證并乙第四號證ノ如ク上告人古川庄左衛門櫻井甚吾等カ所有タル公證ヲ經尙ホ乙第二號證ノ如ク根本嘉三郎へ轉賣ヲ爲セシ等ノ公ケナル結果ノ所爲ヲ見レハ其賣買ハ法理上眞ノ事實ト謂フ可シ加之同判文第六條中（根本嘉三郎云々）（中）名寄帳地引帳皆甚吾ノ名義ナルヲ見レハ其所有タルヲ確認スルヲ得ヘク又其公證ヲ受ケタルヲモ亦確實ナルニ付該賣買ハ正當ノ手續キテ盡シタルニ由リ嘉三郎ニ於テハ所有權ヲ得タル者トス）トアリテ之ヲ要スルニ名寄帳及ヒ地引帳ハ上告者櫻井甚吾ノ所有タル確證ナルニ依リ根本嘉三郎ノ轉賣ハ効アリトノ趣旨ナリ然ルトセハ該證ニハ上告人古川庄左衛門ノ田地モ同シク記載シアレハ庄左衛門ニ取リテモ所有ノ確證タル知ル可キナリ夫レ斯ノ如ク名寄帳地引帳ハ所有ノ確證ト茲ニ判定シナカテ判文第四條第五條ニ於テハ該公認ノ兩証ヲ擯斥シ古川庄左衛門櫻井甚吾ハ其所有權ヲ得ズト判定セシハ何ト云フコトヤ苟モ根本嘉三郎ニ所有權アリト云フ上ハ右兩名ニ所有權

アルコ論ヲ俟タサル可シ何トナレハ同一タル名寄帳地引帳ノ公簿ヲ以テ根本嘉三郎ノ一方ノミニ効ヲ與ヘ直接ニ證據ノ關係ヲ有セシ古川庄左衛門櫻井甚吾ニ効力ナシトハ法理ニ於テ有ル可ラサル事ナレハナリ抑又根本嘉三郎カ買受證書ニ與印セシ村吏ハ誰ナルソ被上告甲第一號證ニ與印シタリト云フ同一ノ櫻井二三郎而シテ名寄帳地引帳ニ與印ヲ爲セシモ亦同一ノ櫻井二三郎ナリ甲第一號證ハ有効ノモノナラハ何ソ村吏ノ職ヲ以テ反對ノ與印ヲ爲スヲ得ンヤ然ルチ右ノ如キ前後矛盾ノ裁判アリシハ不法ナリトノ事
本院ニ於テ辨明及判決ヲ與フル左ノ如シ

辨明

第一條

要旨第一條第一項ヲ案スルニ被上告第一號證與印帳ハ其本書ヲ主管スル戸長代理八代源兵衛ノ申供ニ依レハ出所不確カノ書類ニ付裁判上信憑スヘキモノニアラスト論駁シタルニ此要點ニ對シ何等ノ判決ヲ與ヘスシテ被上告第一號證與印帳ヲ採用セラレタルハ不盡ナリト云ニアレト現ニ戸長役場ニ於テ之ヲ公簿ナリトシテ取扱居ルコ戸長代理八代源兵衛カ明治十五年十月二日申供ニ本訴論地ハ與印帳ニ記載アル所ハ原告第一號證ノ通り質地ノ名義云々トアルニテ明カナルノミナラス櫻井榮藏ハ舊事務掛ニテ役場帳簿ヲ預リ居リシトノ事柄ナレハ同人ノ引繼ハ相當ノ資格アリ取計タルモノト看做サ、ルチ得ス左スレハ右等論辨ニ對シ審判ヲ與フルハ殆ント無用ノ手數ニ歸スヘキヲ以テ原裁判所カ右論辨ニ對シ何等ノ裁判ヲ與ヘスシテ被上告第一號證與印帳ヲ採用シタリシトテ審理不盡ト云チ得サルモノトス

第二條

同上第二三四項ヲ案スルニ被上告者ノ申立ニヨレハ其第一號證與印ノ公務ニ當レル者ハ櫻井二三郎ナリト而シテ乙第一號證地引帳ニ村總代トナリ連印ヲ爲タルモ同第二號證上告人ノ内櫻井甚吾ヨリ根本嘉三郎ヘ論地ノ内幾分ヲ轉賣スル節戸長ノ資格ヲ以テ與印シタルモ同第四號證名寄帳(明治九年度名寄帳)ニ村立會人トナリ連署調印爲シタルモ皆同一ノ二三郎ナリ被上告第一號證カ効力アルモノナラハ村吏ノ身分ヲ以テ斯クニ様ニ與印スルノ道理コレナク且地券發行ノ事ハ其所有ヲ確定スルノ際ニシテ一般人民ノ了知スル所ナルノミナラス乙第一號四號地券確定ノ公簿其他同第二號證轉賣ノ如キ村役場登記ノ手續ヲ爲セシ上ハ一般人民ノ知ラスト云チ許サ、ルモノナリ左レハ被上告者ハ其所有權ヲ侵害セラレテ不問ニ措クノ理アラソヤト論シタリシニ此兩點ニ對シテモ何等ノ審判ナカリシト云ニアレト被上告第一號證與印帳ノ公正ナル以上ハ爾後ノ成立ニシテ之ニ反スル公認等ハ總テ錯誤タルニ相違ナカルヘク且地券發行ノ際被上告者カ地券受ノ手續ヲ爲サ、リシハ一時ノ不念タルニ過キスシテ假令第一二四號證ノ如キ公認アルモ被上告者ハ必ス之ヲ知ラサルチ得スト云フ法規ナケレハ之カ爲メ所有權ヲ拋棄シタリト論スルコトヲ得ヘカラス由是看之上告者カ右ノ論辯ハ到底立ツコトヲ得ヘカラル筋合ニ付原裁判所ニ於テ之ニ對シ裁判ヲ與ヘサリシトテ不法ト云ヘキモノニ非ストス

第三條

同上第六項ヲ按スルニ流地證ナシト斷言シタルコトナシト云ニアレト被上告者ノ内雄次郎代言

人カ明治十五年九月廿二日同十月四日兩度ノ口供ニ併シ流地ニ買受タル證書等ハコレナシトアリテ原裁判ハ之ニ依リ掲載シタルモノナレハ今更流地証ナシト斷言シタルコトナシト云フヲ得ヘカラス而シテ上告第一號證以下ノ證書ニ付テノ辯論モ前條ノ辯明ノ如クナレハ俱ニ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス

但同上第五項ノ論辯ハ第一條辯明ニヨリ了解スヘシ

第四條

同第二條ヲ案スルニ上告人ノ内古川庄左衛門カ飯塚直衛ノ代權人ヨリ論地ヲ買取タルハ名寄帳(戸長ヨリ出シタルモノ)ニ飯塚直衛ニ入ルトアルニヨリテ所有ノ移リタルヲ知リ買取タルモノニテ古證文ノ事ハ賣買ノ手續ニ申立タル迄ナリト云ニアレハ原書類中右ノ如キ申立アリト見ルヘキモノコレナク偶々櫻井甚吾ノ申立中之レニ同シキ陳辯アルモ名寄帳ニ所謂入ルトハ質入ノ旨趣ニ解釋セラレテ之ヲ動かカス能ハサル以上ハ飯塚直衛ニハ未タ所有權ノ移ラサルモノナリ左レハ同人カ賣タル賣買ニ効力ヲ有シカタク勿論ナルニヨリ原判文中右等ノ事由ヲ書載セサリシトテ破毀ノ原由トスルニ足サルモノトス

第五條

同第三條ヲ案スルニ稻葉正邦ト飯塚直衛トハ舊君臣ノ關係アリテ本件ノ地所ノ事務ヲ引繼キ地方人民信シテ賣買シ村役場及行政官ノ公認ヲモ經タルモノナレハ事實ノ規則ニ適セサルヲ以テ所有權ヲ剝奪スヘキモノニ非スト云フニアレハ原判文ノ旨趣ハ正邦ト直衛トハ如何ナル關係アルモ被上告者ハ毫モ之ヲ知ラサルノミナラス直衛ニスラモ移ラサル所有權ノ

正邦ニ移ルヘキ道理ナシトノ事ニシテ條理適當ノ判決ナレハ右等地方人民信シテ賣買シタル等ノ事ヲ以テ上告スルヲ得サルモノトス如何トナレハ如何ニ多數人民カ信用シ村吏行政官等カ之ヲ公認シタリシトテ眞ノ所有者カ諾セサル賣買ノ効力ヲ有スヘキ道理ナクハナリ

第六條

同第四條前半ハ前條同一ノ論旨ナルヲ以テ別ニ辨明セス同條後半ヲ案スルニ櫻井甚吾ト根本嘉三郎トノ賣買カ有効ナルハ庄左衛門甚吾ノ賣買モ有効ナリト云ニアレハ乙第一號証地引帳及同第四號證名寄帳等ニ庄左衛門甚吾ノ名前トナリシ所以ヲ究ムレハ庄左衛門ハ正邦ヲ所有者ト誤認シテ買取リ甚吾モ同様ノ手續ニテ轉賣シタリトノ事ナレハ俱ニ効力ヲ有シカタク論ヲ俟タサルモノナリ左レハ嘉三郎ハ如何ナル裁判ヲ受タリトモ其レハ同人ト被上告人ノ關係ニシテ之カ爲メ庄左衛門甚吾ノ買得ニ影響スヘキ道理ナキニヨリ亦以テ上告ノ理由トスルニ足ラサルモノトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ本上告ハ受理セサルモノナリ

○第四百八十四號

約定履行建家取戻一件上告ノ判文(明治十七年二月廿三日上告年十月三日申渡)

新潟縣越後國古志郡長岡表五ノ町三十二番地平民

上告人

星 忠 吾

同縣同國同郡同町同番地士族

上告人

稻 垣 平

東京府京橋區本材木町三丁目廿

五番地寄留靜岡縣平民

右兩名代人

平 野 仁 平

新潟縣越後國三島郡大村平民

被上告人

小 林 作 倍

東京府京橋區木挽町七丁目一番

地

右代言人

大 久 保 端 造

上告要領

一 抑モ本訴ノ起訴者タル被上告人ハ甲第一號證ヲ以テ池田梁作ニ係リ家屋明渡シヲ要
 求スルモノニシテ梁作ニ於テハ之ニ答フルニ本賣買ハ其實不正ニ成立タルモノナレハ
 賣代金ニ相當ノ利子ヲ添へ返還スルヲ以テ賣買契約ノ解除ヲ乞フニアリ而シテ上告人
 ニ於テハ被上告人ト梁作トノ賣買ニハ毫モ關係ナキモノナルニ始審法官ハ其明渡シヲ
 上告人ニ命シタルハ越權ノ處分ナルヲ以テ控訴セシニ原裁判所ニ於テ之ヲ採用セラレ
 サルハ不法ナリトノ事

一 原判文ニ(池田梁作稻垣平ヨリ家屋ヲ買收シ(中)平ハ更ニ之ヲ星忠吾ナルモノニ自
 己負債代償ノ抵當トナシ)云々トアレハ全ク負債代償ノ抵當ニアラスシテ讓リ受ケタ
 ルモノナル事ハ上告丙第三第四號證ニ明ラカナリ然ルチ原裁判所カ前掲ノ如ク裁判セ
 シハ不法ナリトノ事

一 原裁判所ハ上告人カ被控訴人ノ中ナル池田梁作ニ對シ控訴權ヲ拋棄セシト裁判セラ
 レタレハ決シテ控訴權ヲ拋棄セシト申立タルコト之レナキハ勿論上告人ハ丙第五號證ノ
 如ク梁作カ答辯ヲ待テ裁判アラソコトヲ請願シタリキ然ルチ原裁判所ハ之ヲ採用シナカ
 ラ右ノ如ク裁判セシハ不法ナリトノ事

一 被上告人ト池田梁作トノ間ニ爲セシ本案家屋ノ賣買タルヤ梁作カ始審裁判所ニ於テ
 事實不正ニ成立シモノナル旨ヲ申立タリ然ラハ被上告甲號證ニ公證アルモ無効ニ屬ス
 へキモノナル而已ナラス上告者ハ其賣買ニ毫モ關係ナケレハ該證書ノ爲メニ上告丙第
 一號證ノ効力滅却セラル、ノ謂レナシ原裁判所ハ是理ヲ審明セス單ニ公證ノ點ニ依據
 セラレタルハ不當ナリトノ事

一 凡訴訟引合人ナルモノハ訴訟者ノ請願ニ依リ裁判所へ召喚セラル、モノナルヲ以テ
 其訴訟入費ヲ擔當スルノ謂レナシ上告人ハ元ト引合人ナルヲ以テ控訴ノ入費ハ始審曲
 者ノ負擔タルヘキヲ論テ俟ス然ルチ原裁判所カ(控訴ニ係ル訴訟入費原告(上告)ヨリ
 償却スヘシト)裁判セラレタルハ不法ナリトノ事

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

本案上告ハ總テ五點ニ分テリ而シテ其第一第二第四第五點ハ原裁判ヲ破毀スヘキ理由トナシ難キモ其第三點ハ原裁判ヲ破毀スヘキノ理由アルモノトス其理由左ノ如シ

上告第一點ハ上告人等ニ於テ被上告人ト梁作トノ家屋賣買ニハ毫モ關係ナキモノナルニ其明渡チ上告人等ニ命セラレタルハ越權ノ處分ナルヲ以テ控訴セシニ原裁判所カ之ヲ採用セザリシハ不法ナリト云フニ在リ然レモ原裁判所カ上告人等ト梁作トノ契約ハ以テ梁作ト被上告人ノ契約ノ効果ヲ奪フ能ハサルモノト判定セシ限リハ假令上告人等ニ於テハ梁作ト被上告人トノ賣買ニハ關係ナキモ被上告人ノ請求ヲ拒ムヘキ權利ナキモノナルニ因リ原裁判所カ上告人等控訴ノ旨趣ヲ採用セザリシハ不當ニアラス

上告第二點ハ原判文ニ抵當トアルモ抵當ニアラス讓渡シナリト云フニ在リ好シ上告人申立ノ如クナリトスルモ公證ノ證書ト公證ヲ經サル證書トノ効力如何ノ點ニ於テ其差異ナキヲ以テ原裁判ヲ破毀スルノ理由ト爲スニ足ラス

上告第三點ハ原判文ニ(原告)上告人等(被告)梁作(控訴被告ノ一人)ニ對スル控訴權ヲ棄ツトアレトモ上告人等ハ曾テ控訴權ヲ拋棄セシ事ナク返テ梁作ノ答辯ヲ待ツテ判決アラントテ請願シクナリト云フニアリ之レヲ原裁判所ヨリ送致スル所ノ簿冊ニ徴スルニ左ノ如シ

明治十六年十一月十九日控訴原告代人平野仁平ノ口供

被告池田梁作義未タ答辯書ヲ呈セス就テハ原告代人ハ本日電報ヲ以テ本人ヘ問合せ來ル廿六日午前第九時迄ニ被告梁作ヲ相手取義ハ拋棄スルヤ否必上申可致候若同日迄ニ上申不致候ニ於テハ右被告池田梁作ヲ除キ此儘御裁判相成モ不苦候事

明治十六年十一月廿六日付右平野仁平上申書

去ル十九日御受任候ヲ以テ本人(星忠吾)ニ照會仕候處本人ニ於テ別紙電報寫ノ如ク相被告池田梁作ニ於テ答辯仕度旨申來候ニ付何卒右池田梁作ノ答辯書捧呈アル迄御裁判御見合被下度又委細ノ申越ニ就テモ又候上申仕候間旁前述ノ次第ナレハ事情御洞察アラセシレ相被告池田梁作ノ答辯書到着迄御裁許御待受被下度奉願候也(別紙電信ノ寫存ス)

右書面ノ外更ニ池田梁作ヲ被控訴人中ヨリ除名スルノ書面アルコトナシ而シテ右平野仁平カ上申書ニ據レハ被告池田梁作ノ答辯ヲ待テ裁判アラントテ請願センコト明ナルニモ拘ハラヌ、梁作ノ答辯ヲ待タズ裁判宣告セシハ聽斷ノ定規ニ乖ケル裁判ナリ

上告第四點ハ被上告人ト梁作トノ家屋賣買ハ不正ナリト梁作ノ申立アルニヨリ公證アルモ無効ト云フニ在リ然レモ賣主タル梁作カ不正ナリト申立タリトテ公證ノ手續キテ經テ賣買セシ條件カ直チニ無効トナルヘキ條理ナシ

上告第五點ハ上告人ハ元引合人ナルニ控訴入費ヲ負擔セシメラレタルハ不法ト云フニアリ然レモ上告人等假令ヒ始審ニ於テハ引合人アリシニセヨ控訴原告トナリ其控訴ニテ曲者トナリシ以上被控訴人ノ入費ヲ負擔スヘキハ當然ナリ

右説明スル如キ理由ナルヲ以テ東京控訴裁判所カ本案ニ對シ言渡シタル終審裁判ノ中上告第三點ノ條件ヲ破毀シ更ニ適當ノ裁判ヲ受ケシソノカ爲メ宮城控訴裁判所ニ移スモノナリ

但上告第一第二第四第五ノ點ハ上告ノ理由トナヌヲ得ス

上告入費ハ被上告者負擔スヘシ

貨物代償金要求一件上告ノ判文(明治十七年三月三十一日上告) 年十月八日申渡

東京府京橋區尾張町二丁目十二番地平民

上告人

兒島喜三郎

同府同區三十間堀三丁目十二番地寄留長野縣士族

右代言人

小川正直

同府日本橋區佐内町三番地平民 内國通運會社頭取

被告上告人

佐々木惣助

本件ハ上告人ノ起訴ニシテ其訴旨タル本訴ノ貨物即洗釜并ニ附屬品ハ舊高田石油會社ヨリ上告人ニ對シ貸金ノ抵當トシテ差入アルモノナリ然ルニ被告上告通運會社ハ上告第一號証ノ如ク右事實ヲ承諾シ居ナカラ該貨物運搬ノ際石油會社ニ引渡シタルヨリ上告人ハ大ニ損害ヲ被リタリ依テ償金ヲ要求スト云フニ在リ
被告上告通運會社拒辯ノ要趣ハ石油會社ヨリ上告人ニ對シ該貨物ヲ抵當トナシアリシカ如キハ被告上告ニ於テ毫モ知ル所ニアラサレハ右要求ニ應スヘキ理由ナシト云ニアリ
上告人ハ始終審共ニ敗訴シタリ

東京控訴裁判所裁判ノ要旨左ノ如シ

一原告(上告)一號證ハ被告(被上告)會社職業上ノ遞送請負證ニ過キストノ事

一原告第二號證石油會社ヨリ原告ニ差入タル洗釜等ヲ抵當トシ金圓借用書ノ契約アルモ被告ハ關係セサルモノナリトノ事

一被告通運會社ハ豫約ノ如ク該貨物ヲ信州矢代驛ニ於テ石油會社ヘ引渡シタルモノナリト認定ストノ事
因之原告ノ要償不相立ト申渡シタリ

右ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告スル主點左ノ如シ

一 上告甲第一號証ヲ被告上告會社ノ營業上通常一般ノ切符ト同一ナリト誤認サレタリトノ事

二 被告上告會社ハ上告甲第一號証ヲ荷主ヨリ上告人ニ流用セシメテ承諾シタルニ原告官ハ其證ナシトサレタリトノ事

三 中牛馬會社カ被告上告會社ノ代理トナリシ證據アルニ原告官ハ無之トサレシトノ事

四 本訴ノ貨物ハ實際信州矢代驛ニ於テ受渡シタルモノニ非サル證據數多アルニモ拘ハラス原告官ハ矢代驛ニテ受授シタルモノトサレタリトノ事

大審院ニ於テ辯明并ニ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辯明

右第一主點ト上告補遺書ヲ參照シ之ヲ按スルニ原告官ハ上告甲第一號証ニ付被告上告人ノ供

述ト該證ノ明文ニ憑リ之ヲ營業上ノ請負證ニ過キサルモノトシタリ然ルニ上告人ハ該證明文中ニ此證引換物品相渡可申云々ノ文ト信州矢代驛ニ於テ甲第一號證ト物品ト引換サリシト主張シ又被上告代理者ノ始審申供トニ依リ特別ノ請負證ナリト申立ツルモ畢竟原判官ト見解チ異ニスト云フニ過キサルヲ以テ破毀ノ因山ト爲スヲ得サルモノトス

第二主點チ按スルニ上告人ハ上告甲第一號被上告乙第一號兩證ノ文チ援來テ被上告會社ハ上告甲第一號證即運搬請負證ノ流用ヲ許諾シタルモノナリト云フニ在レモ抑モ如斯キ請負證ヲ流用スヘキ道理ナキノミナラス右兩號證書ニ依ルモ會テ流用ヲ許諾セシノ點アルヲ見ス左レハ是亦右兩號證ニ付原判官ト見解チ異スト云フニ過キサレハ上告ノ原由ト爲スヲ得サルモノトス

第三第四ノ主點チ按スルニ上告人ニ於テ被上告會社ハ豫約ノ如ク貨物ヲ信州矢代驛ニテ引渡シタルニアラスシテ尙中牛馬會社ヲ代理トシテ遞送セシメタル旨被上告乙第一號證ノ與書ヲ引テ申立ツルト雖モ乙一號證與書ハ石油會社ニ於テ被上告豫約ノ如ク貨物ハ信州矢代驛迄着シタルヲ受取夫ヨリ中牛馬會社へ遞送方ヲ委托スルト云シ趣意ヲ承知シタリト云フ迄ニテ被上告カ中牛馬會社ニ遞送代理セシメタル廉見ルヘキナシ左スレハ原判官カ上告人ノ供述ト被上告人ノ供述トヲ取捨シ被上告乙第一號證文面ノ如何ニ關セス事實石油會社カ被上告會社ヨリ受取り石油會社ニ於テ更ニ中牛馬會社へ依托セシヲ承認シタルハ不當ニ非ストス

判決

右ノ筋合ナルニ依リ本上告ハ受理セサルモノナリ

○第四百八十六號

證券取戻一件上告ノ判文(明治十七年二月十三日上告) 全 年十月八日申渡

愛知縣尾張國名古屋區長島町二丁目十三番邸平民

上告人

田 所 甚 之 助

同縣同國同區大津町四丁目百四

十一番邸平民

上告人

高 原 良 助

同縣同國同區白壁町一番地士族

右代人

杉 浦 鋼 太 郎

同縣同國同區高岳町廿番邸平民

被上告人

市 田 直 磨

東京府神田區美土代町一丁目二

右代人

早 川 置 造

番地平民

上告ノ要領

第一條

本按上告人カ取戻シテ要求シ被上告人ニ於テ之ヲ抗拒スル被上告第四號證即チ金千零三圓七拾七錢六厘ノ預リ金證券タルヤ爰ニ其成立ノ因由ヲ釋スレハ被上告人ハ素ト名古屋區菅原町櫻天神社舊靈岳院ノ住職ニシテ該社カ上告人ノ雇使セラル、下村正太郎支店ト相隣シ且支店カ之ヲ歸依スルヨリ隨テ支店ノ前支配人前田長兵衛ナル者被上告人ト親シク交ヲ結ヒタリシカ曾テ明治四年度被上告人ニ於テ該院天神社神樂殿建設チ名トシ神樂講ト云フチ企テ而メ衆望ヲ維カンカ爲メ前田長兵衛ニ依頼スルニ雇主下村家ノ名義ヲ以テ該講金ノ取締ヲランヲ以テセシニ長兵衛ニ於テ私好ニ徇ヒ雇主ノ許諾ヲモ經ス私擅ニ之ヲ肯シタル趣爾來長兵衛カ數年間該講件ニ干渉シタル未講金ノ計算ニ關シ被上告人ニ於テハ尙ホ可受取金額アリト云ヒ長兵衛ニ於テハ頗ル渡過トナリテ己レニ算還ヲ受クヘキ者アリト云ヒ其紛議未タ局ヲ結ハサル中右長兵衛ハ明治十四年三月右等不都合ノ廉チ以テ雇主正太郎ヨリ支店支配役解任セラレ上告人甚之助代テ支配人トナリタリ此際長兵衛ニ於テ該講金計算完決セスハ自己ノ不利益ヲ來シ且將來ノ煩累ヲ免レ難キヲ慮リ酷ク被上告人ニ其精算ヲ迫ルト雖モ被上告人ニ於テハ長兵衛已ニ支配役ヲ解カレタル以上ハ取ルニ足ラサル身分ナルヲ以テ其豫シメ計算シ自己ニ受取ルヘクト思料セラレ、金圓ニ對シ先以テ跡支配人タル上告人甚之助并雇主下村正太郎代理ノ者一名カ連署セシ預リ金證券ヲ授ケスハ決シテ精算ヲ遂ケスト主張シテ聽カス爲メニ長兵衛ハ殆ント爲ス所ヲ知ラサルノ窮境ニ陥リタリ然ルニ登時被上告人ト長兵衛トノ間ニ居テ仲裁ニ奔走スル被上告人ノ朋友藤木賢市ナル者アリ切ニ上告人ニ慫慂スルニ上告第四號證第一項ノ

如キ意ヲ以テシ且被上告人ニ於テモ上告第一號證ノ一ナル反證ヲ致スヲヲ諾シタリ爰ニ於テ上告人ハ舊同僚タル長兵衛ノ窮困ヲ坐視スルニ忍ヒス且ハ該講件ノ葛藤タル何部分歟主家ニモ關係ヲ及ホスナラント誤慮シ以爲テク良シヤ假リニ何等ノ證券ヲ與フルモ上告第一號證ノ一ナル草按通りノ反證ヲ被上告人ヨリ領取シ而メ精算ヲ遂ケシムルニ於テハ敢テ妨クル所ナカラント竟ニ誤テ藤木賢市ノ指示誘導ニ乘シ上告第十三號證右賢市カ起算セシ原案ニ倣ヒ則チ西京雇主下村正太郎本店ノ指命書ヲ偽造シ之ヲ根基トシテ被上告人ト談判シ而シテ上告第一號證ノ二ナル賢市カ草按ノ如ク私ニ雇主正太郎代理杯ノ名稱ヲ濫用シテ被上告第四號證即チ本按所爭ノ證券ヲ作り上告中第二號證ニ信憑ヲ措キ藤本賢市及被上告人列席ノ上之ヲ授附セシ處豈料ラン被上告人ハ之ヲ受取ルヤ否ヤ上告第五號證第四項ノ如ク忽チ謂レナキ苦情ヲ唱ヘ前約ヲ食フテ上告第一號證ノ一ナル交換證ヲ上告人ニ與ヘス爾後數回ノ督促ヲ爲スモ恬トノ相應セズ彼是時日遷延シ將サニ本按證券ノ金圓支拂期限ニ垂ナントスルニ際シ上告人ハ始メテ被上告人等ノ爲メ詭欺ヒラレタルヲ覺知シ深ク主家ノ文書ヲ偽造シ主家ノ名稱ヲ濫用シテ無原由ノ証券ヲ作りタル行爲ノ非ナルヲ悔悟シ乃チ明治十四年八月申右ノ顛末所轄名古屋警察署へ自首ニ及ヒ續テ名古屋裁判所糾問掛ニ於テ主唱者藤木賢市始メ連累者一同糾彈ヲ蒙リ而シテ後明治十五年三月中名古屋輕罪裁判所ニ於テ上告第三號證ノ如ク上告人ハ藤木賢市ノ從トシテ處刑ノ宣告相受タリ本案證券ノ成立以上ノ理由ニ係ルヲ以テ初メ名古屋警察署ニ於テ該證ハ其預リ人タル襟村石英ナル者(被上告人ノ朋友ニシテ神樂講事件ニ關係ヒシモノ)ノ手ヨリ犯罪ノ證據物件トノ押收

セラレタルカ故ニ上告人ハ最早廢滅シタルコト、心得其儘抛過シタル折柄該證ハ煤村石英カ其筋ヨリ下附ヲ乞ヒ而シテ全人ヨリ被上告人へ轉與セシモノト相見へ明治十五年十二月中被上告人ヨリ突然之ヲ掲ケ上告人ニ係リ勸解ヲ仰キ續テ預ケ金受戻シト題シ明治十六年一月中名古屋始審裁判所へ起訴及ヒタルニ付上告人ハ全ク錯誤ヲ以テ成立シ無原由ノ證券タル所以ヲ答辯セシカハ被上告人ニ於テ稍辭屈シテ願下ケヲ爲シタリ爰ニ於テ上告人以爲ラク右等無効證券ノ現存スル故ヲ以テ屢雇主ノ名義ニ迄關係ヲ及ホシテハ雇人タル上告人ニ於テ雇主其人ニ對シ相濟マサレハ速ニ其根ヲ斷ツニ如カスト翻テ被上告人ニ係リ同裁判所へ向ツテ本案證券取戻ノ詞訟ヲ提起シ上告人竟ニ直者ノ裁判ヲ得タリ被上告人ハ之ヲ不服トシ明治十六年六月九日名古屋控訴裁判所へ控訴ニ及ヒシヲ以テ上告人モ召喚セラレ數回ノ對審ニ於テ上告人ヨリ本案證券ノ成立錯誤ニ罹リ無原由ナル所以被上告人カ上告第一號證ノ一ナル反證ノ交換ヲ違約セシ事并被上告人カ本案證券ノ無効ヲ認メタル訟廷上ノ自認アル事等一々其證左チ舉ケテ答辯セシニモ拘ハラス原裁判所ハ第一本案證券ノ原由如何ヲ審究セラレス第二被上告人カ交換證ノ破約ヲ不問ニ附シ第三自認ノ證ハ一ハ謂レナク之ヲ打消シ一ハ不問ニ置カレ到底上告人ノ訟理不立旨ノ判決ヲ下サレタルハ頗ル不盡不法ノ裁判ナリト思料セラル、ヲ以テ今回上告ニ及ヒタル所以ニ有之候

第二條

原判文第二條中ニ曰ク〔本訴證券ハ業既ニ雇主下村正太郎ニ於テ該負債返辨ノ義務ナキ

ハ明カナリト雖モ未タ一個人タル被告等モ亦該義務ヲ消散セシムルニ足ラサルナリ何トナレハ本訴ニ於テ被告等ノ陳述ニ本證券ノ義務ハ下村支店ノ負擔シタルモノニアラス全ク一個人タル前田長兵衛ニ關スルモノナルヲ被告等ハ誤テ長兵衛ノ依頼ニ應シ該證ヲ原告へ差入レタリトノ事ハ自白スル所ナレハナリ〕トアリテ此判文ノ意タル恰モ上告人ニ於テ本案證券ノ金圓ハ當然前田長兵衛カ盡スヘキ義務ナルヲ認了シテ差入レタリト云フニ在ルカ如シト雖モ這ハ大ニ正鵠ヲ失シタル謬見ナリト謂ハサルヲ得ス何トナレハ本案證券ノ因由ニ於ケル前田長兵衛其人ニ負擔シタル義務アルヲ上告人ニ於テ之ヲ認了シ而シテ其代償ヲ肯シ證書上自己カ姓名ノミ記載スヘキ所ヲ私擅ニ其側へ主家代理若クハ支店擔當人等ノ傍書ヲ濫記シタル成立ナラハ或ハ然ランナレトモ前條陳述スルカ如ク素ト前田長兵衛ニ糸毫ノ義務アルニ非ラス必竟上告人ニ於テ被上告人カ講金ノ精算ヲ拒ハミ長兵衛ヲ困迫セシムルヲ見ルニ忍ヒス只管被上告人ヲ該精算ヲ遂ケシメント欲スルノ餘誤テ藤木賢市ナル者ノ誘導ニ乘シ主家ノ命ヲ奉シタリト詐稱シ一時被上告人ノ要求ヲ充シ而シテ上告第一號證ノ一ナル反證ト交換センカ爲メ假リニ作爲セシ証券ニシテ素ヨリ何等義務ノ義務タル所以ノ原由ナキ恰モ空中ノ幻像ト一般ノ成立ナルハ上告第一號第四號第八號證ニ徴シテ明且確タル而已ナラス被上告人ニ於テモ亦上告第六號證第四項ノ如ク實際此成立ナルヲ及ヒ反證ノ交換ナクハ無効物タルニ相違ナキヲ自認シタレハナリ夫然リ其原由既ニ斯ノ如ク虛無ニ屬シ到底孰レニスルモ一片ノ廢紙ニ比シキ無効物タルヲ確乎トシテ動かカス可ラサル耳ナラス素ト一個人ノ資格ヲ以テセス支店擔當人及

雇主代理ノ資格ヲ以テセシ證券ニシテ其支配人及代理人ノ資格ヲ以テセシ行為カ刑事ノ確定裁判ニ依テ業己ニ消滅ニ屬シタル以上ハ旁獨リ上告人ニ關シ無論其義務ノ存留スヘキ道理萬々之ナカルヘシ況ンヤ被上告人ニ於テモ一個人タル上告人ヨリ受クヘキノ理ナク之ヲ受クルモ無効ナリト斷言スルニ於テテ乎論シテ爰ニ至レハ判文中長兵衛ニ關スル云々ノ語タル必竟被上告人ニ於テ本案爭訟ノ冒頭ヨリ專ラ雇主下村正太郎支店ニ關シタル義務ナリト固執スルニ對シ上告人ニ於テ支店ニ毫モ關係ヲ有セス根源長兵衛其人カ私擅ノ處置ヨリ發生セシ末事終ニ上告人ナシテ長兵衛ヲ救濟セント欲シ錯誤ヲ以テ無理由ノ證券ヲ被上告人ヘ授附セシメシ結果ヲ呈スルニ及ヒタリトノ意味ナル抵拒ニ過キスシテ長兵衛其人カ盡スヘキノ義務アルナリ上告人ニ於テ認可シ誤テ代償ヲ肯ンシ證券ヲ差入レタリトノ意義ニアラサルヤ炳焉トシテ猶ホ火ヲ賭ルカ如シ凡ソ證書ノ有効ナルカ將タ無効ナルカヲ斷セントセハ宜シク前後關係ノ事實ヲ通觀シ各般ノ證據ト參互相照考シ義務ノ原由承諾ノ完否等逐一其審究ヲ遂ケ而ノ後始テ其如何ヲ裁定セラルヘキ筈ナルニ原裁判所ハ事爰ニ出テ本案ニ大關係ヲ有スル上告第一第四第六第八號證等ヲ度外ニ措キ詞訟ノ大體ヲ顧ミスシテ偏頗ニモ上告人カ下村支店ニ拘ハルモノト被上告人ノ攻撃ヲ抵拒セシ片言隻詞ニ拘泥シ剩ヘ其意義ヲ謬解シ未タ義務ノ消散セサルモノト判定セラレタルハ果シテ何等ノ裁判法ニ據ラレタルモノナルカ抑原由ナキ架空ノ義務ニ消不消ノ論アルヘキ謂レナキナリ良シ一步ヲ讓リ假ニ本案證券ヲ有効ナリトスルモ上告人ヨリ之ヲ授ケハ被上告人ヨリ上告第一號證ノ一ナル交換證ヲ致シ而シテ主タル條件即チ講金ノ精

算ヲ遂クルニ在ルヲ以テ上告第五號證第四項ノ如ク被上告人ニ於テ謂レナキ苦情ヲ唱ヘ該交換證ヲ致サス主タル條件ヲ實行セサルニ於テハ上告人ニ於テ此契約ヲ解除シテ一旦交附セシ證券ヲモ之ヲ取戻シ得ヘキハ法理ノ然ラシムル所ナルヲ以テ上告人ヨリ此申立ヲ爲シタルニモ拘ハラス原裁判所カ之ニ對シ何等ノ説明ヲモ與ヘラレサリシハ蓋シ枝葉ノ辯論ト認メラレシニ因ルナランカ否ナ之ヲモ枝葉ト謂ハ、將タ何チカ主要ト云ハソ之ヲ要スルニ原裁判所ノ裁判ハ審理ヲ忽カセニシ法規ニ準據セサル不盡不法ノ裁判ナリト信認ス

第三條

原判文前同條中ニ又曰ク（將又原告代言人カ始審口供ニ若シ原告（控訴ノ被告）カ當時下村正太郎ノ支配人タル資格ヲ以テ取引セサリシモノナリセハ本訴ノ證券ハ原告ヨリ受取ヘキ筈ナキモノニテ被告モ下村正太郎ノ支配人ノ資格ヲ以テセサル原告等ヨリ之ヲ受取ルヲ欲セス由シヤ受取候モ無効ノモノニ有之候トアレモ右申立タル原告カ陳辯ノ全体ニ就キ考量スレハ要スルニ原告カ偏ニ本證券ニ係ル義務ヲ以テ被告ノ雇主即チ下村正太郎ニ負擔セシメントスルノ熱心ヨリ一時斯ノ申立ヲ爲シタルモノト看做サ、ルヲ得ズ況ンヤ原告ハ本訴證券ハ一個人タル被告等ニ對スル權利アルコトハ明確ナリトノ陳述アルニ於テナ乎）ト噫是何等ノ説明ソ抑モ自認ハ諸證中最モ無上ノ効力ヲ有スト云フハ法理上ノ格言ニシテ蓋シモ確乎タル反對證ノ在ルニ非スソハ妄ニ之ヲ打消シ得ヘカラサルヤ固ヨリナリ抑モ本按證券ノ如キ上告第四號證第三項及ヒ第六號證第四項ノ如ク其成立ヤ虛無ナ

レハ雇主下村正太郎ニ對シテハ勿論一個人タル上告人ニ對スルモ素ヨリ權利ノ存在スル
 キモノニ非ス左レハ被上告人ニ於テ下村正太郎ニ關セサルモ一個人タル上告人ニ對シテ
 ハ其權利アリト云フニ於テハ宜シク其然ル所以ヲ證明セサル可テ然ルナリ何等ノ證據モ
 ナク唯僅ニ辯論ノ終結ニ臨ミ自己カ是迄ノ申立不利ナルヲ悟リ翻然正太郎ヨリ義務ヲ得
 ルヲ能ハスハ一個人タル上告人ニ對シテハ權利アリト捕風捉影モ管ナラサル一片ノ上申
 ナ爲シタリトテ原裁判所カ之ヲ金科玉條視シ執テ以テ有力ナル反對證ト齊シク其認定ヲ
 確カムルノ資料ニ充テ用ヒラレタルハ果シテ何等ノ法理ニ根基スル所ナルヤ上告人ハ酷
 マ其了解ニ苦シムナリ例ヘハ或場合ニ於テ金ヲ借リタリト自言シ而ル後時ニ場合ト異
 ニシ復ヒ借リスト主張スル者アランニ其借リタリト云フ前言ニ關シテハ證據ノ看ルヘキ
 性ノアリ其借リスト云フハ唯口頭ノ陳供ニ止マルヲ先ノ有證的ナル自認ヲ打消スニ後ノ
 無稽的ナル陳辯ヲ採用スルト將タ何ノ撰フ所ロカアラン是所謂適法證ニ據ルノ格言ニ反
 シ適法言ニ據ルモノト謂フ可シ豈ニ如斯キ法理アラン乎良シ一步ヲ退ソキ前陳ノ自認ハ
 原裁判所カ說明セラル、如シト假定スルモ尙此他ニ被上告人カ訟庭上ノ自認ノ在ルアリ
 即チ上告第六號證第四項是ナリ這ハ上告第四號證第一項本案證券成立ノ事由及ヒ全第三
 項反證ノ交換ナクシハ無効物タルヲ確認シタルモノナレハ本案ニ於テ最モ大關係ヲ有ス
 ル自認ノ證ナリトス然ラハ則チ此自認タル前陳ノ自認ト共ニ充分ノ說明ヲ與ヘラルヘキ
 ハ言チ埃タサルニ原裁判所ハ唯一個ノ自認ニ付テ非理ナル說明ヲ下シタルノミ他ノ一個
 ハ何等ノ理由ヲモ明示セズ漠然不問ニ附シ去ラレタルハ最モ鹵莽ヲ極メシ不法ノ裁判ナ
 リト思考セラル

第四條

原判文同條ノ末ニ又曰ク(到底被告等ハ前田長兵衛ノ依頼ヲ承諾シ本訴ノ證券ヲ原告ヘ
 差入レタルモノナレハ該證券ニ對スル關係ヲ免カル、能ハサル者トス)トアレ其前條ニ
 陳供スルカ如ク素ト前田長兵衛カ被上告人ニ對シ負フタル義務アルヲ其依頼ヲ受ケ上告
 人ニ於テ正當ニ其代價ヲ承諾セシ純然タル片務契約ニアラスシテ其原由ヤ虛無ニ成リ其
 承諾ヤ瑕瑾アリ其行爲ヤ刑事ノ確定裁判ニ由テ消滅シ其契約ヤ附件即交換證ノ不行アリ
 抑モ爰ニ一アレハ上告人ニ於テ此契約ヲ解除若クハ取消シタル上充分本案證券ヲシテ上
 告人ノ手ニ還戻セシムル權利ヲ有スルヤ固ヨリナリ況ンヤ該數件ノ盡ク具備スルニ於テ
 ナ乎然ルチ原裁判所ハ義務ノ原由契約ノ性質等都テ重要ノ條件ヲ度外視シ剩ヘ本案證券
 カ現ニ被上告人ノ手裏ニ存スル所以ハ必竟其初メ上告人ニ於テ上告第一號證ノ一ナル反
 證ト交換スヘキチ上告第二號證ヲ誤信シ詭欺ニ罹ツテ先ツ之ヲ授附セシカ爲メニシテ眞
 正ニ義務アルチ承諾シテ渡シタル順序ナラサルチ推究セズ恰モ庸醫カ疾病ヲ療スルニ當
 リ其病源ヲ詳カニセス漫ニ外現ノ徵候ニ應シテ藥石ヲ投スルト一般單ニ被上告人カ現在
 之ヲ握持スル點ニ眩惑セテ眞ニ義務アリテ正當ノ順序ヲ踏ミ相渡シタルモノ、如ク皮
 相ノ見解ヲ下タシ(關係ヲ免カル、能ハス)ト曖昧模稜ノ語ヲ以テ説明ノ局ヲ結ハレタリ
 然リ而シテ此關係云々トハ果シテ如何ナル判意ノ上告人ヨリ義務ヲ盡スカ當然ナリト云
 フノ譯カ誠ハ又上告第一號證ノ一ナル反證ヲ得テ主タル條件即チ講金ノ精算ヲ遂ケシメ

以テ義務ノ有無ヲ決スヘシトノ意カ殆ント人ナシテ五里霧中ニ彷徨セシムルモノナリ若シ義務ヲ盡スチ至當トセラル、ナラハ何々ノ理由アルヲ以テ上告人ニ真正ノ義務アリト認定スト明ラカニ示指セラルヘシ或ハ精算ヲ遂ケシムヘキトノ意ナラハ這ハ其爲スト爲サ、ルト偏ニ他人即チ前田長兵衛ノ意向ニ在テ上告人ノ與リ知ル所ニアラス上告人ハ唯契約ノ性質ニ準據シ一方カ反證ノ交換ヲ怠レハ之ヲ解除スルカ若クハ錯誤無原由ヲ以テ取消ヲ求ムルニ止マルヲ以テ裁判上需メ外ニ涉ラルヘキノ理アルナシ到底原裁判所ノ裁判ハ本ヲ棄テ末ニ奔リ一局所ニ拘泥シテ全豹ヲ窺ハサル不盡不法ノ裁判ナリト思考ス

第五條

原判文第三條ニ曰ク(被告等ハ原告ニ係リ本訴ノ證券ヲ取戻シ度トノ請求不相立事)トアリテ其末ニ(訴訟入費ハ被告ノ負擔タルヘシ)ト附記セラレタルハ到底前條々ニ於テ辯明スルカ如ク事物ノ原由ヲ推究セサル臆斷杜撰ノ妄想ヨリ胚胎シ來レルモノニ係ルヲ以テ徹頭徹尾審理ヲ盡サレサル不法ノ裁判ナリト信認ス

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

本案上告ハ左ノ事項ヲ論定スルヲ以テ緊要ナリトス

一被上告第四號ノ證タルヤ假令上告人等カ下村正太郎名古屋支店ノ支配人又ハ雇主代理ノ名義ヲ以テセシ契約ハ無効トナルモ上告人等一己ノ資格ニ對スルノ効力ハ尙ホ存留スルヤ否ノ事

原裁判書類ニ徴シ右論點ヲ審按スルニ抑被上告第四號證ハ下村正太郎名古屋支店ノ前支配

人ナル前田長兵衛ト被上告人トノ間ニ生シタル頼母子講事件ノ紛議ヲ解シカ爲メ上告人等カ一時ノ詐術ヨリ雇主ノ名義ヲ冒用シテ作爲シタル不正ノ證書ナルコトハ刑事ノ確定裁判ニ依テ明白ナリトス事實已ニ此ノ如シ然ラハ則下村正太郎ハ該證書ニ對シ無關係ナレハ上告人等カ其支配人又ハ代理人ノ資格ヲ以テセシ行爲ノ無効タルコトハ論ヲ竣タス故ニ被上告人ハ果シテ上告人等カ爲シタル詐術ノ行爲ヨリ損害ヲ受ケタルアラハ之ヲ上告人等ニ責ムルハ格別已ニ下村正太郎支店ノ支配人又ハ代理人ノ資格ヲ以テセシ行爲ノ無効ナル上ハ上告人等一己ノ資格ニ對シ其効用ヲ存スヘキノ道理ナシ何トナレハ其代理人又ハ支配人ノ資格ナリト云テ爲シタル契約ハ其資格上ヨリ得タル合意ナルヲ以テ若シ其資格カ無効ナルニ於テハ其合意ハ虛無ニシテ全ク無効ノ契約トナルノミ決シテ其契約カ中變シテ一個人ノ資格上ヨリ爲シタル合意ノ契約トナルヘキ道理アラサレハナリ況ンヤ被上告人カ爲シタル始審口供ニ(若シ原告カ當時下村正太郎ノ支配人タル資格ヲ以テ取引セサル者ナリセハ本訴ノ證券ハ原告^{上告}人ヨリ取受ヘキ筈ナキ者ニテ被告^{被上}告モ下村正太郎ノ支配人ノ資格ヲ以テセサル原告等ヨリ之ヲ取受テ欲セス由シヤ受取候モ無効ノ者ニ有之)ト自供シ上告人等カ一個ノ資格ニシテ爲シタル契約ナラサルヲ承認セルニ於テチヤ然ルニ原裁判所ハ支配人又ハ代理人ノ資格ヲ以テ爲シタル契約ノ効力ナキコトハ已ニ認メナカラ一個人ニ對スルノ効力ハ尙存スルモノト認メシハ條理ニ適セサル不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ名古屋控訴裁判所カ明治十六年十二月十三日本訴ニ與ヘタル終審裁判ヲ破毀シ更ニ適當ノ裁判ヲ受クシメシカ爲メ東京控訴裁判所ニ移スモノナリ

但上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

○第四百八十七號

山地境界爭論繪圖面重複取消一件上告ノ判文

(明治十六年七月九日上告) 同十七年十月八日申渡

福井縣越前國足羽郡田尻村平民

島田門右衛門外十八名總代兼同

村平民

上告人

前田利右衛門

山下孫左衛門

同縣同國同郡福井佐佳枝町平民

福田金平

上告人

東京府京橋區桶町廿二番地寄留

中島又五郎

右代言人

福井縣越前國足羽郡三萬谷村總

清水正雄

被上告人

山口甚右衛門

東京府京橋區日吉町十九番地寄

留大阪府士族

北田正董

右代言人

上告ノ要領

原判文中(原告)第二號證ノ境界ハ双方圖面等爲取換タル旨被告承諾シナカラ其境界ノ不正ニシテ取消シニ屬シタリトノ反證ヲ舉ケル能ハサル以上ハ云々被告カ認メタル原告第二號證ノ効力ヲ打破スルニ足ラサルモノトス依テ論山ハ原告村ノ地籍ト相心得ヘキ事ト裁判セラレタルハ不當ノ裁判ナリト信ス凡ソ證據ナルモノハ其事實ヲ證明セシカ爲メ提出スルモノニシテ其事實ト照應シ相符合スルヲ以テ初テ證據ノ證據タル効驗ヲ顯ハスヘキモノナリ若シ證據ニシテ苟モ其事實ト適合セサル時ハ假令ヒ幾干ノ文書アリト雖モ其書類ハ毫モ證據タルノ効力ヲ有セサルハ普通ノ條理ナリ今ヤ被上告第二號證ハ果シテ其事實ニ適合セシ證據ナリヤ否ヤヲ見ルニ其第三項ノ末文ニ(直様田尻村庄屋方へ罷越爲取替證文相認メ村方へ持歸リ小前末々迄爲讀聞一同合點子細無御坐候ニ付重テ書面并ニ村役印形持參田尻村へ罷越一札取遣リ仕候事)トアリ若シ被上告第二號證カ事實ニ適シタル眞正ノ證據ナランニハ當時上告被上告村ニ爲取替タル爲取替證書ナルモノナカル可カラス然ルニ之レカ爲取換證書ナキノミナラス其他被上告者ノ議論ヲ助クヘキ證據ノ端緒タモ被上告者ノ手ニアラサルト上告第十四號ノ配符ニ(其村ト三萬谷村ト先年爲取替ノ證文持參明後四日村役人御役所へ可罷出者也)ト明記シアルヲ參照セハ上告

着カ始審以來陳述セシ如ク一時御免ノ増加チ免レントスル折柄被上告村ハ奸策ヲ以テ自
己ノ地籍内ニ編入セシメ之ヲ奪ハント謀リシモ其不實ナル事發覺シ該爲取替證ハ舊藩ニ
沒收セラレタリトノ事實ニ適當セリ若シモ沒收セラレサルモノトセハ今猶被上告村ニ其
爲取替證書ノ存スヘキニ其證書ノ今日ニ存セサリシハ當時已ニ官沒セラレタルヲ以テナ
リ猶ホ之カ官沒セラレタル事跡ハ上告番外第一號證ニ對照シテ益々明瞭ナリ
抑上告番外第一號證ハ嘉永三年中御免ノ増加チ免レントシテ被上告村ノ奸策ニ陥リ已ニ
上告村ノ地籍ヲ掠奪セラレントセシ時之レヲ回復セシ訴訟（此訴訟ニ因テ原被告ノ爲ニ
取替證ハ沒收セラレタリ）ニ
付舊藩ニ呈出シタル演說書ナリ其文中上告村ノ地籍ヲ被上告村ニ奪掠セラレントセシ手
續ヲ詳記シ其末文ニ（御上様御慈悲御威光ヲ以テ右書取之証文御取揚無御坐其儘ニ三萬
谷村所持罷在候時ハ開田所一丁三反餘并宮地半分餘并居村居屋敷人家半分并持山半分右
ノ箇所三萬谷村ノ物ニ落入田尻村退轉ト相成不容易始末必至ノ難儀仕リ候云々）トアル
ヲ見ルモ嘉永三年度ニ在テ被上告村カ奸策ヲ廻ラシ上告村ノ地所ヲ掠奪セント謀ル事
及ヒ被上告第二號證ハ其當時之レヲ奪ントシテ勝手ニ認メ差出シタル書面ニシテ不實ノ
モノナリシ事判然タリ加之被上告第二號證第一項ニ（西ハ白岩境平山境馬川境宮ヨリ見
通シ古川境ニ御坐候）トアルヲ見レハ益々不實ノ書面ナリシコト知リ得ヘシ何トナレハ
古川境ナルモノハ足羽川ヲ越テ高田村ニ接近セル地所ナルヲ以テ通俗向島或ハ川向ヒト
稱シ此地所タル文政十一年度以前ニ在テハ荒地或ハ畑地ナリシモ文政十一年度ニ至リ上
告村ヨリ舊藩へ願濟ノ上開田セシモノニシテ舊藩吏ノ印章ヲ押捺シタル上告番外第二號

證アレハ也抑番外第二號證ハ該開田江筋ニ關シ高田村トノ約束ヲ爲シタル末其約束ノ趣
旨ヲ舊藩廳へ届出テ之レカ許可ヲ得タル書面ナリ乃チ其上文ニハ（田尻村御高ノ内高田
村地籍字向島ト申畑所開田仕度御願申上用水ノ義ハ云々）ト明記アリ如斯公正官吏ノ認
メタル證書ノアルアリテ古川境カ上告村ノ地籍ナルハ明了ナリ且番外第三號證ノ如ク該
開田ニ付被上告村ニハ毫モ關係ナク唯々上告村ト高田村トノ約定書アリ故ニ被上告村モ
古川境ニ付テハ其地籍ノ上告村ニ屬スルヲ見認メ未タ曾テ其地籍ニ對シ苦情ヲ惹起セシ
コトナク連綿トシテ上告村ノ地籍ナル地券證ヲ拜受シ現ニ之レヲ所有シ居レリ然ルニ被上
告第二號證ハ宮ヨリ古川境ト記載シアレハ其事實ニ適合セサル不正ノ證書タル判然タリ
殊ニ本訴山地ノ地籍ヲ被上告村ニ屬スルモノトセハ明治五年地券發行ノ際ニ在テモ其地
券ハ被上告村ノ手ヲ經テ下付セラルヘキニ直チニ上告村へ下附セラレタルハ何ソヤ是レ
上告村ノ所有所屬ノ山地ダレハナリ又本訴論山カ被上告村ノ地籍ニ屬スヘキモノナリト
セハ上告村ヨリ毎年山手米ヲ收納スヘキ筈ナルニ會テ山手米ヲ收納セシコトナキハ是レ被
上告村ノ地籍ニアラサルヲ證スルニ足レリ如斯上告村ニ於テハ明確ナル事實ノアルアレ
ハ被上告村ハ之レカ事實ヲ滅却セシメ且自己ノ非ヲ掩ハントシテ論山ハ往古ヨリ被上告
村ノ進退シ來リタルモノナレハ其山手米ノ如キハ上告村ヨリ收納スヘキ理ナシト陳述セ
リ然レモ個ハ是レ被上告村ノ遁辭ニ過キス若シ往古ヨリ被上告村カ進退シ來リテ上告村
カ與カラサリシ山地ナリセハ何ソ上告第三號證ノ如ク舊敦賀縣へ出訴ノ訴狀中ニ（山ニ
箇所小作御高）ト明記シタルヤ曩ニハ上告村カ實際進退シ來リタル事跡ニ敵シ難キヲ恐

レテ御山ト申供シ今回ハ山手米ヲ收納セサルノ事實ニ敵シ難キヲ恐レテ上告村ニ關係
 ナキ山地ナリト申供スルハ自語撞着ノ申供ニシテ全ク其虛誕ナルヲ証スルニ足レリ況ン
 ヤ上告第十二十三號證ノ如ク山手米ハ上告村ヨリ直チニ官納シタルニ於テチヤ
 夫レ斯ノ如ク被上告第二號證ハ事實ニ適セサル不正ノ書面ナリ之レニ反シ上告村ニハ自
 己ノ持山タルヲ證スヘキ証據ハ前顯ノ如ク數多アリ豈唯タ實地ノ模様不都合ナレハ不正
 ナルヘシトノ推測ノミニ止マランヤ然ルニ原裁判所ハ其事實ニ適合セサル不正ノ書面ナ
 ルヲモ顧ミス(被告承諾シナカラ其境界ノ不正ニシテ取消シニ屬シタリトノ反證ヲ舉ク
 ル能ハサル以上ハ單ニ其境界實地ノ模様不都合ナルヲ以テ不正ナルヘシトノ推測云々被
 告カ認メタル原告第二號證ノ効力ヲ打破スルニ足ラサルモノトス依テ論山ハ原告村ノ地
 籍ト相心得ヘキ事)ト裁判セラレタルハ證據ノ採取ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリト信ス
 又原判文中(被告ノ墓地ハ其土地景況近來移植シタルモノト相見ヘ且ツ論山ノ三面并ニ
 論山溪間ノ田地ハ盡ク原告村ノ地籍ニ屬シ論山之レニ突入セリ)トアリテ本訴ヲ斷スル
 ノ一助ニ供セラレタルモノ、如クナレトモ個ハ是レ本訴ノ證據トナルヘキモノニアラス抑
 本訴論山ノ墓地タル往古ヨリ之レアリシモノニシテ原判文ノ如ク近來移植タルモノニ非
 ス已ニ始審判文ニモ(其墓地ニ於ルモ古色鬱蒼亦近時ニ移セシモノト認ムルヲ得ス)トア
 リ然ルニ原判文ニハ只其墓地景況云々トノミアリテ其景況ノ如何ヲ示サズ曖昧タル景況
 ノ一句ヲ以テ墓地ハ近來移植セシモノト判セラレタルハ粗漏ノ裁判ナリト思考ス
 又論山ハ三面并ニ論山溪間ノ田地ハ盡ク原告村ノ地籍ニ屬シ論山之レニ突入セルヲ以テ

被上告村ノ地籍ナルヘシトノ推測ハ大ニ失レル推測ト云フヘシ凡ソ山地ノ境界ニ於ケル
 他村ノ山地ヲ以テ三面ヲ周圍シタレハトテ其一面モ必ス他村ニ屬スヘキモノニアラス然
 ルニ只其溪間ノ平地カ被上告村ノ土地ナリトテ直チニ其四面ノ山地ハ被上告村ノ地籍ナ
 ルヘシトノ推測ヲ下サレタルハ不當ノ裁判ナリト思考ス
 殊ニ該山地ハ上告第二號證ノ如ク往古ヨリ各自持山ノ區別アリテ一字ノ山地中ニモ所有
 者數十名アリ其持主ハ或ハ松苗ヲ植ユルモノアリ或ハ杉苗ヲ培養スルモノアリ或ハ雜木
 ナ培養シテ薪ニ供スルモノアリテ恰モ一面ノ畑地ニ麥菜種大根藍草等各自所有者ノ好
 ミニ從フテ區別アル如ク該山地ニ入テ一見セハ各自ノ小境界モ判然タリ然ルチ原裁判ノ
 如キ境界ナリトセハ或ハ一人ノ所有地ヲ中斷スル箇所アリ或ハ峯通り中央ニテ溪間ニ下
 ルアリ或ハ山腹ヲ中斷スル箇所アリ豈斯ノ如キ村界ノアルヘキ謂レアラシヤ
 右ノ理由ナルヲ以テ大阪控訴裁判所ノ裁判ヲ破毀アラシトテ請願スルトノ事

追加書要領

第一條

原判文ヲ案スルニ原裁判所カ本訴ヲ斷スルノ基礎トセラレタルハ專ラ被上告第三號證ニ
 在リ而シテ原裁判所ハ該證ヲ恰モ原被告連署シテ舊藩廳ヘ上申シタル境界取調書ナルモ
 ノ、如ク誤解セラレタル平判文末段ニ(被告^上カ認メタル原告^{被上})第二號證ノ効力
 ナ打破スルニ足ラサルモノトス)トノ裁判ヲ下シテ本訴中最大有効ノ證據トセラレタリ
 然レモ該證ハ決シテ斯ノ如キ効力ヲ有スルノ書面ニアラス抑該二號證タルヤ嘗テ
 嘉永六年

原被告ノ間ニ起リタル村界ノ爭論中被上告村ヨリ舊藩廳へ上申シタル手續書ニシテ之レヲ約言セハ原被告爭訴中ニ提供シタル訴答書中ノ一部ニ過キサルナリ其論辯ハ已ニ始審以來續陳シタル所ナリ

夫レ斯ノ如ク被上告第二號上申書ハ原被告ノ爭訟中被上告自村ノ議論ヲ主張センカ爲メ差出シタル上申書ニシテ固ヨリ原被告訴答書中ノ一部分ナレハ自己勝手ノ事實ヲ記載シタル書面ナリシコト論ヲ俟タサルナリ然レハ被上告第二號證ハ唯タ當時境界爭論ノアリシ事ヲ證スルニ止マリ他ニ何等ノ効力ナモ有セサル書面ナリ然ルチ原裁判所ハ該書面ヲ以テ當時境界爭論ノ決定シタル受書ナルモノ、如ク解釋セラレ之レニ對シ至重ノ効力ヲ有セシメラレタルハ粗漏ノ裁判ニシテ且該證ノ事實ヲ誤マラレタル不當ノ裁判ナリト思考ス尤原判文中ニ(被告ノ看認タル原告第二號證云々)トアリテ看認メタルノ一語ニ專ラ力ヲ籠メラレタレト上告者カ被上告第二號證ノ境界ヲ看認メタリトハ嘉永三年中ニ一時増租ヲ免カレメ爲メ唯タ表面ノミ該二號上申書第一項ニ記載アル境界ノ如ク即チ(西ハ白岩境云々宮ヨリ見通シ古川境)ト爲シ且之レカ爲取換證マテ製シタルコトアリシ然レト其境界ハ一時官ヲ欺ク爲メ不正ノ手段ニ出タルモノニシテ其爲取換證モ亦タ不正ノモノナレハ嘉永六年度出訴ノ末該爲取換證ハ官沒セラレ且兩村ノ境界ハ從前ノ正境ニ復サレタルモノナリト云ヒシモノニシテ決シテ被上告第二號證ノ事柄ヲ眞實ナリト云ヒシコトモナク又之レヲ眞正ナリト看認タルコトモアラザリシ故ニ原裁判所モ其判文ノ初段ニハ原告(被告)第二號證ノ境界ハ當時證書圖面爲取換タル旨被告(原告)カ承諾スル以上トアリテ該

二號證ヲ直チニ眞正ナリト看認メタリトハ解釋セラレサリシニ其末段ニ至リ(被告カ看認メタル原告第二號證書ノ効力ヲ打破スルニ足ラス)トノ裁判ヲ下シテ恰モ上告者カ被上告第二號證ヲ直チニ眞正ナリト看認メタルモノ、如ク裁判セラレタルハ前後矛盾ノ裁判ナリト思考ス

第二條

原裁判所カ(其境界ハ不正ナリ取消ニ屬シタリトノ反證ヲ舉ケサル可カラサルノ責任ハ被告(原告)ニアリトス)ト裁判セラレタルハ舉證ノ責任ヲ顛倒シタル不當ノ裁判ナリト信ス抑モ被上告第二號證ハ已ニ前條ニモ續述スル如ク唯タ當時爭訟中ニ差出シタル訴答書類ノ一部分ニ止マルモノニシテ其爭訟ハ該書面ノ如ク決定シタリトノ證ニハアラザリシ且爭訟ハ何レニカ決定セサル可カラサルモノナレハ若シ被上告者カ議論ノ如ク果シテ當時ノ爭訟ハ該書面ニ記載シタル所ノ境界ニ決定シタリトナラハ其爭訟ハ上告者ノ願意達セシテ願下ケニナリタルトカ又ハ該二號證ノ如ク裁許セラレタリトカノ證據ヲ掲ケサルヘカラサルハ該二號證ニ記載シタル境界ノ如ク決定シタリト主張スル被上告者ノ責任ナルヘシ何トナレハ該二號證ハ唯タ當時爭訟アリシト云フテ證スルニ止マリ未ダ決定ノ證ト爲スヘカラサレハナリ殊ニ該二號證ニモ記載アル如ク嘉永三年中兩村ノ境界ニ付爲取換證文ノ出來シタル事ハ明了ナリ然レハ該爲取換證ハ被上告者ノ爲メ最モ必要ナル書面ナルニ其爲取換證文ノ被上告者カ手ニ在ラサルハ何ソヤ之レ上告者カ上告第十四號證ヲ掲ケテ論スル如ク該爲取換證ハ不正ナルヨリ官沒セラレタルノ實跡ナリトス若シ否

ラサレハ今日被告上告者ノ手ニ存在セサルノ謂レアラサルナリ是又上告者カ被告上告第二號證ニ對スルノ駁論ヲ確ムルニ足レリ

加之上告村ハ往古ヨリ論山ヲ自由ニ進退シ來リ地券發行ニ當テハ上告第一號證ノ如ク該地ノ券狀ヲ下附セラレ毫モ被告上告村ノ拘束ヲ受クルコトナシ然ルニ被告上告村ハ明治七年ニ至リ上告第三號證ノ如ク論山并他ノ畑地ニ對シテ訴ヲ起シ其訴狀ニ(標記ノ山二箇所(大當山一箇所壹)一時附卸置候處被告從來ノ持山ノ趣申立云々)ト記シテ該二箇所ノ山(本訴ノ)ハ上告村ヘ貸附置タル御山ナリシトノ申立ヲ爲シ之レカ所屬所有ヲ奪ハント試ミタリ仍テ上告村ハ上告第四號證ノ如ク嘉永年度ニ爲シタル爭論ノ始末并地券狀下附ノ手續ヲ詳記シテ被告上告村ノ妄訴タルヲ辯駁シ之レカ答辯書ヲ提供シ追々審理ノ末到底被告上告村ノ敗訴ト決シタルヨリ被告上告村ハ該訴ノ願下ヲ爲シ且上告第五號證ノ如ク該訴ニ關スル入費マテ償却セリ然ルナ今回ノ訴訟ニ至テハ論山ハ被告上告村ノ共有地ニシテ上告村民カ入山セシコアラサル旨申立タリ即チ始審答辯書ニ(該山ハ全ク被告三萬谷村ノ總地ニシテ往古ヨリ云々被告ノ所有タルコト判然タリ)トアリ又明治十五年二月一日ノ始審口供ニハ(論山ハ被告村ノ共有ニシテ一村ニテ進退致シ居候事)トアリ又同年六月二十七日ノ始審口供ニハ(論山ハ被告共有ニシテ下脚ハ銘々勝手ニ取取ルモ立木ヲ勝手ニ取取ルコト不相成去ル天保七年凶作ノ節伐出シ板ニ引割賣拂村內貧民ノ救助ニ充テタルコトアリ云々其以來ハ一箇所ノ林ヲ不殘伐取リタルコトナシ)ト申供セリ此ノ申立ト前訴即チ上告第三號證ノ申立ト對照セハ甚ダシキ事實ノ相違ヲ來セリ何トナレハ前訴ニ於テハ論山ハ上告村ヘノ

御山ナリト稱シテ上告村民カ隨意ニ伐採シ居ルコトヲ自認シ本訴ニ至テハ被告上告村ノ共有山ニシテ從來一村ニテ進退シ居レリト稱シテ被告上告村民等ハ曾テ論山ノ樹木ヲ伐採シタルコトアラストノ論旨ニ出テタレハナリ斯ノ如ク論山ニ對シ最モ必要ナル事實ニ前後相違ノ申立ヲ爲スハ即チ嘉永六年度ノ爭論ハ被告上告第一號證ニ申立タル境界ノ如ク決定シタルニ非サルヲ證スルニ足レリ何トナレハ若シ該書面ノ如ク決定シタルモノナラハ引續キ被告上告村カ進退スヘキ筈ナレハ明治七年度ノ訴訟ニ際シ論山ハ從來上告村ヘ御置キ其樹木ノ伐採權ハ上告村ニ在リト云フカ如キ不利ノ申立ヲ爲スヘキ謂レアラサレハナリ

第三條

原裁判所ハ(定免ヲ増加セラレタル事ハ云々融地アルカ爲メナラハ別ニ竿入ノ上新地ノ貢租ヲ課セラルヘキ筋合ニシテ融地ヲ差置キ舊租ノ定免ヲ増加スルノ道理ナシ)ト判定セラレタレハ新地ニ向テ更ニ貢租ヲ課スルハ一村ノ石高ヲ増加セサル可カラズ已ニ壹村ノ石高ヲ増加セハ舊領主ノ石高モ亦タ從テ増加セサル可カラサル條理ナリ故ニ上告村ノ融地ニ向テモ別ニ新地ノ貢租ヲ課セス一村ノ石高ハ其儘差置キ唯タ其定免ノミ増加セラレタルモノナラン畢竟石高ノ増減ハ舊領主カ領地ノ石高ニ増減ヲ來スカ爲メ唯タ其石高ニ關係ナキ定免ノミヲ増減セラレハハ敢テ怪ムヘキコトニアラス尤舊領主ノ領地タル舊幕府ヨリ幾萬幾千石ナリトシテ與ヘラレタルモノナレハ擅ニ其領地ノ高ヲ増減スヘカラサルハ獨リ上告村カ舊領主ノミナラス蓋シ當時ノ制度ナルヘシ然ルチ原裁判所ハ其石高ニ關係アルヲ問ハス當ニ定免ヲ増加スルノ道理ナシト斷定セラレタルハ不當ノ裁判ナリ

ト思考ス

第四條

原裁判所ハ(自首及訴訟ノ事等ハ甚タ容易ナラサル事柄ナレハ幾分ノ證憑アルヘキ筈ナルニ之レカ端緒ト見ルヘキモノ毫モアラスシテ只タ被告カ口頭ノ陳述ニ止マレリ)ト裁判セラレタレトモ已ニ被告モ明治十五年四月十四日始審廳へ提供シタル上申書第二項ニ(去ル嘉永度乙第二號原告村ト地境ニ付云々相生シ既ニ舊領主ヨリ御聞調ノ節口上書ヲ呈上仕リ置タリ)ト陳述シ又始審答辯書ニモ(乙第二號證ハ去ル嘉永度原告田尻村ト地境ニ付云々相生シ候節双方ノ申口(双方ノ申口トアルハ嘉永三年ニ境界ノ爲取換證ヲ作リタル時自村ハ斯ク申立相手方ハ斯ク申立タリト被告上告村カ勝手ニ自稱シタルモノナリシ)舊福井藩該役員ニ上申仕タル書類ナリ)トアリテハ該第二號證ノ文意ニテ明ナリシ)當時境界爭論ノアリシ事且該二號證ハ其爭論ノ際差出シタル書類ナリシ事ハ被告上告者ノ業已ニ看認ムル所ナリ然レハ其爭論ノアリシ事ハ原被告ノ申供符合スルノミナラス該二號證ハ其筋ヨリ借受タリト被告上告者カ自陳スルヲ以テ觀ルモ爭論中ノ書面ナリシヨ明白ナリ然ルチ原裁判所ハ其爭論ノアリシト云フハ唯上告者カ口頭ノ陳述ニ止マリ毫モ其證憑ノ端緒タモナシト裁判セラレタルハ不當ノ裁判ナリト思考ス

第五條

原判文ニ按スルニ其最尾ニ至リ唯タ(論山ハ原告村(被告上)ノ地籍ト相心得ヘキ事)トアルノミニシテ其所有權何レニ屬スヘキヤ之レカ裁判ヲ與ヘラレサルハ全ク不備ノ裁判ナリト信ス抑モ本訴ノ爭論タル即チ其訴名ノ如ク境界爭論ニシテ所屬權ト所有權トヲ爭フモノナリ其證據ハ始審訴狀ノ末段ニモ(論所ハ原告地主ノ權利相立候様奉仰御裁判候)トアリ又其答書ニモ(該山ハ全ク被告三萬谷村ノ總地ニ屬テ往古ヨリ山手銀上納致シ被告ノ所有タルト判然タリ)トアリ又控訴狀第一條ニモ(本訴ノ論山ハ往古ヨリ原告村ノ所屬所有ナルコト云々)トアリ又其答書第一條ニモ(原告(被告上)告村)爭フ論所ハ往古ヨリ被告(被告上)告村民各自ノ所有山ニシテ進退ハ無論銘々持山ノ區域其境界モ判然タリ)トアリ猶被告上告村カ原裁判所へ差出シタル第三上陳書ト題スル其第三條ニモ(夫レ論山ハ原告村ノ所屬所有ナレハ之ノ點ニ對シ御裁判ヲ乞フモノナリ)ト明カニ裁判ヲ乞フノ要點ヲ指示セリ然レハ原被告カ本訴ニ對シ御裁判ヲ仰クノ要點ハ論山ノ所屬權ト所有權トノ二點ニ在ルヤ明白ナリ然ルチ原裁判所ハ唯タ地籍所屬權ノ一點ノミニ對シ裁判ヲ與ヘタルヲテニシテ原被告兩造ノ請求ニ掛ル所有權ノ點ニ對シテ何等ノ裁判ヲ下サレサルハ不法ノ裁判ナリト思考ス

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

原判文ハ之ヲ要スルニ上告者カ被告上告第二號證第一條ニ記スル境界ハ已ニ消滅セシトノ申供ヲ排斥シ到底該二號證ヲ有効ノ證トシ之ニ根據シテ上告者ハ論地ノ所屬所有權無キモノト判定セシニ外ナラス

依テ該二號證ヲ閱スルニ冒頭ニ(乍恐三萬谷田尻兩村御田地境目御改ニ付爲取替證文并繪圖面御代官様ヨリ被仰付候始末左ニ奉申上候)又其第一條ニ(去ル五ヶ年前嘉永三戊五月御代官所云々甚右衛門申上候ハ西ハ白岩境平山境馬川境宮ヨリ見通シ古川境ニ御坐候云々)

其第八條ニ(翌亥年御代官様へ繪圖面一枚差上申置候事)又未文ニ(右ハ三萬谷田尻兩村境目御改被成候ニ付爲取替證文并繪圖面出來事實ノ譯合如斯御坐候)ト云テ嘉永六年境界爭論ノ際其以前嘉永三年ニ於テ境界ノ事ニ付爲取替證文并繪圖面ヲ製シタル譯合ヲ被上告村カ舊藩へ申立タル迄ノ書面ニシテ被上告者ハ其嘉永三年ノ爲取替證文ヲ提供シタルニ非ス而シテ上告者ニ於テハ該二號證第一條ノ境界ハ嘉永三年中不正ノ所爲ヲ以テ一旦約定セシモ爾後嘉永六年即チ被上告者カ該二號申立書ヲ提供セシト唱フル境界爭論ノ際舊藩ニ自首シ吟味ノ末其爲取替タル證書圖面ハ之ヲ取揚ケラレ其境界ハ既ニ消滅ニ屬シタルモノナリ故ニ被上告者ニ於テ嘉永三年ノ爲取替證文ヲ提供シ能ハサルナリトノ論辯アリ左レハ被上告ハ其嘉永三年ノ約定證即チ爲取替證文ヲ提供シテ之ヲ證明セサルヘカラサルコト曾テ之ヲ提供シタルコトナキハ上告者カ申立ノ如ク該證文ハ嘉永六年境界爭論ノ際舊藩廳へ取揚ケラレ今ハ存在セサルニ因ルモノ、如シ是ニ由テ之ヲ觀レハ被上告二號證ハ果シテ有効ノ證據ナリト斷了スヘキノ理由ナキナリ殊ニ論地ハ明治五年證券發行以來上告者ニ於テ該券狀ヲ受領シアリテ被上告者ニ於テ何等ノ異議ナシタル事跡ナシ而シテ被上告者カ本訴ヲ受クルニ至リ該地券ノ受領ハ不正ニ成リタルモノトノ申辯アルモ何等ノ徵證アルニモアラサレハ該地ハ上告村ノ所屬其所有權アルモノト云ハサルヘカラサルノ條理ナリ何トナレハ被上告者カ申立ノ通り果シテ該地券ノ受領ハ不正ニ成リタルモノニシテ該地ノ所有ハ被上告者ニアルモノナリセハ數年ノ久シキ該地券ノ改正ヲ要セサルノ理ナケレハナリ然ルニ原裁判所ハ此點ヲ不問ニ措キ上告者カ被上告二號證第一條ニ記スル境界ハ既ニ消滅セシトノ

申供ヲ排斥シ被上告二號證而已ニ據リ判決ヲ與ヘシハ事實判定ノ理由ヲ誤リシ不當ノ裁判ナリ
右ノ理由ナルヲ以テ大阪控訴裁判所カ本案ニ對シ言渡シタル終審裁判ヲ破毀シ東京控訴裁判所ニ移スモノナリ
但上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

○第四百八十八號
地圖并願記簿重複一件上告ノ判文(明治十六年七月九日上告
十七年十月八日申渡)

福井縣越前國足羽郡田尻村平民

島田門右衛門外十五名總代兼同

村平民

前田 利右衛門

山下 孫左衛門

同縣同國同郡福井佐佳枝下町平

民

福 田 金 平

東京府京橋區桶町廿三番地寄留

福井縣士族

上告人

上告人

右代言人

中島 又五郎

福井縣越前國足羽郡三萬谷村總

代同村平民

清水 正雄

被上告人

山口 甚右衛門

東京府京橋區日吉町十九番地寄

留大坂府士族

北田 正 董

上告ノ要領

第一條

原判文中（原告第二號證ノ境界ハ當時證書圖面爲取換タル旨被告カ承認スル以上ハ果シテ其境界ハ不正ナリ取消シニ屬シタリトノ反證ヲ舉ケサル可カラサルノ責任ハ被告ニアリトス云々然レハ單言其境界實地ノ模様不都合ナレハ不正ナル可シトノ推測ノミチ以テ被告カ承認シタル原告第二號證ノ効力ヲ打破スルニ足ラサルモノトス）ト裁判セラレタルハ不當ノ裁判ナリト信ス凡ソ證據ナルモノハ其事實ヲ證明セシカ爲メ提出スルモノニシテ其事實ト照應シ相符合スルヲ以テ初テ證據ノ證據タル効驗ヲ顯ハスヘキモノナリ若シモ其證據ノ事實ト適合セサルハ假令幾干ノ文書アリト雖モ其書類ハ毫モ證據ノ證據

タル効用ヲ有セサルハ普通ノ條理ナリ今ヤ被上告第二號證ハ果シテ其事實ト適合セルモナラバ其否ヲ監察スルニ其第三項ノ末文ニ（直様田尻村庄屋方へ罷越爲取替證文相認メ村方へ持歸リ小前末々迄爲讀聞一同合點子細無御坐候ニ付重テ書面并ニ村役印形持參田尻村へ罷越一札取遣リ仕候事）トアリ若シモ被上告第二號證ハ其事實ニ適シタル眞正ノ證據ナラシニハ當時上告被上告村ニ爲取替タル爲取替證書ナルモノナカル可ラス然ルニ之レカ爲取替證ナキノミナラス其他被上告ノ議論ヲ助クヘキ證據ノ端緒タモ被上告者ノ手ニアラサルハ則チ上告者カ終審廳ニオイテ陳述セシ如ク一時御免ノ増加ヲ免レントスル折柄被上告村ハ奸策ヲ以テ自己ノ地籍ニ編入セシメ之ヲ奪ハント謀リシモ其不實ナルヲ發覺シ該爲取替書ハ舊藩ニ沒収セラレタルトノ事實ニ適當セリ若シモ沒収セラレサルモノトセハ今猶被上告村ニ其爲取替證書ノ存スヘキニ其證書ノ今日ニ存セサリシハ其當時已ニ官沒セラレタルヲ以テナリ猶其事實ハ上告番外第一二號證ニ對照セハ益々明瞭ナリ

其第一號證ハ嘉永三年御免ノ増加ヲ免レントシテ被上告村ノ奸策ニ陥リ之ヲ回復セシ訴訟ニ付キ舊藩廳へ呈出シタル演說書ナリ其文中上告村ノ地籍ヲ被上告村ニ掠奪セラレシトセシ事實ヲ詳記シ其末文ニハ（御上様御慈悲御威光ヲ以テ右書取ノ證文御取揚無御坐其儘ニ三萬谷村所持罷在時ハ開田所一丁三反餘并宮地半分餘并居村居屋敷人家半分并持山半分右ノ箇所三萬谷村ノ物ニ落入田尻村退轉ト相成不容易始末必至ノ難義仕候云々）トアリ又其第二號證ハ右ノ訴訟追々明白ニ相成リ上告村ト被上告村トニ爲取替タル證書

ヲ沒收セラル、時ノ配符ナリ因之觀之被上告第二號證ノ條件ハ全ク虛無ニ屬シタルコト明
 ナリ加之被上告第二號證第一項ニ(西ハ白岩境平山境馬川境宮ヨリ見通シ古川境ニ御坐
 候トアルヲ見ルモ全ク不實ノ書面ナリシコト知リ得ヘシ抑古川境ナルモノハ足羽川ヲ越
 テ高田村ニ接近セル地所ナルヲ以テ向島或ハ川向ヒト稱シ此地所タル文政十一年度以前
 ニ在テハ荒地或ハ畑地ナリシモ文政十一年度ニ至リ上告村ヨリ舊藩へ願濟ノ上開田セシ
 モノニシテ舊藩吏ノ印章ヲ押捺シアル上告番外第三號證ハ當時藩廳ノ許可ヲ得タル書面
 ナリ其上文ニモ(田尻村御高ノ内高田村地續字向島ト申畑所開田仕度御願申上用水ノ義
 ハ云々)ト明記アリ如斯公正官吏ノ認メタル證書ノアルアリテ古川境カ上告村ノ地籍ナ
 ルハ判然タリ加之番外第四號證ノ如ク該開田ニ關シ高田村トノ約定證アリ故ニ被上告村
 モ古川境ニ付テハ其地籍ノ上告村ニ屬スルヲ見認メ未タ曾テ其地籍ニ付キ苦情ヲ惹起セ
 シコトナク連綿トシテ上告村ノ地籍ナル地券證ヲ拜受シ現ニ之ヲ所有シ居レリ然ルニ被上
 告第二號證ハ宮ヨリ見通シ古川境トアルヲ見ルモ其事實ニ適合セサル證書ナリシコト知ル
 ヘキナリ況ヤ其證ハ被上告村カ勝手ニ認メタルモノナルニ於テチヤ又況ンヤ其證ハ一舊
 藩吏ノ末孫タルモノ、手ニ出タル書面ナリト云フニ於テチヤ

夫レ如斯次第ナルニ原裁判所ハ其事實ニ適合セサル不正ノ證據ナルヲモ顧ミス(被告カ
 承認シタル原告第二號證ノ効力ヲ打破スルニ足ラサルモノトス)ト裁判セテレタルハ證
 據ノ採取ヲ誤リタル不法ヲ裁判ナリト信ス

第三條

又原判文中(又被告ノ檢地帳ハ字宮ノ脇「ハニウ」ノ耕地アルコト知ルモ果シテ論地ニ相
 當スルヤ否ハ他ニ證在ナクハ斷定爲シ難シ)トノ一言ヲ以テ上告第二號證ヲ排斥セラ
 レタルハ疎漏ノ裁判ナリ抑モ字名稱ナルモノハ一ノ固有名詞ニシテ妄リニ變更スヘキモ
 ノニアラス若シモ之レカ變更アリタルモノトセハ其變更ノ箇所ヲ指シ得サル可ラス之レ
 カ變更ヲ指シ得サル能ハサレハ先ツ今日其字名稱ヲ附スル所ハ則チ昔日ノ其字名稱ナリト
 推定スヘキハ一般ノ條理ナリ而シテ其「ハニウ」宮ノ脇ナル字名稱ハ今日何レノ箇所ニ
 當リシヤヲ見ルニ上告第一號及ヒ一筆限帳并上告第十一號壬申度ノ繪圖面トチ參觀セハ
 本訴被上告村ノ地籍ナリト主張セル地所ニ適當セリ然レバ則チ本訴ノ地所ハ上告村ニ屬
 スヘキ地籍ナル明カナリ何トナレハ其今日ノ字名稱ハ昔日ノ字名稱ノ箇所ヨリ異ナレリ
 ト主張スルモノハ所謂變例チ云フモノナレハ被上告村ハ其異ナレリトノ證據ヲ舉示セサ
 ルヘカラス然ルニ被上告者ニハ之レカ證據ノ見ルヘキモノアラサレハナリ加之明治五年
 地券發行ノ際モ越石八拾三石ノ地券ハ上告第六號證ノ如ク其地籍村ナル被上告村ヲ經テ
 上告村ニ受取リシモノナルカ故若シ本訴ノ地所モ被上告村ノ地籍ナリセハ其地券モ被上
 告村ヲ經テ授與セラルヘキ筈ナルコ直チニ上告村へ下附セラレタルノミナラス現ニ其地
 券面ニ於テモ(田尻村ノ内)ト明記アリ然ルニ被上告村ハ地券發行以來數年間黙許シ來リ
 タルハ是レ其自己ノ地籍ニアラサルヲ證スルニ足レリ蓋シ被上告村カ本訴ノ地所ヲ自己
 ノ地籍ナリト主張スルハ不眞正ナル被上告第二號證ノ其手ニ入リタルヲ奇貨トシ其地籍
 チ奪ハントスルニアルナル可シ若シ然ラスシテ固ヨリ地籍ノ被上告村ニ屬スヘキモノト

セハ地券發行ノ際直ニ爭論ヲ生スヘキニ數年ヲ經過セルノ後ニ至リ突然苦情ヲ惹起スハ是レ其自村ニ屬セサルノ地籍タルヲ承認セシガ故ナルヘシ然ルニ終審廳ハ此點ニ論究シ及ハス上告第二號ノ檢地帳ヲ排斥スルニ「被告ノ檢地帳ハ字「宮ノ脇」「ハニウ」ノ耕地アルコトヲ知ルモ果シテ論地ニ相當スルヤ否ハ他ニ證左ナケレハ斷定シ難シ」トノ辯明ヲ以テセラレタルハ疎漏ノ裁判ナリト信ス

第三條

又原判文中(文化程度ノ圖面ナリト呈供スルモノハ本紙紛失シ漸ク明治十五年ニ村控ヲ寫シタリト被告申立ルニ付本訴ノ確證ニハ相立難シ云々)トノ辯明ヲ付シテ擯斥セラレタルハ甚タ無實ノ辯明ナリトス抑モ上告第三號文化九年度ノ圖面タル決シテ村控杯ヲ寫取リタルモノニアラス若シ村控ヘノアリシナレハ何ソ其控ヲ寫取ルノ要アジヤ上告者ハ未タ曾テ如斯申立ヲ爲セシコアラサルナリ現ニ明治十五年十月二日上告者カ終審廳ヘノ申供ニ(乙第一號圖面文化九年度ノ圖面ヲ見失ヒ候ニ付安政四巳年三月舊福井藩ヨリ借り受ケ福井町梅野ナルモノニ寫シ取ラセタルモノニ有之候)トアリ亦タ該圖面ヲ一見スルモ明治十五年度ニ寫取リタルモノニアラサリシハ甚タ明瞭ナリ之レ終審廳カ審理ノ疎漏ナル一端ヲ證スルニ足レリ

第四條

前條々ノ理由アルヲ以テ大阪控訴裁判所ノ裁判ヲ破毀アラシメテ請願スルトノ事上告追伸書ノ要領左ノ如シ

第一項

原判文ヲ按スルニ原裁判所カ本訴ヲ斷スルノ基礎トセラレタルハ專ラ被上告第二號證ニ在リ而シテ原裁判所ハ該證ヲ恰モ原被告連署シテ舊藩廳ヘ上申シタル境界取調書ナルモノ、如ク誤解セラレタル平判文末段ニ(被告^上カ認タル原告^{被上})第二號證ノ効力ヲ打破スルニ足ラサルモノトス)トノ裁判ヲ下シテ本訴中最大有効ノ證據トセラレタリ然レハ該證ハ決シテ斯ノ如キ効力ヲ有スルノ書面ニアラス抑該第二號證タルヤ嘗テ(嘉永六年)原被告ノ間ニ起リタル村界ノ爭訟中被告ヨリ舊藩廳ヘ上申シタル手續書ニシテ之レヲ約言セハ原被告爭論中ニ提供シタル訴答書中ノ一部ニ過キサルナリ左レハ該第二號證中ニ記載セル事實ハ被上告村カ勝手ニ構造セシモノナルコト論ヲ俟タス然レハ被上告第二號證ハ唯タ當時境界爭論ノアリシト云フヲ證スルニ止マリ他ニ何等ノ効力ヲモ有セサル書面ナリトス此論辯タル始審以來縷陳セシ所ニシテ現ニ終審答書第一條末段ニモ(原告第二號證ハ原告村自擅ニ筆記セシモノニシテ被告カ連署アルニアラサレハ眞偽ヲ問ハスニテ効ナキハ論ヲ俟タス云々)ト論シ又其第二條末段ニモ(原告第二號證ノ結果何トナリタルカ其證左ナカルヘシ況ンヤ該證ニ境界ヲ示シ爲取替云々記載アレハ是亦其原證無キハ舊藩ノ處分ニ係リシヲ推知スルモ明カナリ云々)ト論シタリ然ルニ原裁判所ハ該書面ヲ以テ當時境界爭論ノ決定シタル受書ナルモノ、如ク解釋セラレ之レニ對シ至重ノ効力ヲ有セシメラシタルハ甚タ粗漏ノ裁判ニシテ且該證ノ事實ヲ誤マラレタル不當ノ裁判ナリト思考ス

尤原判文中ニ（被告カ承認シタル原告第二號證云々）トアリテ承認シタルノ一語ニ專ラ
 力ヲ籠メラレタリ然レモ上告者カ被告第二號證ノ境界ヲ看認メタリトハ嘉永三年中ニ
 一時増租ヲ免カレン爲メ唯々表面ノミ該第二號上申書第一項ニ記載アル境界ノ如ク即チ
 （西ノ白石境云々宮ヨリ見通シ古川境）ト爲シ且之レカ爲取替證マテ製シタルコアリシ然
 レモ其境界ハ一時官チ欺ク爲メ不正ノ手段ニ出タルモノニシテ其爲取替證モ亦不正ノ
 モノナレハ嘉永六年度出訴ノ末其爲取替證ハ官沒セラレ且兩村ノ境界ハ從前ノ正境ニ復
 サレタルモノナリト云ヒシモノニシテ決シテ被告第二號證ノ事柄ヲ眞實ナリト云ヒシ
 コモノク又之ヲ眞正ナリト看認タルコモアラサリシ故ニ原裁判所モ其判文ノ初段ニハ
 （原告^{被告}）^{被告}第二號證ノ境界ハ當時證書圖面爲取替タル旨被告^{原告}（原告）カ承認スル以上ハ
 トアリテ該第二號證ヲ直ニ眞正ナリト看認メタリトハ解釋セラレサリシニ其末段ニ至リ
 （被告カ認タル原告第二號證書ノ効力ヲ打破スルニ足ラス）トノ裁判ヲ下シテ恰モ上告者
 カ被告第二號證ヲ直ニ眞正ナリト看認メタルモノ、如ク裁判セラレタルハ前後矛盾ノ
 裁判ナリト思考ス

又原裁判所カ（其境界ハ不正ナリ取消ニ屬シタリトノ反證ヲ擧ケサルヘカラサルノ責任
 ハ被告^{原告}）^{原告}ニアリトス）ト裁判セラレタルハ舉証ノ責任ヲ顛倒シタル不當ノ裁判ナリ
 ト信ス抑被告第二號證ハ前第一段ニモ縷述スル如ク唯々當時爭訟中ニ差出シタル訴答
 書類ノ一部ニ止マルモノニシテ其爭訟ハ該書面ノ如ク決定シタリトノ證ニハアラサリシ
 且爭訟ハ何レニカ決定セサルヘカラサルモノナレハ若シ被告上告者カ議論ノ如ク果シテ當

時ノ爭訟ハ該書面ニ記載シタル所ノ境界ニ決定シタリトナラハ其爭訟ハ上告者ノ願意達
 セスシテ願下ケニナリタルトカ又ハ該第二號證ノ如ク裁許セラレタリトカノ證據ヲ揭
 ケサル可カラサルハ該第二號證ニ記載シタル境界ノ如ク決定シタリト主張スル被告上告者
 ノ責任ナリ何トナレハ該第二號證ハ唯々當時爭訟アリシト云フテ證スルニ止マリ未ダ決
 定ノ證トナスヘカラサレハナリ然ルニ原裁判所ノ論理玆ニ出テサリシハ舉証ノ責任ヲ顛
 倒セル不法ノ裁判ナリト思考ス

第二項

前項ニ於テ被告上告第三號證ハ無効ノ書面ナルコト論破シタレハ原裁判ノ不當ナルハ甚ダ
 著明ナリト雖モ尙ホ上告者カ議論ヲ確カメン爲メ玆ニ論述センニ若シモ原裁判ノ如ク論
 地ヲシテ越石八拾二石ノ内ナリトセハ上告第十一號繪圖面ニ朱點ヲ付シタル如ク或ハ上
 告村ノ家屋半ヲ斷チ或ハ論境外ナル上告村所屬ノ田畑ヲ橫斷若クハ斜斷シテ境界トセサ
 ルヲ得ス如斯境界タル實地ニ不都合ナルノミナラス條理上アル可カラサルノ境界ナ
 リトス何トナレハ何レノ村落ト雖モ村界ノ如キハ最モ顯明チ主トシ或ハ川或ハ道路其他
 人目ニ觸レ安キモノヲ以テ境界トスルハ普通ノコナルコト反テ一田畑一家屋ノ原被告兩村
 ノ地籍ニ跨リ其境界何レニアルヤ知ル能ハサルカ如キ理アラサレハナリ加之本訴論地カ
 被告上告村ノ地内ニ屬スヘキモノトセハ上告村ノ宮地一半餘ハ被告村カ地籍内ニアルモ
 ノトス夫レ往昔神社ヲ尊敬信仰スル僻陬ノ人民ニシテ自村鎮守ノ爲メ安置セル神社ヲ他
 村ノ地籍内ニ置クカ如キハ實ニアルヘカラサルノ事實ナリ是等ノ事柄ヲ參照スルモ尙ホ

本訴論地カ上告村ノ所屬所有ナルハ推知シ得ヘキナリ殊ニ被上告村カ最モ據ロトシテ提
 供セル被上告第一號ノ檢地帳ニ字「ハニウ」ノ名稱アルモ個ハ是レ「ハニウ」ノ名稱アルコ
 ナ證明スルニ止リテ其檢地帳ニ明記セル「ハニウ」ハ果シテ本訴ノ論地ニ適當セルヤ否ナ
 證明スル能ハサルノミナラス若シモ該檢地帳(被上告第一號)ニ明記セル「ハニウ」ヲシテ論地ヲ
 指シタルモノトセハ越石八拾三石内ニアル「ハニウ」ノ名稱ハ消滅スルニ至ルヘシ因之觀
 之被上告第一號ノ檢地帳ニ記載セル「ハニウ」ノ名稱ハ越石八拾三石内ノ「ハニウ」ヲ指的
 セシモノニシテ論地ヲ指シタルニアラサルコト明瞭ナリトス

第三項

原判文ニ(被告第十五號見取圖面ニ依ルモ市波村境ノ道路ニ接スル耕地ハ原告村地籍ニ
 テ被告カ耕作スル所ナレハ該地ト隣接シテ同様道路ニ接スル論地ノミチ其營繕ノ爲メ被
 告村ノ地籍ナリトノ區別見ルニ由シ無シ云々)トアレヒ市波村地ニ接スル往還道路ハ被
 上告村ノ地籍ニテ上告村ノ耕作セル地所トハ判然タル地界アリテ決シテ接續セルモノニ
 アラス抑市波村地ニ接スル上告村ノ地籍ト被上告村ノ地籍トハ二丈餘ノ高大ナル土手ヲ
 以テ地界トシ其土手ノ南方ハ被上告村ノ地籍ニシテ北方ハ上告村ノ地籍ナリ而シテ該道
 路ノアル箇所ハ其土手ヨリ北方即チ上告村ノ地籍内ニ在リ故ニ上告第十四號ノ如ク其地
 元村ナル上告村ニ於テ該道路ノ營繕ヲ爲セシモノナリ豈被上告村カ地籍ニテ上告村ノ耕
 作スル地所ニ接續スルカ故ナランヤ元來往還道路營繕ノ如キハ其元村地ニ於テ爲スヘキ
 ハ舊來ノ慣行ニシテ今日モ亦タ然リ故ニ論地ヲシテ被上告村ノ地籍ナリトセハ其地所ニ

附帶セル道路ノ營繕カ被上告村ニ於テ之レヲ爲スヘキ筈ナルニ然ラスシテ上告村之レカ
 營繕ヲ爲セシハ是レ上告村ノ地籍内ナルカ故ナリ殊ニ上告第十四號ノ末文ニ據ルモ(右
 者田尻村境ノ上往還道市波境ヨリ同村飛地境迄ノ處云々)トアリテ抑境ノ上ノ三文字タ
 ル境内若クハ地籍内ト云フト同一ニシテ此三文字ニ據ルモ論境カ上告村ノ地籍ニ屬スル
 ナ證明シ得ヘシ何トナレハ凡ソ道路ハ其地所ニ附屬スルモノナルカ故其道路ニ接續セル
 地所アラサリセハ只タ其道路ノミ上告村ノ地籍ニ屬スヘキ理アラサレハナリ若シ假リニ
 論地ヲシテ被上告村ノ地籍ナリトセハ凡ソ三百間ノ長キ間細キ道路ノミ上告村ノ地籍ニ
 シテ其道路ニ接續セル地所ハ上告村ノ地籍ニアラスト云フニ至ルヘシ豈如斯奇異ナル地
 籍ノ存スル謂レランヤ況ンヤ上告村ニ於テハ上告第一號ノ地券證及ヒ上告第二號ノ檢
 地帳ニ「宮脇」「ハニウ」ノ二字ノ箇所明確ニ記載アリテ論地カ上告村ノ地籍ナルコト明瞭ナ
 ルニ於テナヤ

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

原判文ハ之ヲ要スルニ上告者カ被上告第二號證第一條ニ記スル境界ハ已ニ消滅セシトノ申
 供ヲ排斥シ到底該二號證ヲ有効ノ證トシ之ニ根據シテ上告者ハ論地ノ所有權無キモノト判
 定セシニ外ナラス

依テ該二號證ヲ閱スルニ冒頭ニ(乍恐三萬谷田尻兩村御田地境目御改ニ付爲取替證文并繪
 圖面御代官様ヨリ被仰付候始末左ニ奉申上候)又其第一條ニ(去ル五箇年前嘉永三戌五月御
 代官所云々甚右衛門申上候ハ西ハ白岩境平山境馬川境宮ヨリ見通シ古川境ニ御坐候云々)

其第八條ニ(翌亥年御代官様へ繪圖二枚差上申置候事)又末文ニ(右ハ三萬谷田尻兩村境目御改被成候ニ付爲取替證文并繪圖面出來事實ノ譯合如斯御坐候)トアリテ嘉永六年境界爭論ノ際其以前嘉永三年ニ於テ境界ノ事ニ付爲取替證文并繪圖面ヲ製シタル譯合ヲ被上告村カ舊藩へ申立タル迄ノ書面ニシテ被上告者ハ其嘉永三年ノ爲取替證文ヲ提供シタルニ非大面シテ上告者ニ於テハ該二號證第一條ノ境界ハ嘉永三年中不正ノ所爲ヲ以テ一旦約定セシモ爾後嘉永六年即チ被上告者カ該二號申立書ヲ提供セシト唱フル境界爭論ノ際舊藩ニ自首シ吟味ノ末其爲取替タル證書圖面ハ之ヲ取揚ケラレ其境界ハ既ニ消滅ニ屬シタルモノナリ故ニ被上告者ニ於テ嘉永三年ノ爲取替證文ヲ提供シ能ハサルナリトノ論辯アリ左レハ被上告ハ其嘉永三年ノ約定證即チ爲取替證文ヲ提供シテ之ヲ證明セサルヘカヲサルニ曾テ之ヲ提供シタルコトナキハ上告者カ申立ノ如ク該證文ハ嘉永六年境界爭論ノ際舊藩廳へ取揚ケラレ今ハ存在セサルニ因ルモノ、如シ是ニ因テ之ヲ觀レハ被上告二號證ハ果シテ有効ノ證據ナリト斷了スヘキノ理由ナキナリ殊ニ論地ハ明治五年地券發行以來上告者ニ於テ該券狀ヲ受領シアリテ被上告者ニ於テ何等ノ異議ナシタル事跡ナシ而シテ被上告者カ本訴ヲ受ケルニ至リ該地券ノ受領ハ不正ニ成リタルモノトノ申辯アルモ何等ノ徵證アルニモアラサレハ上告者ニ該地所有ノ權アルモノト云ハサルヘカヲサルノ條理ナリ何トナレハ被上告者カ申立ノ通り果シテ該地券ノ授受ハ不正ニ成リタルモノニシテ該地ノ所有ハ被上告者ニアルモノナリセハ數年ノ久キ該地券ノ改正ヲ要セサルノ理ナケレハナリ然ルニ原裁判所ハ此點ヲ不問ニ措キ上告者カ被上告二號證第一條ニ記スル境界ハ既ニ消滅セシトノ申供ヲ排斥

シ被上告二號證而已ニ據リ判決ヲ與ヘシハ事實判定ノ理由ヲ誤リシ不當ノ裁判ナリ
右ノ理由ナルヲ以テ大阪控訴裁判所カ本案ニ對シ言渡シタル終審裁判ヲ破毀シ東京控訴裁判所ニ移スモノナリ
但上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

○第四百八十九號

家督相續差拒解除請求一件上告ノ判文

(明治十六年十一月廿五日上告)
十七年十月八日申渡

愛知縣三河國額田郡龜穴村十番

郎平民

上告人

眞木春次郎

被上告人

右同人養母

菅沼タケ

東京府日本橋區檢物町九番地行
方トミ方同居愛知縣士族

右代人

服部良尋

上告ノ要領

第一條

原裁判所ハ春次郎釀酒ノ法ヲ知ラサルハ軍人ニシテ武ヲ知ラズ農ニシテ時ヲ知ラズ云々相續セシムヘカラスト判斷セラレタレトモ眞木家ノ本業ハ農ニシテ米穀鹽噌等ノ商業ヲ兼テ又酒造ヲ兼業スル者也而シテ上告人春次郎ハ專テ商業ニ勉勵シ酒造ノ事ハ養父生存

中ヨリ養母養父ニ代ツテ專營セシヲ以テ上告人ハ之レニ關涉セカリシナリ
 原裁判所ハ眞木家ノ戶籍(甲第一號)ニ本業農及ヒ商トアルヲ認メテレサリシカ眞木家ヲ以
 テ酒造專業ノ者ト誤認セラレタルカ如シ左レトモ上告人ハ農商ニ差支ナケレハ特ニ造酒
 ノ事ニ精シカラストテ相續權ヲ失フ筈ナシ又酒造家ニ責ムルニ釀酒ノ方ヲ以テスルハ謬
 見ナリ凡酒造家相當ノ資本ヲ以テ器具米薪等ヲ買入レ釀酒人ヲ傭入レ釀酒セシメタル酒
 ナ販賣スルモノタレハ酒造家ニシテ釀酒ノ術ニ精シカラサルモ差支ナシ然ルニ是等ノ事
 ナ以テ上告人カ相續權ヲ失フノ第一トセラレタルハ不當ナリ

第二條

控訴被告三名ノ代言人カ明治十六年八月中控訴裁判所へ差出シタル上申書中被上告人ノ
 品行上ニ關スル件アリシヲ以テ原裁判所ハ子トシテ其親ノ醜ヲ暴言シ以テ本訴ノ材料ト
 ナサントシタルハ不孝是ヨリ大ナルハナシトセラレタリ右ハ假令上告人一己ノ誣言ナリ
 トスルモ始審裁判以外ノ事ナルヲ控訴廳ニ判決セラレタルハ法律ニ背クモノナリ況ヤ右
 代言人ハ上告人ノミナラサルニ於テヤ

第三條

原判文ニ「乙第一號親屬一同之ヲ拒ム以上ハ上告者ニ於テ強テ相續ヲ爲ス權之レ無シ」ト
 アルモ右乙第一號ノ不正ナルコトハ甲第六號八號ヲ以テ詳明セリ而シテ其親屬ト稱シテ記
 名セシ眞木與茂三(故治兵衛ノ實弟)ハ血屬近親ナレトモ渠レハ上告者ニ代ユルニ其五男周太郎
 ナ以テセントスルノ利益アルニ付固ヨリ公平ヲ保タス

又眞木政藏ハ唯惣本家ノ名目ニ依テ調印セシノミ其他ハ同姓ト云テ以テ遺言ト作爲シタ
 ル者其證甲第六號ノ如シ

又梅村吉五郎梅村光次ハ自カラ親屬ニアラサルコトヲ證言セリ

甲第二號以下連署ノ親屬ハ乙第一號ニ反シ皆故治兵衛近親ナルコト原裁判所ノ認メラレタ
 ル所ナルニ何等ノ説明ヲナサスシテ特ニ乙第一號ニ記名ノ者ヲ以テ眞木家ノ親族ナリト
 斷定セラレタルハ不盡ノ裁判ナリ

第四條

原裁判所ハ相續差拒ミ解除ノ請求ニ對シ判決ヲ與ヘスシテ上告者ハ家督相續ヲ請求シタ
 ル者ナリトシテ判定セラレタルハ雙方ノ訴へサル點ニ向テ判定セシモノニシテ即聽斷ノ
 定規ニ乖ケルモノト思考スルトノ事

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

名古屋控訴裁判所ニ於テ上告人春次郎カ家督相續ノ請求不相立ト判決セシ第一ノ理由タル
 春次郎ナル者酒造家ニシテ釀酒ノ法ヲ知ラストノ事ハ以テ條理上本案判決ノ理由ト爲スニ
 足ラス何ントナレハ造酒家ノ戶主タル者必ス自身ニ釀酒ヲ爲スヘキノ責ナケレハナリ
 又其第二ノ理由タル不孝ノ甚シキモノトセシ條件ハ春次郎カ養母「タケ」ノ品行ヲ揚言セ
 シニ非スシテ控訴原告三名ノ代言人(上告人モ三名ノ中ニ在リ)ノ上申書中「タケ」カ品行ニ關スルコト
 ルヲ指セルモノナリト雖モ代言人訴訟中好シ過激誹謗ニ涉ル論辯ヲ爲シタレハトテ本人自
 カラ揚言セシト同様ニ論スルノ道理ナシ

又其第三ノ理由タル乙第一號ノ協議書ハ原告「タケ」ヲ始メ親屬一同家督相續ヲ拒ムトアレトモ右協議書ニ連署セシ者ノ中奥木徳次郎外十名カ控訴裁判所へ差出セシ甲第六號證ニ據レハ此者等ハ曩ニ「タケ」ヨリ親族證人トシテ連署スルコト被頼タレトモ見込違ノ趣ヲ以テ取消ヲ願ヘリ其他眞木家ノ親族ニシテ始メヨリ反對ノ者アリ左スレハ春次郎ヲ以テ相續セシムルハ故治兵衛ノ意ニ非ストシ「タケ」ヲ以テ一時相續人トナサント親屬一同協議セリト云フ事實ハ未タ定マラサルモノトス

然ルニ原裁判所ハ右三个ノ理由ヲ以テ上告者ノ請求不相立旨裁判シタルハ不法ナリトス右ノ理由ニ付名古屋控訴裁判所カ本訴ニ與ヘタル終審裁判ヲ破毀シ東京控訴裁判所ニ移ス者也

但上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

○第四百九十號

地券書換催促一件上告ノ判文(明治十五年十月十六日上告) 同 十七年十月八日申渡

上告人

水島六兵衛

右代言人

東京府京橋區丸屋町三番地平民 松尾清次郎

被上告人

兵庫縣但馬國出石郡片岡村平民 松下仁兵衛

兵庫縣但馬國養父郡餅耕村平民

同縣同國城崎郡豐岡豐田町士族

國富寅五郎同所中町平民保田勘

左衛門代言人

東京府日本橋區矢倉町一番地寄

留秋田縣平民

渡邊小太郎

上告要領

第一條

原判文中(原告カ控訴第一ノ主眼トスル其第一號證及其第四第五號證ハ本訴審理中被告第一號乃至第四號證ノ如ク刑事裁判ニテ不正又ハ無効ノモノト確定シタル以上ハ云々)トアリ抑控訴原告則上告人カ本訴主眼トスル所ハ地所ノ所有權ヲ保全スルニアリテ必竟第一號證ノ如キハ該地ノ名義ヲ附セシ由來ノ視ル可キ迄ニ止ルモノナレハ該證カ假令ヒ丙號數證ニ於テ無効トナルモ以下ノ各證カ何ニ因テ不正又ハ無効ノモノト確定セシヤ且第一號證ヲ本訴ノ主眼ナル證ト見做サレシハ果シテ何ソヤ實ニ不可思議ナル裁判ニテ斯ク根據ナキ言路ヲ以テ上告人カ固有タル該地所有ノ權理ヲ保全スルノ主眼ニ對シ毫モ審理ヲ盡サ、リシハ頗ル不當ノ裁判ナリト思考ス

第二條

原判文中(此他原告カ憑テ以テ其訴旨ヲ證明スヘキ者有ラサルニ付無論原告ノ訴願不相

立云々トアリテ凡詞訟上ニ於テ一般裁判ヲ請願スルノ手續タル第一訴答ノ書面ヲ徴セ
 ラレ而シテ尙對審ヲ要セラル可キハ無論ナルニ本訴ニ限リ被告中答書ヲ徴セス又一回タ
 モ對審ヲ命セサレハ何レノ場合ニ於テ訴旨ヲ證明ス可キ時期ヲ與ヘラレシヤ原裁判所ハ
 爲ス可キ手續ヲ爲サスシテ反テ訴旨ヲ證明ス可キモノ有ラストハ不相當ノ判決モ亦甚シ
 シ殊ニ第二號以下ノ數證ハ第一條中ニ開陳スル如ク本訴所争ニ付充分ノ證據ナルノミナ
 ラス尙且訴旨ヲ證明ス可キ時期ヲ得ハ夫之ヲ證明スルニ確證ノアルアリ然ルニ之ヲシテ
 爲ストナ得セシメスシテ之レ有ラサルモノトハ全ク不當ノ裁判ナリト思考ス
 被上告ノ中松下仁兵衛ニ於テハ答辯書ノミチ差出シ法廷上辯論ノ權ヲ拋棄スル旨申立出頭
 セス

依テ大審院ハ欠席ノ儘判決スル左ノ如シ
 抑訴訟ノ審判ハ先ツ原告ノ訴狀ニ對シ被告ノ答書ヲ徴シ若シ被告數名ナルキハ其數名ノ答
 書ヲ徴シ而シテ尙公廷ニ於テ原被對審ノ上裁判ヲ與フヘキモノナリ是レ民事訴訟ノ審判上
 正ニ可盡ノ例規ナリ本訴上告者等カ控訴中其第一號證及其第四五號證ハ刑事裁判ニテ不正
 又ハ無効ノモノト確定シタルニセヨ被告ノ内一名ノ答書ヲ徴セス又原被一同ノ對審ヲモ爲
 サス直チニ本案ノ裁判ヲ爲セシハ聽斷ノ定規ニ違フモノトナサハルヘカラス何トナレハ控
 訴原告カ呈セル證據書類ノ不正又ハ無効トナルニセヨ對手者ノ答論ノ趣旨ヲ聽カス裁判ヲ
 爲スヘキノ道理ハ固ヨリ有ルヘカラサレハナリ依テ原裁判所ニ於テ爲シタル裁判ハ聽斷ノ
 定規ニ違フタルモノトス

但上告第一條ニ申立ル所アリト雖モ本案ノ裁判ハ聽斷ノ定規ニ背キタル廉チ以テ不法ノ
 裁判ト爲ス以上ハ茲ニ辨明ヲ與フルヲ要セス
 右ノ理由ナルヲ以テ大坂控訴裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ適當ノ裁判ヲ受シメシカ爲メ名古
 屋控訴裁判所ニ移スモノナリ
 但上告入費ハ被上告者負擔ス可シ

○第四百九十一號

墓地所有爭論一件上告ノ判文 (明治十七年五月十四日上告)
 年十月八日申渡

上告人

長野縣信濃國南安曇郡東穗高村
 田中耕地平民高山鶴吉外三十五
 名惣代兼同耕地平民

高山 瀧 三郎

東京府日本橋區濱町二丁目十二
 番地平民

平野 春江

右代言人

長野縣信濃國南安曇郡柏原村平
 民

關 守 雄

東京府麴町區有樂町三丁目一番

六一

被上告人

地寄留長野縣平民
下 島 淳 一

右代言人

上告ノ要領

上告人カ原裁判所へ控訴セシ論辯ノ順序ニヨリ先ツ裁判管轄ノ豫審ヲ求メ而シテ後本案ニ對スル裁判モ亦不服ナルヲ以テ覆審セラレシテ求メタル者也然ルニ原判文ニ裁判管轄ノ事而已掲ケ本案原被告ノ爭點ニ向テ裁判ヲ與ヘス訴答狀ヲ却下セラレシハ聽斷ノ定規ニ乖ク不法ノ裁判ナリ

上申書(明治十七年六月六日付)ノ要旨

原裁判所ニ於テ控訴ヲ棄却セラレタル不法ハ既ニ上告狀ニ具陳セリ然ルニ右ノ裁判ニシテ本案ノ爭點確定スルニ至テハ上告者ハ甚シキ不幸ニ陥ルヲ以テ再ヒ事實裁判ニ於テ葛地所有ノ爭點ニ對シ公明ノ裁決アラントテ請願スルトノ趣旨ヲ以テ上告者ハ其事實ヲ續述シタリ

再上申書(明治十七年六月廿三日)

上告再上申ノ趣旨ハ未タ原裁判所ノ裁判ヲ經由セサル論所ノ事實ニ對スル事柄ナルヲ以テ之ヲ省略スル者ナリ

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

原裁判所カ本訴ヲ却下シタル理由ハ上告者カ治安裁判所ノ始審裁判ヲ破毀セシメテ求メタルニ據ルモノ、如シト雖モ之ヲ原書類ニ徵スルニ上告者カ控訴狀第一條末段ニ(始審廳マ

明裁ヲ仰カントスルモ原裁判ヲ破毀セサルニ於テハ云々當衙ニ覆審ヲ需ムルニ付云々)トアリ又上告者カ豫審裁判ヲ蒙ルノ利益書第一項末段ニ(判文第一條ノ管轄違ヒノ點ヨリ破毀スルニ於テハ控訴廳ノ手數ヲ省キ云々)トアルニ止マル而已而シテ此申立ヲ按スルニ上告者ハ原裁判所ニ向テ覆審ヲ求メ先其管轄當否ノ豫審ヲ請フニ該リ始審裁判ヲ平讞セサレハ本案ニ妨害アリト云ヘルノ精神ニシテ原裁判所ニ向ヒ上告シテ破毀ヲ求ムト云ヘルカ如キ文詞アルコトナシ然ルニ原裁判所ハ前掲二箇ノ破毀トアル文字ニ拘泥シタルモノ乎將タ管轄當否ノ豫審ヲ以テ覆審裁判所ノ權外ナリトシタル者乎其理由ヲ付セスシテ漠然却下シタルハ不法ノ裁判ナリ

右ノ理由ナルヲ以テ長野始審裁判所松本支廳カ本訴ニ與ヘタル裁判ヲ破毀シ同始審裁判所上田支廳ニ移ス者也

但上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

○第四百九十二號
新架廻取拂違約一件上告ノ判文(明治十六年七月五日上告
十七年十月八日申渡)

福井縣越前國坂井郡兩橋屋村平民
民阪井清次郎外廿七名同郡石橋
村平民寺前万右衛門外三十九名
同郡石新保村平民杉田藤兵衛外
十名總代兼兩橋屋村平民

上告人

宇佐美三郎兵衛

同石橋村平民

上告人

松村彌次兵衛

東京府京橋區元數寄屋町三丁目

一番地寄留愛媛縣士族

右代言人

河村 認

福井縣越前國阪井郡

被上告

市之瀬村

上告要領

第一條

第一 原裁判所ハ上告者カ本件起訴ノ眼目主要ニ對シ更ニ何等一言半句ノ辯明判決ヲ與ヘラレサリシハ甚ク不法ノ裁判ナル事

第二 又本件ハ曾テ承諾上上告被上告間ニ締結シタル契約ノ如何ニ拘ハラス更ニ進ンテ實地ノ臨檢上其曲直ヲ決スヘキ事柄ナリトスルモ是レ養水引用ノ季節ニ於テスルニアラスンハ決シテ夏候養水欠減乾涸ノ實況ヲ檢舉シ能ハサルハ當然ナルニ原裁判所カ本件實地ヲ臨檢セラル、ヤ養水引用ノ季節ニ從ハレサリシハ已ニ不法ノ裁判ナルノミナラス時恰モ冬天ニシテ現ニ雨雪大ニ至リ爲之水勢暴漲ノ日ニ於テセラレタルハ最モ不法ノ裁判ナル事

第三 又被上告ニ於テモ本件新規架設ノ樋管ヨリハ自由ニ其新開地ヘ養水引用ノ權利ナキヲハ現ニ之ヲ自認スルトコロナルニモ拘ハラス原裁判所ハ猶被上告ニ該架設ヨリ養水引用ノ權利アリトセラレタルハ甚ク不法ノ裁判ナル事

第二條

抑モ本件ハ新架設取拂違約ノ訴件ニシテ即チ別紙乙號圖面ニ示スカ如ク上告ニケ村ハ字高須川ノ流末海ニ瀕シテ村居ヲ占メ三ケ村耕田ノ涵養ハ一ニ右高須川ノ水利ニ藉ルノ外他ニ耕田涵養ノ水脈アルヲナシ而シテ右高須川ハ其源ヲ該川ノ水上高須村ノ山間及ヒ同村所屬山ノ内字燈打谷(乙號圖面ニ載ス該谷ノ流水カ字高須川ニ落テ來ルヲハ被上告モ亦ナシ)等ニ發スルモノナレト元該川ノ流末ニ村居ヲ占ムル上告ニケ村ノ如キニ至テハ其水源ノ高須村ヨリ來ルト又ハ其他支派ナル字燈打谷等ヨリ落ツルトナ問ハス均ク流レテ高須一帯川ノ水トナリ其水利ヲ引來ル上ハ概シテ之ヲ字高須川ノ水利ト云フヘクシテ決シテ其水上泉源ノ如何ヲ區別シ或ハ之ヲ字高須本川ノ流水トナシ或ハ之ヲ支派ナル字燈打谷等ノ流水トナスヲ得ス是レ其本川ノ水源ノミニテハ水利充分ナラストスレハコソ如此往古ヨリ字燈打谷等ノ水利モ落テ字高須一帯川ノ流水トナルヘキ様水路ノ開鑿シアルモノナレハナリ然ルニ被上告ハ上告第二號第四號證及ヒ上告參考書(原裁判所ヘモ參考リ)ノ如ク上告村ニ於テ大ニ異議故障スルコトモ拘ハラス去ル明治十二年中ヨリ被上告證據物及ヒ圖面ノ如ク字岩野ト稱スル畑地壹町五反餘ヲ新開田地トナサントスルニ付之ニ灌漑スル養水ノ便ヲ得ンカ爲メ別紙乙號圖面ニ示スカ如ク最初新規ニ水路ヲ開鑿シ

圖面「印」(ニ印) 直ニ字高須川ノ水利ヲ引カント欲セシモ上告村ヨリ故障申立テ郡役所ノ水路是レナリ) 是認テ得テ所轄戸長立會ノ上該水路ノ上下各十間餘ツ、之ヲ填埋セシメ後來又該水路ヲ用フルノ意ナキコト示サシメタリ其事ハ即チ上告第三號證ニテ明瞭ナリ(水路ノ全部メサリシモノハ當時農務繁忙ナルカ爲メ餘ハ) 斯ク公然字高須川ノ水利ヲ引クコトハ上告農隙ヲ待テ之ヲ填埋セシムルコトヲ許シタリ) 村ノ故障ト行政官ノ停止ニヨリ終ニ其目的ヲ達スル能ハサルコトナリヨリ被上告ハ其翌明治十三年七月ニ至リ更ニ手段ヲ變更シ字燧打谷ノ水ハ古來字高須川へ落チ(乙號圖面「印」ノ水路) 該川ノ水ト混流シテ均ク其流末ニアル上告三ヶ村ノ養水トナリアリシナリ此ノ是レナリ) 字燧打谷ノ水ヲ前年來着手シタル開田ニ引用セントテ字高須川ヲ横斷シテ一箇ノ樋ヲ架シ(乙號圖面「印」ノ箇所ニシテ即チ本訴) 猶乙號圖面「印」ノ處へ水路ヲ新鑿シ且前年埋立タル「ニ印」ノ水路ヲ再鑿シテ全ク字燧打谷ノ流水(元高須川へ落ツ) 該架樋ヨリ自村新開ノ田地へ引取ルコト、ナセリ然レモ元來字燧打谷ノ流水タルヤ決シテ他ニ流注スヘキ水脈アルニアラス即チ落チテ字高須川ノ流水トナルコトハ上文開陳スルトコロノ如クナレハ假令字高須川ニ直接シテ水路ヲ開カサルモ均ク落チテ該川ノ流水トナルヘキ字燧打谷ノ水ヲ其未ダ高須川ニ落チサル以前ニアツテ悉ク其水利ヲ先取占領スルハ是レ其所爲恰モ耳ヲ蔽テ鈴ヲ盜ムニ異ナルコトナリシテ爲之上告三ヶ村カ從前引來ノ養水ニ欠減ヲ生スルノ理ハ猶ホ字高須川ニ直接シテ水路ヲ鑿ツト毫モ選フ所ナキヲ以テ上告村ハ尙又地方廳及ヒ郡役署(別冊參考書ニ詳ラカナリ) 等へ出願ノ末上告第五號證ノ如ク右新架樋管取拂并ニ新水路埋立ノ儀勸解願出タル處被上告ニ於テモ固ヨリ其所爲ノ非理不當ナルコトヲ覺

悟シ居レハコソ上告第一號證ノ如ク約定ナシ終ニ右新規ニ架設シタル樋管ハ該契約ノ如ク之ヲ取拂フタルコトハ是レ現ニ被上告カ始審答書并ニ口供ニ於テ自認シ且控訴狀ニ於テモ(假令原被ノ間ニ如何ナル契約アルモ其契約ハ云々始メヨリ成立サル無効ノモノナリ云々)ト明言スルヲ以テ會テ上告被上告ノ間ニ該契約ノ行ハレアリシコトハ甚タ明白ナリ然ルニ被上告ハ既ニ其前年ニ於テ上告第一號證ノ契約アツテ双方ノ間之ヲ履行シタルコトアルヲモ願ミス其翌十四年夏候養水ノ必要ナルニ際シ再ヒ前年同様ノ方法ヲ以テ字燧打谷ノ流水ヲ引取ルヨリ即チ本訴ニ及ヒタルモノニシテ之ヲ(新架樋取拂違約)ト稱スルモノハ畢竟其前年ニ成立タル上告第一號證契約ノ在ルアツテ同年ハ現ニ之ヲ履行シタルニモ拘ハラズ被上告ニ於テ此ノ契約ニ違背セルヨリ上告三ヶ村ハ爰ニ再ヒ該契約ノ如ク新規架設ノ樋管取拂ノ訟求ニ及フモノニシテ決シテ上告者ハ本訴ニ於テ初メテ該樋管取拂ノ訟求ヲ爲スモノニアラス該樋管ヲ取拂フヘキモノタルコトハ既ニ已ニ上告被上告ノ間契約アツテ存スルモノナリ果シテ然ハ本件ニ對シ與ヘテルヘキ裁判ノ主要ハ只被上告カ上告第一號證ノ契約ニ違背スルコトヲ得ヘキモノナルヤ否ヤ即チ該契約ハ上告被上告ノ間ニ効力ヲ保ツヘキモノナルヤ否ノ點ニ對シ詳明ニ辯明判決ヲ與ヘラルヘキハ當然ニシテ本件上告者カ(新架樋取拂違約)ト題シ訟求スルノ主要モ亦此ノ一點ニ外ナラス然ルニ原裁判所ハ本件上告者カ起訴ノ主要眼目ニ對シテハ更ニ何等一言半句ノ判決ヲ與ヘテレサリシハ甚タ不法ノ裁判ト思考ス

但本文被上告カ新規ニ架設シタル樋管ハ其目的獨リ字燧打谷ノ水利ヲ占領横取スルノ

ミナラス從來被告カ所有セル字柄木ノ耕地へ字高須川ノ水利ヲ引ク爲メ別ニ開鑿
アル水路ハ右燈打谷流線ノ上部ヲ横斷シ架樋以テ繼續シアレハ此ヲ切落シ若シハ壅
塞スルハ大ニ字高須川ノ水モ亦注下スルヲ以テ共ニ新架ノ樋管へ引取ルコト得ルノ
方法トナシアルモノナリ其術策ハ巧ミナルカ如キモ其所爲ハ惡ムヘクシテ是レ殊ニ上
告ニ付村カ本訴ノ萬不得止ニ出タル所以ナリ

又被告ハ上告第一號證ノ契約ヲ遵守シ一旦該樋管ヲ取拂フタル後尙又乙號圖面「印」
印」ノ箇所へ堰ヲ取設ケ最前埋立テシメタル「イ印」ノ水路ヲ再鑿シ字高須川ノ水利ヲ
引カントシタルニ付是又福井警察署へ願出テ巡查立會ノ上直ニ之ヲ取除カシメタル事
モアリタリキ

第三條

夫レ上告第一號證タルヤ雙方任意自由ノ甘諾上ニテ成立タル有効ノ契約ナルコト今更上
告者ノ喋々ヲ費ヤサ、ルモ未ダ被告上告ニ於テ該契約ノ無効若シクハ取消シ得ヘキモノニ
屬セリト爲スニ足ルヘキ程ノ論理ト舉證ヲナサ、ルヲ以テ明白ナリ然ハ今上告者カ被告上
告ニ對シ該契約ニ違背スルコトナカラシメ様トノ裁判ヲ求ムル場合ニ當ツテハ單ニ被告上告ヲ
シテ該契約ニ違背セス永シ之ヲ踐行スヘシト命セラル、ノ外他ニ本件ニ對シテハ上告被
上告兩造間ニ下サルヘキ裁判ノ理由ハ存スルコトナキモノトス然ルニ原裁判所ハ始終上告
者カ本件起訴ノ眼目主要トスル右上告第一號證ニ對シテハ更ニ何等ノ裁判ヲモ下サレサ
リシコト不法ナルハ前條既ニ論陳スルトコロノ如シ而シ今又原裁判所カ本件實地ノ臨檢

上其檢舉セラレタル所ナリトシテ本件裁判ノ材料ニ供セラレタル際ノ内其不法ノ尤モ著
明ナルモノヲ舉ケレハ即チ原裁判辨明第一條ニ「柄木ノ耕地へ用水ヲ引ク」ノ石樋ハ掛タ在
ルモ曾テ此水ヲ該溪水へ切落シタリト可視跟跡アラサルナリ而シテ燈打谷ノ溪水ハ織流
ナレハ高須川ハ大河ト謂ハサルヲ得ス云々(中)何トナレハ當時檢査ノ際ハ降雨雪勝ニシ
テ洪水ナレハ之ヲ以テ夏時ヲトスルニ足ラサルモノ、如クナレハ又以テ水勢ノ如何ヲ知
ルニ足ル云々(中)既ニ實地ノ景况即チ稻毛ノ刈跡及ヒ其稻粉ヲ以テ觀ルモ可知ナリ況ヤ
開田以來既ニ三ヶ年ニ於ケル曾テ被告カ養水ニ欠減ヲ來シタリト見認ムヘキ證據モアラ
サルナヤ)トアルモノ是ナリ何ソヤ被告上告カ字高須川ヨリ字柄木ノ耕地へ引用スル水路
ノ石樋ヲ切落シ該水ヲ字燈打谷へ流注セシムルカ如キハ元是レ被告上告カ隱密ノ所爲ナレ
ハ豈實地ノ臨檢上容易ク看認ノ得ラル、カ如キ跟跡ノ存シアルヘキ道理アラソヤ故ニ上
告者カ本訴ノ趣旨ニ於ケルモ決シテ如此被告上告カ隱密ノ所爲ノミヲ指シ上告三ヶ村カ用
水ノ妨害ヲナスモノト申張スルニハアラス即チ被告上告カ新規ニ樋管ヲ架シ主トシテ引取
ラント欲スル字燈打谷ノ流水タル被告上告モ亦歷々明言スルカ如ク元落チテ字高須川一帯
ノ流水トナリ其流末ナル上告三ヶ村ノ養水トナシ來リシチ一旦被告上告カ新規ノ所爲ニヨ
リ是迄字高須川へ落チ來リシ字燈打谷ノ水ハ一瀾モ字高須川へ注流セサルコトナリ隨テ
該川ノ水量幾分ヲ減少スヘキハ水利自然ノ理ニ於テ免カルヘカラサルノ數ナリトス然ル
ニ原裁判所ハ高須川ト燈打谷ノ水勢ニ大小アルチ原由トナシ其大河ナル高須川ト小流ナ
ル燈打谷トチ區別セラレ其小流ナル燈打谷ノ水利ハ舊來ノ慣習如何ニモ拘ハラス總テ被

上告一村ノミカ新規ニ樋管ヲ架シ該水ヲ占領横取スルモ毫モ上告三ヶ村カ引用スル養水ニハ欠減ナシト認定セラレタルハ甚ダ不當ノ裁判ト云フヘシ且夫養水ノ過不足増減ノ如キハ是レ必ス夏時現ニ引用ノ季節ニ於テスルニアラスンハ決シテ其實況ノ如何ヲ檢舉スル能ハス況ンヤ夏時ト雖モ歲ニ多雨ト旱魃ノ不同アツテ多雨ノ歲ハ以テ旱魃ノ歲ノ如何ヲ想像スヘカラサルヲヤ茲ヲ以テ上告者モ實地臨檢ノ事タル其季節ヲ得ルニアラスンハ到底無益ニ屬スルヲ知レハコソ即チ別冊上告要用書甲號願書ノ如ク實地臨檢ノ事ハ延期セラレンコト乞フタレトモ(時季ニ依リ水勢云々ノ儀ハ實地ニ就キ可申立)トテ願意聞届不相成依テハ季節其時ヲ得サルモ臨檢ノ上ハ實地ニ就キ夏時水勢ノ如何ヲ略陳スヘシト心得終ニ客年十一月廿八日ヲ以テ實地ノ臨檢ヲ受ル事トハナリシ然ルニ其前後數日ハ雨雲大ニ至リ爲之水勢滿漲シ迎モ時季ニ依リ水勢ノ如何ヲ實地ニ就キ指示陳辯スルニ由ナキヲ以テ尙又現場ニ於テ別冊上告要用書乙號願書ヲ差出シタルモ是又聞届不相成ニ付無據丙號受書ヲ差出シ一旦臨檢ハ相受ケタレトモ右上告要用書甲號乙號ノ願旨ヲ採用セス即チ季節ノ如何ニ關セス實地ヲ臨檢セラレタルノミニテサヘモ既ニ不法ノ裁判ナルニ猶且之レカ臨檢ヲ川面常流ノ時日ニ於テセラレス現ニ判文ニモ(檢査ノ際ハ降雨雪勝ニシテ洪水ナレハ之ヲ以テ夏時ヲトスルニ足ラサルモノ、如ク)ト記載アル如ク是レ正ニ上告要用書甲號乃至丙號ノ申立ト符合シテ當時洪水汎濫ノ爲メ川面一樣ニ異常ノ形狀ヲ呈シタル際會ニ於テ之レカ實地ヲ臨檢セラレ其水勢ヲ視テ以テ夏時ノ如何ヲトサレタルハ是レ實ニ不法ノ裁判ト云フヘシ如何トナレハ養水ノ多寡増減ハ夏時ト雖モ歲ニ多雨ト旱魃ノ

不同アルヲ以テ決シテ速了ノ斷定ヲ下スヘカラサルハ勿論ナルニ原裁判所カ本件ノ實地ヲ臨檢セラレタルヤ畜ニ季節其時ヲ愆リ且常流平水ノ時日ニ於テセサルノミナラス時恰モ洪水汎濫ノ異時ニ於テセラレタレハナリ

又原裁判所カ上告村ノ養水ニ欠減ナシト認定セラレタル(稻毛ノ刈リ跡)及ヒ(稻粃)ノ如キハ決シテ養水ニ欠減ナカリシコト證スルニ足ラス何トナレハ好シ收穫ハ實ラサルニモセヨ一旦播種シテ生立ツタル稻毛ハ牛馬ノ飼料又ハ田畝ノ肥料ノ爲メ總テ之ヲ刈取ルモノナレハナリ而ノ(稻粃)云々トアルモ當時ノ季節ハ現ニ判文ニモ所謂(稻毛ノ刈リ跡)アレハ決シテ現在耕地ニ稻粃ノ存シアルヘキ筈ナシ然ハ其際如何シテ上告三ヶ村耕地稻粃ノ實不實ヲ實檢セラレタルヤ是レ恐ラクハ實際檢舉シ得ヘカラサル事柄ヲモ恰モ檢舉セラレタルカ如ク記載シテ以テ實檢上上告三ヶ村ノ養水ニ欠減ナキ一ツノ實證トセラレタルハ甚ダ偏頗至極ノ裁判ナリトス若夫耕田稻毛ノ生立チ如何ニヨリ以テ該年養水ノ實況ヲ觀查セント欲セハ是レ稻毛刈取リ未前ノ實地ニ就キ之ヲ觀查スルニアラスンハ決シテ其實況ヲ知ルニ足ラサルコトハ原裁判所モ亦自ラ之ヲ認知セラレアレハコソ上告要用書丁號同接ノ追伸ニ於テモ(稻毛刈取前ニ檢査スレハ其景況モ明瞭セルニ付云々)トアルモノニアラスヤ然ルチ之レニ反シ(稻毛ノ刈リ跡ヲ以テ該年養水ノ欠減ナキ事)ヲトサレタルハ是レ原裁判所カ實地ノ臨檢ヲ必要トセラル、ノ本旨ニモ違フタル甚ダ不當ノ裁判ト云フヘシ

又(開田以來既ニ三ヶ年ニ於ケルモ云々)トアレトモ被上告カ新規樋管架設ノ初年即チ明治

十二年ハ上告第一號證ノ契約ヲ踐行シタル年ナレハ該年ハ決シテ上告三ヶ村ガ養水ノ分量ニ於テ欠減ヲ生スヘキ程ノ事ハ無之且其後ト雖モ全ク被上告カ爲ストコロニ任セタルニハアラス殊ニ水利ノ歲ニヨリ多少ノ増減多寡アツテ其分量ノ均一ナラサルコトハ前文論陳スルトコロノ如クナレハ苟モ被上告カ專恣ノ所爲ニヨリ後來上告三ヶ村カ水利ノ妨害トナルヘキコトハ務テ之ヲ除去セサルヲ得ズ即チ被上告モ亦該所爲ノ上告者カ妨害トナルコトヲ覺知シ居レハコソ現ニ上告第一號證ノ契約ヲ爲シタルコトアラスヤ然ハ此他上告者ヨリ養水ノ欠減ヲ生シタリトスルノ證據ヲ舉クル迄モナキ事ナルニ原裁判所ハ猶其證據ナシトシテラレタルハ甚ダ不當ノ裁判ト思考ス

又原裁判辨明第二條ニ於テ被上告カ字燈打谷ノ水源ナリトスル字清水池(被上告カ圖面ニ詳ラカナリ)

ハ決シテ被上告ノ所有ニアラサルコトヲ證明スル爲メ上告者カ差出シタル乙號圖面(字燈打谷字清水池等ノ所屬高須村ニ)

ニハ保證アラサレハ信據スルヲ得ズ且シヤ該敷地ハ原告地籍ニアラストスルモ其所有權モ共ニ原告ニアラスト見認ムヘキ證據アラサルニミナラス

云々(中略)然ハ假令江筋ハ無之モ灌溉ノ餘水ハ自然ニ燈打谷ヘ流下スルモノト認メサルヲ得ズ

ト裁判セラレタレモ若シ字清水池ノ地籍又ハ池敷カ被上告村ノ所屬若シクハ所有

ナラズニハ兼テ地方廳ノ認定ヲ經タル一村全圖(即チ右上告乙號圖面ノ如キモノ)及ヒ地券證等ノ以テ其

權利ヲ證據立ツヘキモノアルヘキ筈ニシテ殊ニ該池敷カ其所有ナラハ必ス其手ニ所持スル地券證ヲ舉ケ之ヲ證明スルハ實ニ被上告ニ取リテハ甚ダ容易ノ業ナルヘキニ被上告ハ

更ニ此等容易ノ證明ヲ爲サハルノミナラス上告者カ右乙號圖面ヲ呈出シ字清水池ハ全ク高須村ノ所屬所有ニ係リ決シテ被上告ニ於テ該養水ヲ自由ニ進退左右スルノ權利アラザルコトヲ證明シタルニ被上告ハ絶テ之ニ對シ反對ノ申立モアラサルヲ以テ見レハ該池敷ノ被上告カ所屬若クハ所有權ヲ有シ居ラサルコト明知スヘシ況ヤ該池ハ原裁判ニ所謂「池ト云フヘキ程ニアラサル」モノニシテ字燈打谷ヘノ水路モ開鑿シアルコトアラサレオヤ然ハ被上告カ該池ヲ以テ字燈打谷ノ水源トナストノ申立ハ當ニ否頭ノ空言ニシテ探ルニ足ラサルヲ明瞭ナルニ原裁判所ハ前文掲記ノ如ク猶字清水池ヲ以テ被上告ニ所有權アリトモ、如ク裁判セラレタルハ不當ト云ハサルヲ得ス

第四條

又原裁判ニ(以上説明ノ如クナルノミナラス原告ニ於テ該水ヲ以テハ現今新開ノ外開鑿致サス而シテ其下水ハ川尻村ヘ落サス高須川ヘ流落セシムヘキ旨明言セシ上ハ云々)トアレハ是迄開鑿シタル田地ニ灌溉スル爲メ新規ニ架設シタル細管カ上告村ノ妨害トナルニ付本訴ニ及ヒタルモノナルニ如何ニ被上告カ將來此外ハ該水ヲ引用セスト云ヒ又ハ開鑿セスト云フ能之レカ決シテ是迄既ニ遂ケタル所爲ノ妨害トナルヘキヲ除去スルノ道理トナラサルハ勿論ナレモ元來被上告ハ自ラ字燈打谷ノ流水ヲ占領横取スルノ權利アリト抗張スルモノナルニ斯ク是迄ノ外ハ該水ヲ以テハ開鑿セスト云ヒ又其下水ハ土地低下ナル比隣ノ川尻村ヘ落サス反テ之土地高上ナル高須川ヘ流落セシムト云フテ其自ラ權利アリトスルニモ似ス甚ダ字燈打谷ノ流水ヲ引用スルコトニ斷斷シテ自ラ制限ヲ立ツル所

以ノモノハ何ツヤ是レ則チ前第二條ニ開陳スルカ如ク其未タ落チサル以前ハ字燧打谷ノ水トナシ字高須川ノ水ト區別スルヲ得ルカ如クナルモ固ヨリ字燧打谷ノ水タル古今均ク落チテ字高須川ノ水トナリ流末三ヶ村ノ養水ニ供シ來リシモノナルチ一朝其慣習ヲ變シ字燧打谷ノ流水ハ被上告獨リ先ツ占領横取シテ自ラ專恣ノ所爲ヲ逞フスルコトハ畢竟是レ爲スチ得ヘカヲサルコトヲ認知シ居レハコソ如此其衷情ヲ實白スルニ至リタルモノトス而シテ被上告カ引用ノ下水ハ猶高須川ヘ流落セシムト云フモ土地ニ高低アルニヨリ是レ只タ言フヘクシテ行フコト能ハサルハ上告要用書戌號書面(實地臨檢ノ時)第六章第三項ニ申立タルトコロノ如ク然ルニ實地臨檢ノ際ハ洪水汎濫ノ故ナルカ精細ニ土地高低ノ度如何テモ實檢セラレスシテ全ク下水ハ高須川ヘ流落スヘキモノト認定セラレタルハ是レ單ニ被上告ノ片言ヲ妄信セラレタル甚タ不法ノ裁判ト思考ス

第五條

抑モ耕地ノ養水ニ於ケルヤ猶人身ノ衣食ニ於ケルカ如ク一日モ虧缺スヘカヲサル最モ緊要的ノモノナレハ容易ニ因來ノ慣習ヲ變シ若シクハ或ル一村ノ新所爲ヲ認メ該川筋關係村々ノ利害得失ハナカルヘシト臆斷速了スヘカヲサルハ勿論ニシテ殊ニ本訴ノ如キハ被上告カ新規ニ繩管ヲ架設シ古來上告三ヶ村カ引用ノ養水ヲ先ツ其上流ニ在テ占領横取シ專ラ他ノ新開地ニ灌漑セント欲スルモノナレハ從テ其流末ニアル上告三箇村ノ養水ニ欠減ヲ生スルノ道理アルコトハ是レ數條中ニ論陳スルトコロノ如ク而シテ被上告モ亦自己ノ新所爲ニヨリ流末三ヶ村ノ養水ニ欠減ヲ生セシメ即チ上告村ノ妨害ヲナルコトヲ認知マシ

ハコソ終ニ上告第一號證契約ノ成立チシ所以ナリ故ニ若シ被上告ニシテ該契約ニ違背スルコトアルニ於テハ上告者ハ飽迄之レカ踐行ヲ求メサルヲ得ス是レ流末ニアル上告三ヶ村ハ是迄平年引來リシ養水ノ有様ニテモ猶且不足ヲ生シ年次收穫ノ實ラサルコト屢々ニシテ現ニ三ヶ村ハ養水ノ引足ヲサルカ爲メ村内荒敗未墾ノ土地其幾數十町アルチ知ラズ然ルチ如此之レカ養水ノ上流ニ在テ字高須川ノ一水源トモ云フヘキ字燧打谷ノ水利チ一朝新規ニ壟斷セラル、片ハ雨濕平年ノ時ト雖モ猶一層養水ノ不足ヲ告クヘキハ必然ナリ況ヤ異常旱魃ノ歲ニ於テチヤ是レ上告者カ本訴ノ萬不得止ニ出タル所以ナリ然ルチ原裁判所ハ右第二條乃至第四條ニ論述スルカ如キ不法ノ裁判ヲ與ヘラレタルニ付今般上告シ該裁判ヲ破毀セラレノコトヲ請願ス

被上告村ハ再三召喚ニ及フモ之レニ應セサルチ以テ最早答辯ノ權利ヲ拋棄セシ者ト看做シ闕席ノ儘裁判ヲ下ス者也

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

上告者カ原裁判ヲ不當トシ論告スル條項ハ數個ニ涉ルト雖モ之レヲ要スルニ左ノ二項ヲ査定スルチ以テ其當否ヲ判別スルニ足レリトス

第一 原裁判所カ上告第一號證ニ對シ何タル判決ヲ與ヘサリシハ其與フルニ及ハサルヲ理由アリテ然リシヤ否ノ事

第二 原裁判所カ爲シタル實地臨檢ハ果シテ其實況ヲ檢擧シ得ヘキ方法ニ依リシヤ否ノ事

第一條

本案上告第一號證ハ曩ニ上告村カ被上告村ニ對シ新架繩取拂ノ勸解ヲ其筋ヘ請願シ遂ニ和
 濟トナリシ未成立タル契約ニシテ被上告村ハ即チ該證契約ニ基キ一旦新架繩ヲ取拂ヒタル
 モ再ヒ之レヲ架設シタルヨリ上告村ハ尙ホ其所爲ヲ不當トシ之レヲ取拂ハシメンカ爲メ本
 訴ヲ起シタル者ニシテ其訴求ノ根據トモシ者ハ即上告第一號證是ナリ此場合ニ於テハ右第
 一號證ノ効用如何ヲ判定スルハ必要ノ事柄ナルコト勿論ナリト雖モ上告人ハ控訴審理中頼ニ
 其論鋒ヲ轉シタルヤ明治十五年七月廿七日付原被連署ノ口供書ニ（本訴ハ原告^{被上}カ該
 繩ヲ懸ルモ後年ニ至ル迄果シテ被告^{上告}カ養水ニ欠減ナキニ於テハ之レカ故障ヲ爲スヘ
 キ意ナク但實地檢査ハ被告モ願フ所ニ御座候又原告ニ於テモ若シ此溝ノ水ヲ取り被告カ是
 迄養來リシ田面ニ差支アルニ於テハ取ルヘキ意ハ無之ニ付速ニ該繩ヲ取除キ可申依テ原告
 ニ於テハ飽迄實地ノ檢査ヲ仰キ奉リ候）トアリテ此論旨ニ依レハ最早上告第一號證ノ効用
 如何ニ拘ハラズ單ニ實地ノ利害得失如何ニ依テ新架繩ノ存廢ヲ決セントスルコアルコト判然
 タリ然ラハ則今ヤ原裁判所カ該證書ノ効用如何ニ對シ何タル判決ヲ下サ、ラシモ敢テ不法
 ト云テ得ザル者トス

第二條

被上告村カ宇高須川ニ新繩ヲ架シ燈打谷ノ養水ヲ引用スルカ爲メ上告三ヶ村ノ田面ニ灌溉
 スル養水ニ欠乏ヲ來スヘキヤ否ハ本案主要ノ論點ナリトス故ニ實地ニ臨ミ其利害得失ヲ檢
 スルハ固ヨリ當然ノ事ナリト雖モ如此場合ニ在テハ其養水ヲ要スルノ季節ニ於テスルコト
 ラカレハ其實況ヲ檢舉シ得ヘキ由ナカルヘシ何トナレハ季節異ナルハ水量モ從テ増減アル

ハ自然ノ理ニシテ其水量ノ多寡及ヒ水路ノ高低田面ノ摸樣等ハ其當時ノ形狀ヲ目撃スルニ
 アラサレハ其利害得失ヲ測知シ得ヘカヲサレ道理ナレハナリ然ルニ原裁判所本本案養水ノ
 利害ヲ臨檢シタルノ時ハ其養水季節ヲ經過シタル十一月ノ末ニ於テシタルモノナレハ此時
 ナリテ夏時ノ水量田面ノ摸樣等ヲ推知シ得ヘキニアラズ况ノヤ同判文ニ依ルモ其臨檢ニ當
 時ハ即チ雨雪騰ニテ水勢澎湃ノ時ナルニ於テヤ然ルチ此臨檢ニ依據シ其利害得失ヲ判定
 シタルハ不法ノ裁判ナリトス

又稻毛稻粉等ノ摸樣ヲ掲ケ上告村ノ耕地養水ニ障礙アラサルモノト認ムルノ資料ニ供シタ
 ルモ右ハ臨檢調書ニ記載セサル事柄ニシテ其臨檢調書ニ記載セサル事柄ヲ以テ認定ノ資料
 ニ供シタルハ越權ノ處分ナリトス

但右ノ外枝葉ニ涉ル事柄ニ對シテハ一々説明ヲ與ヘス

右第二條ノ理由ナルヲ以テ大坂控訴裁判所カ本訴ニ與ヘタル裁判ヲ破毀シ東京控訴裁判所
 ニ移ス者也

但上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

○第四百九十三號

代償金催促一件上告ノ判文（明治十六年八月廿七日上告）
 同十七年十月八日申渡

高知縣土佐國安藝郡穴内村住平

民谷相權三右代官人

同縣同國吾川郡弘岡中之村五十

七番地住平民

上告人

吉永聰

高知縣土佐國安藝郡穴内村百二

十四番地平民

被上告人

谷柳次

上告ノ要領

上告人ハ上告第四號證ノ如ク債主東富旭英ヘ代辨スヘキノ裁判ヲ受ケ上告第一號證ノ借用金額ヲ代辨シテ上告第三號證即チ該金ノ請取證ヲ受領シ代辨ノ義務ヲ盡シタルヲ以テ今回之カ返済ヲ求メシニ豈圖ンヤ被上告人ハ曩日自分カ所有セル漁物問屋株ヲ上告人ニ賣却シ其代金ト上告人カ債主旭英ヘ代償シタル金額ト義務相殺ヲ爲セシモノニシテ表面ニ代辨ノ名義ナルモ其實跡代辨ニアラス請取ルヘキノチ請取タルモノナレハ毫モ請求ニ應スヘキ理由ナシト抗辯シ其證憑ヲ舉止スルコトナク唯タ上告人カ代辨セシヨリ數年間催促セサリシト漁民等即チ引合人カ事實ヲ保證セシト云フヲ以テ之ヲ證明シタリ然レハ該漁物問屋株タルヤ上告第三號證記載ノ人名即チ有光榮次小松兼次小松只次平井嘉吉前田芳太郎前田織藏等ヨリ買得シ明治十二年六月三日該契約ヲ解除シタルモノニシテ毫モ被上告人トハ關涉スヘキノニアラス果シテ然ラハ何ソ被上告人言フ如ク義務相殺或ハ請取ヘキノモヘ請取タリト云フヲ得ンヤ然ルニ控訴廳ハ上告人カ正確ナル證據ヲ廢棄シ被上告人ヲ保庇セル引合人等ノ口頭陳述ヲ妄信シ法律ノ禁制ヲタル人證ヲ採用シ公明ナ

ル證據ニ勝ルノ裁判ヲ與ヘラレタルハ證據裁判ノ法律原則ヲ誤リタル不法ノ裁判ト思考ス

又上告人ハ上告第二號證ノ如ク被上告人ノ負債ヲ代償セシニ附キ法律上ノ利子ヲ付シ償還ヲ請求セシニ初審廳ハ該點ニ對シ何等ノ判決ヲ下サレサリシヲ以テ被上告人ノ控訴ニ附帶シ代辨金三拾六圓五拾五錢ニ對シ一ヶ年二割ノ利息ヲ附加シテ償却ヲ求メタルニ控訴廳ハ此點ニ對シ何ノ辯明ヲ付セラレサル而已ナラス總テノ證據物ヲ廢棄スヘキ理由ナシ附セラレサリシハ不法ノ裁判ト思考ス

被上告者ニ於テハ赤貧ニシテ出庭シ能ハス答辯ノ權ヲ拋棄スルニ付闕席ノ儘裁判相成モ不苦旨申立タリ

依テ大審院ニ於テハ闕席ノ儘判決ヲ與フル左ノ如シ
 被上告者ニ於テ相殺ヲ爲シタリト云フ漁物問屋ノ株式カ被上告者ノ所有ナリシトハ被上告者及引合人等ノ陳述ニ止マリテ確カナル證據アルニアラス唯上告者カ漁物問屋株式代金ノ内四拾圓ヲ東富旭英ノ長男義晃ニ渡シタル事ハ或ハ其問屋株式ハ被上告者ヨリ之ヲ買得シタルモノ、如シ然レハ平井嘉吉カ原裁判所ニ於テ該株式賣却代金ノ内四拾貳圓ハ小松兼次五拾圓ハ小松只次カ受取タル旨ノ口供ト上告第三號證ニ被上告者ノ記名ナキ事トチ參照スレハ該株式賣買ハ被上告者ニ關係ナキモノ、如シ又被上告者申立ノ如ク上告第一號證ノ負債ハ嘗テ被上告者カ所有セル漁物問屋株式ヲ上告者ヘ賣却シタル代金ト相殺スヘキ道理アルモノナラハ上告者ヲ以テ負債主名義ニ爲スヘキ筈ナルニ却テ受人ノ位置ニ置キタル而已

ナラズ當初東富旭英ヨリ被上告者カ上告第一號證負債ノ訟求ヲ受ケシキ會テ相殺ノ事ヲ申立タルトナク只無資力ナリトテ身代限リヲ爲シタル事蹟ニ據ルモ被上告者ハ相殺スヘキノ理由ヲ有セサルモノ、如シ況ンヤ平井嘉吉ニ於テモ曩キニ東富旭英ヨリ上告第一號證ニ據リ受人タル義務ノ訟求ヲ受ケタル際上告第四號證ノ如ク（原告請求金員ハ可拂ナレバ其實力無之）ト申立タル而已ニテ毫モ相殺ノ事ヲ申立タル事ナキニ於テオヤ然ルニ原裁判所ハ是等ノ點ヲ措テ單ニ上告者カ四拾圓金ヲ義晃ニ渡シ拾圓金ヲ旭英ニ渡サントセシ事ト引合人等ノ陳述而已ニ據リ上告者ノ請求相立タル旨ノ判決ヲナシタルハ其事實認定ノ理由人備ハラサル裁判ニシテ不法ト爲サ、ルヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ高知始審裁判所カ本訴ニ對シ言渡シタル終審裁判ヲ破毀シ更ニ適當ノ裁判ヲ受ケシメシカ爲メ德嶋始審裁判所ニ移スモノナリ

但上告入費ハ被上告者之ヲ負擔スヘシ

○第四百九十四號

地所明渡請求一件上告ノ判文（明治十七年六月十四日上告）
年十月九日申渡

東京府京橋區本材木町三丁目二

十八番地平民

上告人

杉本吉太郎

東京府神田區猿樂町二十一番地
平民

右代言人

角田眞平

東京府京橋區本材木町三丁目二

十八番地平民

被上告人

高田慎藏

本件ハ地所明渡請求ノ訴ニシテ被上告者ノ起訴ニ係ルモノナリ今其訴旨ヲ要約スレハ被上告第二號證ノ如ク火災ヲ起シ將來ノ恐レアルヲ以テ被上告第一號證明文ニ基キ地所明渡ヲ請求スト云ケニアリ而シテ上告者始審ニ勝テ終審ニ敗訴シタリ

終審裁判ノ要旨ヲ約スレハ甲第一號證書面期限ノ定メナキモ（若地所御入用之節者何時成共無異議明渡引拂可申候）トノ約定アレハ決シテ之ヲ永賃借ナリト云フヲ得ヌ而シテ原

告（被上告者）カ該地ノ明渡ヲ要スルハ第一被告（上告者）ハ鍛冶職ニテ常ニ火ヲ多ク用ヒナカク不

注意ナルヨリ甲第二號證ノ如ク將サニ大害ヲ惹起サントセシ程ニテ危險究レリトノ事第二

該地ハ防火線内ナルニ被告（上告者）ハ其規則ニ從ハス家屋ハ未ダ木造ノ儘ナリトノ事第三該

地ヲ以テ原告（被上告者）自家防火ノ場所ニ充ント欲スルトノ事ニシテ右第一ノ内甲第二號證ニ

記載アル事實及ビ第一ノ事項ハ被告（上告者）ニ於テモ事實ニ相違ナキヲ自認セリ而シテ被告

（上告者）ハ職工ナレハ商人等ノ如ク住居スル場所ニ依リ著ク利害ニ關係アリトモ推測シ難ク

長シヤ利害ニ關係アリトスルモ原告（被上告者）ニ於テハ被告（上告者）カ望ムナラハ其家屋モ買取

遷ス可ク引越入費モ支辨ス可ク日數ノ猶豫モ與テ可シト斯ノ如ク相當ノ理由ト相當ノ方法

ト準備ヘテ明渡ヲ要ムル上ハ地借人ナル被告（上告者）ニ於テ之ヲ抗拒スル能ハサルモノナラズ

又被告(原告)ハ原告(被告)ニ對シ自今六ヶ月ニ超過セサル日數ノ猶豫ト金百圓以内ノ引越料ト鑑定人ヲシテ鑑定セシメ其代價ニ依リ家屋ヲ賣渡ストノ三個ノ内一二若クハ悉皆ヲ要ムルヲ得ヘント判定セラレタリ

上告者カ終審裁判ヲ不法トシテ破毀ヲ求ムル要領左ノ如シ

第一項

甲第一號證ニ地所御入用ノ節ハ何時成共無異議明渡引拂可申候トアルヲ以テ明渡ヲ請求シ得ルキモノトセラレタルハ甚ク習慣ニ背戾セシ裁判ナリ何トナレハ何時ナリトモトハ如何ナル事ナルヤ決シテ執行シ得ヘカテサル事實ノ空言ノミコハ只借地證一般ノ例言ニシテ是迄屢々有之候判決例ノ如ク之ヲ以テ直ニ明渡ヲ請求シ得ヘキ證據トハ爲マ得サルナリ而シテ證書ノ疑ハシキ文字ハ現在スル事實ニ就キ解釋スルノ正シキニ如クナシサレハ其現在スル事實ニ於テハ永代借地ナルヘキハ明ラカナリトノ事

第二項

原裁判所カ被告上告者カ明渡ヲ請求スル一ヨリ三ニ至ルノ理由ヲ相當ナリトセラレタルハ不法ナリ何トナレハ被告上告二號證ハ家根裏板堅一尺横八寸程焦タルヲミニテ他ハ更ニ火移ラサルモノナレハ之カ爲メ三百年間モ永住セシ地ヲ急ニ明渡スヘキ義務ヲ生スルノ理ナシ第二防火線内ナルニ其規則ニ從ハス云々ハ甚ク解シ難シ吾邦ハ是ニ付明ラカニ法律アリ木造ヲ改築スルハ相當ノ手續ヲ經ハ猶豫ヲ得ルモノナリ上告者ハ此手續ニ從ヒ法律ヲ遵守セシモノナリ而シテ家屋ノ木造ナル事ハ被告上告者カ熟知ノ土地所買取者ル譯ナ

レハ今ニ至リ之カ爲メ急ニ明渡ヲ要ムル權利ヲ生スヘキ理ナシ第三該地ヲ自家防火ノ場所ト爲ントノ口實ヲ以テ明渡ヲ求ムルモ防火ノ事ニ付テハ政府カ法律ヲ設ケ夫々ノ手續アリテ數年ノ内ニ石造トナルモノナレハ今日ニ於テ特更ニ之ヲ口實トナシ地所ノ明渡ヲ請求スヘキノ理ナク全ク始審廳ニテ看破シ判定セラレタルカ如ク其娛樂ノ爲メ庭園ヲ設ケテトスル目的ニ外ナラサルナリ以上三箇ノ理由ハ一モ相當ニアラサルヲ原裁判所カ之ヲ以テ相當ノ理由トセラレタルハ不法ナリトノ事

第三項

原判文ニ日數ハ六ヶ月引越料ハ百圓以内家屋ハ鑑定代價トノ判定ナレハ數百年間永住ノ地ヲ離レ職業場ノ位置ヲ失ヒ只僅カニ事實價格ニ至ラサル金高ヲ以テ之ヲ相當ナル方法トハ驚人タル裁判ナリトノ事

第四項

全判文ニ被告ハ職工ナレハ商人等ノ如ク住居スル場所ニ由リ著ク利害ニ關係アリトモ推測シ難シトアレハ是誠ニ事實ヲ知ラサル不法ノ裁判ナリ職工連一様ナラズ商人連一様ナラズ然ルニ只商人ト職工トノ廉ノミヲ以テ利害之如何ヲ判定セシハ不法ナリトノ事
本院ニ於テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辯明

上告要旨第一項ヲ案スルニ甲第一號證ニ地所御入用ノ節ハ何時成共明渡引拂可申候トアルハ事實ノ空言ニ付永代借地ナリト云ニアレハ之ヲ要スルニ原裁判官ト意見ヲ異ニスト云フ

遺棄ルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス
 全第二項ヲ案スルニ被上告者カ明渡ヲ請求スル三箇ノ理由ヲ相當ナリトセザレタルハ不法ナリト云ニアレハ原裁判所カ此ノ如キノ判定ヲ爲シタル所以ハ甲第一號證ノ永代貸借ニ非ラズト決スル以上ハ失火ノ大小及ヒ防火線規則等ノ如何ニ拘ハラス被上告者カ自家ヲ護ルニ必用トスル精神ノ見ルヘキモノコレアル以上ハ不當ニアラスト爲シタルモノニテ今之ヲ不法トスルノ廉ナキモノトス如何トナレハ地所ノ所有主カ自家護衛ノ爲メ必用ヲ主張セシトスルニハ失火ノ燒毀ニ至リタルモノ及ヒ諸般ノ規則ニ違ハサルモノニ對スルニアラザレハ之ヲ主張スル能ハストノ道理ナク到底原裁判官ト意見ヲ異ニスト云ニ歸スヘケレハナリ但第三理由ハ始審裁判官看破ノ如ク娛樂ノ爲メ庭園ヲ設ケル目的ニ外ナラスト申立ルモ庭園ヲ設ケタルハ自家障火ノ具ニナラサルノ道理ナク結局始審裁判所ヘ申立テ擴充シタルト見ルヘキモノニテ別ニ目的ヲ詐リタルモノトモ論シ難ケレハ亦以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

全第三項ヲ案スルニ數百年間永住ノ地ニ離レ職業場ノ位置ヲ失ヒ只僅ニ事實價格ニ至ラサル金額ヲ以テ相當ナリトノ判決ハ不法ナリト云フニアレハ果シテ相當ニ非ラズトセハ宜ク其相當ナラサル所以ノ證據ヲ掲テ之ヲ論破スヘキ筈ナリ然ルニ其手續ヲモ爲サズシテ事實價格ニ至ラズ云々論告スルハ無證ノ陳辯ヲ以テ原裁判所ノ事實認定ヲ非難スルモノナルニヨリ上告ノ理由トナスヲ得ス
 全第四項ヲ案スルニ該項ノ所論ハ本訴ニ緊要ナラサルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス如

何トナレハ本訴争地カ永世貸借ニアラスシテ所有主カ相當ノ理由ト相當ノ方法トヲ具シ之カ明渡ヲ求ムル以上ハ借地人ノ利害如何ニ依テ之ヲ抗拒シ得ヘキモノニ非サレハナリ

判決

右ノ理由ヨリ依リ本上告ハ受理モサルモノナリ

○第四百九十五號

水車營業差拒一件上告ノ判文

(明治十七年三月廿九日上告
年十月十三日申渡)

岐阜縣美濃國本巢郡柱本村平民
 木野村定四郎外四十五名總代兼
 同村平民

上告人

木野村 勝太郎

東京府京橋區桶町二拾二番地寄

留福井縣士族

右代言人

中島 又五郎

岐阜縣美濃國本巢郡北方村平民

被上告人

廣瀬 幸四郎

本件ハ水車營業差拒ミノ訴ニシテ上告者ノ起訴ニ係ル者ナリ今其訴旨ヲ要約スレハ上告者
 ノ許諾ヲ經スシテ水車營業ヲ創メ爲メニ用水ノ妨害ヲ與フルモノナリ故ニ水車營業ヲ廢シ
 水路ヲ移テ從前ノ如クナラシメ尙ホ本案裁判ニ先テ天王以下ノ廻水路ハ果シテ惡水路

ナルヤ否ヤノ豫審裁判アテノヲ訟求シ被上告者カ答辯ノ要旨ハ天王杖樋下字清水ノ落谷迄ノ間ニ水車營業場ヲ設立シタル者ニ付上告者ノ關係ナキハ勿論別ニ用水ノ妨害トナルコトナシ又天王杖樋以下ノ水路ハ果シテ惡水路ナリヤ否ヤハ乙第六號證ニ依リテ其惡水路ナルヲ明瞭ナルノミナラス上告者カ明治十六年三月十六日付ヲ以テ始審廳ヘ捧呈セシ辯駁書第三條ニ惡水路ナルコトヲ自陳スルヲ以テ視ルモ上告者カ訴求ハ不當ナリト云フニアリ上告者ハ始終審共敗訴シタリ

終審裁判所カ豫審裁判並ニ本案裁判ノ要旨ハ左ノ如シ
本案裁判ニ先立豫審裁判ノ旨趣ハ上告甲第一號經費支出豫算表ニ柱本ヲ除ク人足雇賃トアツテ他ニ出金ノ證ナク甲第二號豫算表ニ柱本ヲ除ク番水諸費トアリ又全證第八款ニ柱本ヲ除負債償還金元利トアリ原告(上告者)出金ノ證左ナク第三號協議費賦課徵集及ヒ雜則第一條ニ協議費賦課方ハ總テ每村ノ田反別ニ賦課ストアリテ但シ柱本村ハ舊慣ニ依リ可受分ヲ其反別ノ半額ニ賦課ストアリ同證第三條末項コト乙井組柱本ヲ除クノ外十二ヶ村内ニ置トスルノミニテ天王杖樋下ノ天王川惡水路ハ原告(上告者)ノ用水路ナリト視ルヘキ證ナク甲第三號證ハ柱本村ト北方村ノ間ニ於テ爲取替證ニシテ本訴ニ關與セス甲第五六號證ハ村役員等ノ調印ナキ不完全ノ書類ナルヲ以テ採用セス又甲第七八九及上告番外第一號ノ數證モ天王杖樋下ノ天王川ヲ以テ原告(上告者)ノ用水路ノ證ト爲スヲ得ストノ判定ニテ向本本案裁判ニ對シテモ亦該地ハ北方村ノ地内ニシテ其北方村ニ於テ被上告者ノ水車營業ヲ許可シタルハ乙第一二號證ノ通りナルヲ以テ上告村ニ於テ被上告ノ水車營業ヲ

差拒權利ナキモノナリトシテ上告者ヲ全敗セシメタリ

上告者カ終審裁判ヲ不當トシテ破毀ヲ求ムル要領ハ左ノ如シ

第一項

豫審判文ノ初段ニ甲第一號經費支出豫算表ニ云々トアリテ他ニ出金ノ證ナク(甲第三號豫算表ニ云々トアリ原告(上告者)出金ノ證左ナク)トノ判文ナクシテ甲第一二號證ノ經費ハ上告村カ分擔スルモノニ非サルモノ、如ク又之レニ對シ上告村カ出金スルモノニ非サルモノ、如ク斷定セラレタリ是レ實ニ該證ノ誤解ニ出テタルモノナラシ抑モ甲第一二號證ハ用水路ニ關スル經費豫算ノ議案ニシテ該井掛リ組合十六ヶ村(上告被上告外十四ヶ村)カ分擔スル所ノ經費ナレハ獨リ上告村ノミ是レヲ分擔セサルヲ謂フナク又之レニ對シ出金セザルノ道理アラサルナリ若シ該議案ノ每項ニ上告村カ分擔スルトハ明文ナキヲ以テ上告村カ出金スルモノニ非ストセハ何レノ村ニ於テ該經費ヲ負擔スヘキヤ毎項一モ其村名ヲ記載アルヲ觀ス是レ組合十六ヶ村カ盡ク分擔スルノ經費ナリシ事論ヲ俟タサルノ理ナリ況ンヤ該議案中番水費ニ關スル條項ノミ特別ニ(柱本村ヲ除ク)トノ明文ナルヲ觀レハ其他ノ條項ハ柱本村ヲ除キタルニ非サル事益以テ明瞭ナルニ於テチヤ然ルハ原裁判所ハ該證如何ニ解釋セラレタル乎原告出金ノ證左ナシト判定サレタルハ頗ル不當ノ裁判ナリト信ス

第二項

同判文ニ(第二號協議費賦課徵集及雜則(甲第一二號證)ノ)第一條ニ云々トアリ同證第三條

末項ニ云々トスルノミコシテ天王杖樋下ノ天王川惡水路ハ原告ノ用水路ナリト認ルルキ證ナクト斷定セラレタリ然レモ該二號議案賦課徵集法ノ第一條ニ但柱本村ハ云々其田反別ノ半額ニ賦課ストアレハ上告村ハ第一號議案即チ甲第二號證ニ顯ハス如ク該井筋ノ經費(番水費)ヲ分擔スル事明白ナリ已ニ該井筋ノ經費ヲ分擔スル事明白ナル上ハ論所ナリ天王杖樋下ノ水路ハ上告村ノ用水路ニ非ス上云フ事得テ何トナレハ上告村ノ經費支出スル用水ハ論所ナル天王川ト一帯ニシテ之レヲ通過スルニ非サレハ上告村ノ引致得テラレヘキノ水路アラサレハナリ若シモ天王杖樋下ニ至リ突然北方村ノ惡水路ニ變ズルハ上告村ハ徒ラニ用水路ニ關スルノ經費ヲ支出スルノミニシテ其用水ヲ引致スルノ一段ニ至テハ全ク之レヲ關係ヲ絶テ何等ノ權利ナク又尠少ノ得益ヲモテ其水ヲ引致スルナリ已ニ權利ナク得益ナキモノナラハ何ソ其上流ノ用水路ニ關スル義務即チ井水取締以下ノ日當給料或ハ原水堀浚費以番費ヲ分擔スルノ謂レアラソヤ凡ソ權利アル者ハ必ス義務アリ義務アルモノハ之レニ對スルノ權利アルヘキハ普通ノ理ナリ豈獨ニ義務ノミアラテ權利ナキノ道理アラセセ是レニ因テ之ヲ觀レハ論所モ亦上流ニ均シク用水ノ通路ナリ事最モ明瞭ナリ然ルニ原裁判所ハ上告村ノ該證ノ如ク用水費ヲ分擔スルニ何等ノ義務ナク認メラレタル乎此ノ必要ナル論點ニ對シ何等ノ說明ヲモ與ヘズ單ニ上告村ノ用水路ナリト視ルヘキ證ナシト裁判セラレタルハ最モ不當ノ裁判ナリト信ス殊ニ原裁判所(天王川惡水路ニ云々)ト突然茲ニ掲出シテ恰モ天王杖樋下ノ天王川ハ惡水路ナリト古來確定シアリテ其惡水路ナル名稱ニ付テハ原被告互ニ異議ナキモノ、如ク該判文ニ顯ハ

サレタルハ甚ダ失體ノ判文ナリト信ス何トナレハ天王杖樋下ノ水路ハ用水路ナルヤ惡水路ナリト本件ノ重大ナル爭點ナレハ先ッ惡水路タルヘキノ說明未下シタル上ニ非サレハ惡水路ナリト定メ得ヘカラサレハナリ然ルニ斯ノ如キ判文ヲ突然掲出シタルハ蓋シ原裁判所ニ始審裁判ニ拘泥シテ最初ヨリ天王杖樋下ノ天王川ハ惡水路ナリト一概ニ思ヒ込マレタルカ故ナラン是レ唯々文法上ノ非難ニ止マルモノ、如シト雖モ之レカ爲メ審理上本件ノ全體ニ影響ヲ生シタルト尠少ナラサルヲ以テ聊カ茲ニ論述シテ原裁判所ノ審理上ノ不法ナル一端ヲ證セントス

第三項

同判文ニ(甲第二號證)柱本村ト北方村ノ間ニ於テ爲取替證ニシテ本訴ニ關係スル下裁判ニシテ果シテ如何ナル主意ナルヤ明瞭ナラズト雖モ己ニ柱本村ト北方村ト爲爲取替證ナリト看認メラレタル上ハ本訴ニ關係ナシト云フ事得テ何トナレハ上告村ハ柱本村ニシテ被告上告人ハ北方村ノ村民ナレハ互ニ該契約ヲ結ビタル主人ナリト面シテ該證中(其餘川換等新規目論見候事相互ニ一切致問敷候)トテ明文アレハ用水路ニ於テ被告上告人カ新ダニ水車ヲ建設シタル如キ又之レカ爲メ水路ヲ變更シタル如キハ全ク該契約ニ違背シタル所爲ナリシコト明白ナリ左スレハ被告上告人ハ該契約ニ由ルモ亦以テ本訴ヲ抗拒スルノ條理アラサルナリ豈ニ焉ソ該證ハ本訴關係ナシト云フ事得ン

第四項

同判文ニ(甲第五六號證)當時村役員等ノ調印モナキ不完全ノ書類ナルヲ以テ採用セス

ト裁判セラレタレハ該兩證ハ明和天明年度ニ舊大垣役所へ書出シタル明細帳ノ如ナレハ
 村役員ノ調印ナキハ當然ノ事ニシテ決シテ不完全ナルモノニ非サルナリ殊ニ該證ハ其紙
 質墨色及ヒ調製方等頗ル經久ノモノニシテ近時ノ調製ニ非サル事ハ一目瞭然タリ故ニ原
 裁判所モ信スルニ足ラスト云ハスシテ調印モナキ不完全ノ書類ナリト説明セラレタレハ是
 身蓋シ其經久ノ形狀ヲ看認メテ當時ノ調製ニ係ル書類ナリトハ信セラレタルモ專ラ調印
 アルヘキモノトノ誤解ヨリ斯ル裁判ニ出タルモノナラン然レハ調印ナキハ反テ當然ノ事
 ナルヲ以テ之レカ爲メ不完全ノ書類ナリトセラレタルハ全ク不當ノ裁判ナリト思考ス

第五項

同判文ニ(甲第七八九及原番外壹號ノ數證モ天王以繩下ノ天王川ヲ以テ原告人用水路ニ
 證ニ爲スヲ得スト)アレハ其第七號證ハ北方村ノ地内ナル地下村ノ舊記ニシテ其文中乙
 井ヨリ水引下ク云々藤坪堰所ニテ堰上ケ右ノ水ニテ地下村北方町柱本村田所へ引取)ト
 アル如ク上告村等ノ用水ハ藤坪堰ニテ堰上ケタル水ヲ用ユルモノナレハ論所ハ上告村ノ
 用水路ナルヲ知ルヘキナリ何トナレハ藤坪堰ナルモノハ論所井筋ノ上流ニアルモノナリ付
 該堰ニテ堰上ケタル水ハ論所ヲ通過スルニ非サレハ上告村へ引致スルハ水路又ニ其井
 ナル又甲第八號證ハ地租改正以前乙井組十三ヶ村カ水利ヲ受クル分量ノ定度ニシテ其井
 筋ノ經費モ亦此ノ石高ニ賦課シタルモノナリ尤モ上告村ハ甲第十號繪圖ニ顯ハス如キ乙
 井組井田ヨリ順次分派シ來ルタル第三分派井筋即チ正利東ニ落込ミタル用水ヲ引致ス
 ルモノニシテ其正利東ニ井掛リ九ヶ村合高三千四百拾四石ノ内上告村ニ五百八拾九石

對スルノ權義ヲ有セリ道ハ甲第八號證第四項ニ明カナリ而シテ正利東ノ井筋ハ論所ト同
 一ノ井筋ナレハ上告村カ其水利ヲ得ントスルニハ必スヤ論所ヲ通過セサル可カラズ然レ
 ハ論所ハ上告村ノ用水路ナリ事益以テ明了ナリ斯ノ理由ナレハ該數證ハ天王以繩下ノ
 天王川即チ論所ハ上告村ノ用水路タルヲ證スルニ充分シカアルモノナリ然ルニ原裁判所
 ハ何カ爲メ該證ハ用水路ノ證ト爲スヲ得サルヤ之レカ説明モ乏シ漠然排斥セラレタルハ
 甚テ不法ノ裁判ナリト信ス

第六項

原裁判所カ本案裁判ニ乙第四號證ヲ採用シテ(用水期節中ハ論所ナル天王以繩下切リ
 通水セシメサルモノナリ)ト裁判セラレタリ然レハ該四號證ハ被上告自己ノ陳述ニ異ナ
 ラサル保證ナレハ固ヨリ證據ト爲スヘキノ効力ナキモノナリ何トナレハ論所ノ水路ヲ北
 方村ハ惡水路ト爲シ用水期節中天王以繩下切リ上告村へ通水セシメサルハ北方全村
 ノ利益ニ屬スルモノナレハナリ故ニ北方村ハ直接ノ被上告ニ非サレハ其實被上告ト同一
 ノ關係者ナレハ其保證ハ被上告人自己ノ陳述ニ異ナラス殊ニ其保證ハ何等據ルキヲ證
 據アリテ爲シタルニ非ス唯タ云々ノ仕來リニ候トノ保證ニ止マルモノニシテ所謂口頭無
 證ノ陳述ニ過キス左スレハ該保證書ハ證據タルノ効力ナキモノニ付固ヨリ採用スルキモ
 ノニ非サルナリ然ルニ原裁判所ハ之レヲ採用シテ論所ハ北方村ノ惡水路ナリト判定セラ
 レタルハ甚テ不當ノ裁判ナリト信ス
 本院ニ於テ辯明及ヒ判決ヲ與フル左ノ如シ

第一條

上告要旨第一項ヲ案スルニ原判文ニ於テ甲第一號證云々甲第二號證云々出金ノ證ナリトシ
 タルハ上告人カ甲第一二號證豫算表中ニ於テ一金モ出サ、ル様相聞ヘ不都合ナルカ如クナ
 ルモ畢竟文官ノ足ラサルニ出タル語弊ニシテ其實上告人カ論所天王川ニ對シ出金ヲ證
 ナレトノ意味ナルコト其下文ニ記スル所及ヒ被上告者ノ答辯等ニ依テ之ヲ知リ得ヘケレ
 ハ敢テ以テ不都合ト云テ得サルモノナリ如何トナレハ下文ニハ天王川惡水路ハ原告^{上告}
 ノ用水路ナリト視ルヘキ證ナク結モアリテ其精神ノ在所ヲ知リ得ヘキノミナラズ被上
 告者カ甲第一二號證ニ對スル辨解ニ該證ハ上流云々組合聯合ノ經費ヲ支辨スル云々トアル
 如ク該井筋ノ上流ニ付テハ上告者モ出金シアルコトヲ認メアレハ原裁判所カ故テ之ニ違マ
 テ出金セズト言渡スヘキ道理ナクレハナリ

第二條

同第二項ヲ案スルニ果ソ論所天王川ヲ通過スルニ非サレハ上告村ニ引致スヘキ水路ナキト
 ハ或ハ本項ニ論告スル如キノ道理アルヘシトイヘ上告村ニハ道眞防風繩ノ用水路アルノ
 ミナテ不判文ニ載示セル北方村元役所前ト唱マル所ニハ大小ノ水路アリ云々一ハ天王川繩
 ノ上大井神社ノ西ヨリ下流シテ役所前ヲ通過シ北方村宇寺内ニ至リ清冰ヲ出水ヲ落合ト云
 如キ實迹アリト之レヲ動カス能ハサル以上ハ上告村ニ引致スヘキ水路ニ線アリ道理ニ付以
 テ上告ノ理由トスル事ヲ得サルモノナリ如何トナレハ論水滲外上告村ニ引致スヘキ水路アリ

ルルハ權利ナクシテ義務耳ヲ盡ス等ノ議論ハ言フ能ハサル筋合ニ歸スヘケレハナリ

但原判文中突然惡水路ト書シタルハ文理上不都合ナレト上告者ノ用水路タルヘキ證據ナ
 キ以上ハ到底惡水路タルニ相違ナキニヨリ破毀ノ原因トスルニ是ヲサルモノトス

第三條

同第三項ヲ案スルニ甲第三號證ニ所謂川換等新規目論見云々致間敷トタルハ其上文ニアル
 兩岸切立川浚等ヲ立會ニテ爲スヘキ場所ニテ致ス間敷キ事ヲ約シタル旨意ナルハ其明文ニ
 依テ知ルヘキモノナリ然ルニ論所天王川ニ於テ上告村カ切立川浚等致サズトハ始審以來ノ
 明言スル所ナレハ該證ノ本訴ニ關係ナキヲ無論ナルニヨリ原裁判所カ甲第三號證云々本訴
 ニ關與セズト言渡タルハ當然ナリトス

第四條

同第四項ヲ案スルニ本項ハ原裁判所カ甲第四五六號證ハ無印ナルヲ以テ採用セズトシタル
 ハ不法ナリト云ニアリテ要スルニ原裁判官ト意見ヲ異ニスト云ニ過キサルヲ以テ上告ノ理
 由ト爲スニテ得サルモノトス

第五條

同第五項ヲ案スルニ原判文ニ甲第七八號證云々ノ數證モトシタルハ其上文ヲ受ケテ理由ヲ
 審シタル旨趣ナレハ敢テ不備ノ裁判ト云コトヲ得ズ如何トナレハ七號證ハ甲第五六號證ニ付
 テノ説明ト均シテ該證ニ記スル用水ハ論所ヲ通過スルニ非サレハ引致スル能ハサル水ニコ
 レナク又八號證ハ甲第一二號證ニ對スル理由ト同シク論所ニ對シ出金シタル證據物ナラサ

レハナリ

第六條

同第六項ヲ案スルニ該項ハ原裁判所ニ申立サル事柄ヲ以テ證據ノ取捨ヲ非難スルモノナレハ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ本上告ハ受理セサルモノナリ

○第四百九十六號

地所引渡請求一件上告ノ判文(明治十七年三月八日上告
年十月十三日申渡)

東京府神田區三崎町一丁目一番

地寄留山口縣士族

上告人

河野通

山口縣長門國阿武郡萩堀内村百

十六番地士族

上告人

井上正吉

山口縣長門國阿武郡椿郷西分村

五百四十五番地士族

上告人

前原正直

東京府神田區三崎町一丁目二番

地寄留新潟縣士族

右代人

伊藤熊太郎

東京府京橋區銀座二丁目二十一

番地寄留大分縣士族

右代言人

元田肇

山口縣長門國阿武郡山田村七百

七十一番地士族

被上告人

横田源藏

東京府京橋區南紺屋町十一番地

大分縣士族

右代言人

國枝毅

上告ノ要領

一本訴ノ論地ハ舊藩政ノ比ヒ岩國屋敷ト唱ヘ毛利家ノ末藩吉川駿河守(周防岩國ニ居城ス故ニ此唱アリ)

ノ諸臣出張ノ邸ナリシ處毛利家萩地引拂ヒノ後ハ吉川ノ家臣横田久次郎(即チ被上告ノ亡父)該

地ヲ管理(留守居)ナシシカ故ニ役場帳簿上ニ吉川家ノ名義ニナスヲ憚リ其管理者タル

横田久次郎カ名義ヲ用ヒヨリ然ルニ明治三年舊藩主毛利家ノ小牧方ニ於テ牧場(萩ハ

産地)ニ用ヒシ爲メ上告乙第一號證ノ如ク毛利家ニ買上ケ之レヲ使用シタルモ明治五

ナリ

年小牧方廢止不用ニ屬シタリ於是乎上告人共ハ曾テ該牧場ノ掛リ員タル緣故ニ因テ毛利家ヨリ買拜領ナシタル當時拜領ノ證左トシテ乙第一號證ヲ領收シ其翌明治六年ヨリ向フ十年年餘下年季ヲ願出テ許可セラレシ以來十有餘年ノ舊歲月間絶ヘス公ケニ妨ケナク該地ノ開墾ニ從事シ所有權ヲ實行セリ被上告ニ於テ適々帳簿上名義ノ改ラサル爲メ當時村吏ノ取調違ヒヨリ論地ノ券狀ヲ下附セラレ其名義存在スルヲ奇貨トシ突然今ニ至テ之レカ所有者ナリト唱ヘ該地取戻ヲ訴出テ之レヲ横奪セシコト欲ゼリ然ルモ原裁判所ハ被上告非理ノ求メテ偏信シ判決狀ノ如ク(果シテ被告カ買拜領トヤランニ申受タリトセハ其舉證ナカレヘカラス云々適實ノ申立ナリト爲シ難シ)ト夫レ上告者カ買拜領ニナシタル確證ハ上告乙第一號證ノ如ク該證ハ毛利家ニアルヘキモノカ上告者ノ手ニアルハ正サシク買拜領ナシタル實證ナリトス况ンヤ數十年ノ久シキ所有者ノ權利ヲ實行セシ證蹟アルニ於テテヤ又該判決ニ(明治四年七月廢藩置縣ノ際山口縣ヲ置タルニ云々事實ニアラサル申立ナリトス)ト上告者ニ於テ山口藩廳ヨリ買拜領セシト申立タルナラハ或ハ該判決至當ナランカ然レモ原裁判所ニ向ヒ未ダ曾テ山口藩廳ヨリ拜領セシトノ申立ハ決シテナサハルナリ毛利家ヨリ拜領シタリト社々明言セザルルチ斯ク判決ナリシハ判官越權ノ處分ト云フヘキナリ又該判決ニ(乙第一號證ハ初メヨリ原告ハ認メス云々公簿ヲ藩有ニ改メサルヘカラサルハ云々久次郎名前ヲ存スルノ理ナシ)ト右ハ前陳ノ如ク其始メ被上告父久次郎カ管理者タリヨリ公簿ニ其名義アリシヲ乙第一號證買上ノ別ニ毛利家所有ト改ラサル誤リヲ傳ヘシテ僥倖シ徒ニ被上告ハ

該證ヲ認メスト云フニ過ス抑モ乙第一號證ノ眞正ナルコトハ該證一見セハ實ニ判然明白ナルモノニテ被上告父久次郎名下ノ印章ノ眞正ナルコトハ乙第三號證ニ就テ益々瞭然復タ一點ノ疑ナキモノナリ又該判決ニ(明治六年中被告ハ其筋ノ許可ヲ經テ開墾セル形跡アルニアラス云々其開墾ノ義モ正當ノ手續ヲ爲シタルモノトナシ難シ)トハ何等ノ妄認ナルヤ上告者ニ於テ開墾許可ノ確證ナキニモ現ニ十餘年久シキ以前該地ノ開墾ニ着手シ之チ良好ナラシメ之カ作益ヲ收メ來レル實蹟アリ今日所有者ナリト公言スル被上告者一言ノ故障ヲ容レズ又上告者カ不正ノ占有者タラハ數十年間管轄ノ職過スル道理ナカラシ故ニ上告者カ論地ニ對シテ此ノ實蹟アリシハ即チ正當ノ手續ニ因テ開墾ニ從事シ爾來連綿公ケニ妨ケナク其所有權ヲ實行セシコトハ論ヲ俟タズ以テ明ラカ

ナリトス
以上開陳スル如ク原裁判ハ審理ヲ盡サハル違法裁判ト考量セリ依テ原裁判ヲ破棄セテ

大審院ニ於テ判決スルコト左ノ如シ
上告人ハ上告乙第一號證ハ毛利家ニテ牧場トナス爲メニ吉川家ヨリ論地ヲ買入レタル證ニシテ毛利家ニアルヘキモノナレト今上告人ノ手ニアルハ是正シク毛利家ヨリ買拜領ノ證左トシテ領收シタル實證ナルノミナラズ十有餘年間公ケニ論地ヲ開墾シ更ニ他ノ妨ケヲ受ケタルコトナク所有權ヲ實行セリ然ルニ原裁判官カ(果シテ被告^{上告}人)カ買拜領トヤラズニ申受^{上告}セリトセハ其舉證ナカル可ラス云々適實ノ申立ナリト爲シ難シ)ト爲シタルハ不法ナ

又論地ハ元岩國屋敷ト稱シ吉川家ノ所有地ナレトモ役場ノ帳簿ニ其名義ヲ記入スルヲ憚リ
 同家ノ留守居タリシ被上告人ノ父横田久次郎ノ名義ト爲シ置キタル者ナレハ毛利家ニ於
 テ上告乙第一號證ノ如ク吉川家ヨリ論地ヲ買入レタル當時毛利家ノ名義ト爲スヘキ處其手
 續ヲ爲サハリシヨリ其誤リヲ傳ヘテ久次郎ノ名義ト爲リ居ルト雖モ上告乙第一號證ハ同乙
 第三號證ヲ以テ證明スル如ク久次郎ノ印影ナルヲ眞正ニシテ復タ一點ノ疑ナキ者ナリ然ル
 ニ原裁判官カ(乙第一號證ハ初メヨリ原告(被上告人)ハ認メス云々公簿ヲ藩有ニ改メサル可
 サルハ普通ノ事ニテ依然明治六年迄久次郎名前ニ存スルハ理ナシト爲シタルハ不法ナリ
 ト申立タリ

又論地ハ開墾許可ノ證ナキモ現ニ十有餘年開墾ニ着手シ其作得ヲ收メ來レルモ被上告人曾
 テ故障ヲ爲シタルコトナク又若シ不正ノ占有者タランニハ地方廳モ之ヲ默過スル理ナカレハ
 シ然ルニ原裁判官カ(其筋ノ許可ヲ經テ開墾セル形跡アルニ非ス云々其開墾ノ義モ正當ノ
 手續ヲ爲シタルモノトナシ難シ)ト爲シタルハ不法ナリト申立タリ
 右三個人申立ハ要スルニ原裁判官カ主權ニ屬スル事實ノ認定ニ對シ非難スルニ過キヌシテ
 其認定ノ理由ニ於テ不當ト認ムヘキ廉ナキヲ以テ上告ノ資料ト爲スコト得ス
 上告人ハ原裁判官ニ對シ山口藩ヨリ買拜領セリトノ申立ヲ爲シタルコトナシ然ルニ原裁判官
 カ(明治四年七月廢藩置縣ノ際山口縣ヲ置キタルニ其翌明治五年中山口藩ヨリ買拜領申
 受タリトハ事實ニズテ申立ナリ)ト爲シタルハ不法ナリト申立タリ

右申立ニ付原訴訟書類ヲ審閱スルニ上告人カ申立ル如ク上告人ハ原裁判所ニ於テ毛利家ヨ
 リ買拜領セリトノ申立ヲ爲シタルモ山口藩ヨリ買拜領セリトノ申立ヲ爲シタルコトナシ若シ
 原裁判所ハ毛利家ト山口藩トハ同一視スヘキモノトノ事實アルニ於テハ先ツ其理由ヲ附セ
 サル可ラス然ルニ其理由ヲモ附セスシテ上告人カ申立サル事柄ヲ申立セシモノ、如ク爲シ
 テ判決ヲ下セシハ越權ノ處分ナリトス
 右末項ノ理由ナルヲ以テ廣島控訴裁判所カ本案ニ與ヘタル裁判ヲ破毀シ東京控訴裁判所ニ
 移スモノナリ
 但上告人費ハ被上告人ノ負擔タルヘシ
 ○第四百九十七號

封書取戻一件上告ノ判文(明治十七年七月廿二日上告
 年十月十三日申渡)

神奈川縣武藏國久良岐郡下大岡
 村平民

上告人

桐ヶ谷四郎左衛門

同縣同國同郡同村平民亡忠左衛門

門相續人

被上告人

荒川伊三郎

外四名

本件起訴者ハ上告人ナリ其訴旨タル曾テ鈴木仙太郎ナル者ニ封證一通ヲ預ケ置キシニ自分

不在ノ節被上告人等ニ於テ擅ニ該證ヲ引取り之ヲ渡サ、ルコ付其取戻ヲ求ムト云ニアリ
被上告人共ハ該封證ハ乙第三號受取證ノ如ク已ニ返還シタルモノナレハ右要求ニ應ジ難シ
ト拒絕セリ

上告人ハ始終審共ニ敗訴シタリ

東京控訴裁判所裁判ノ要旨左ノ如シ

一 原告(上告)ニ於テ本訴ノ封證ハ被告(被上)乙第三號證ニ記載セル證書類トハ別種ノモ
ノナル事ヲ證明セン爲メ甲第三四號證及ヒ甲第九號證ヲ提出スルモ甲第三四號證ハ原

告自己カ義務者タルヘキ證書ヲ自カラ所持スルモノニシテ何時ニテモ作爲シ得ヘキモ

ノナリ又甲第九號證ハ反覆者近藤一政ノ證言ニ係ルヲ以テ採用セストノ事

一 乙第三號證ニ據レハ原告ハ已ニ封證ノ返還ヲ受ケタルモノナリトノ事

一 若シ返還ヲ受ケザリセハ乙第一號證ノ裁判ニ服従スヘキ理ナシトノ事

右ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告スル主點左ノ如シ

一 上告甲第三四號證ヲ採用サレザリシハ不當ナリトノ事

二 上告甲第九號證近藤一政ノ證言ハ真正無偏ノモノナリトノ事

三 被上告乙第三號證ハ封證ノ受取證ニアラズトノ事

四 被上告乙第一號證人確定裁判ハ他事件ニ係ルヲ以テ本訴ヲ起スニ妨害ナシトノ事

大審院ニ於テ右上告ニ對シ辯明並ニ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辯明

右第一二主點ト上告狀ヲ參照シ之ヲ按スルニ原判官ハ甲第三四及九號ノ三證ニ付テハ其採
用スヘカラス且其信スヘカラサルノ理由ヲ附シ以テ之ヲ排却シタリ上告人ハ之ニ對シ縷々
論難スル所アルモ畢竟原判官ト見解ヲ異ニスト云フニ過キサレハ破毀ヲ求ムル材料ト爲ス
ヲ得サルモノトス

第三主點ハ原判官カ乙第三號證ニ付夫々理由ヲ示シ上告人カ求ムル封證ノ受取書ナルヲ
認定セシニ對スルノ上告ナレハ是亦破毀ノ因由ト爲サ得サルモノトス

第四主點ニ付原判官ヲ按スルニ其該判旨タル被上告乙第一號證裁判確定ハ他事件ニ係ルモ
現ニ上告人カ受タル裁判ニシテ封狀貳通ヲ上告人カ受取タルコトヲ申渡シアルモノナルニ若

シ今上告人申立ノ如ク其封狀ヲ受取ラサルモノナラハ右裁判ニ服従スヘカラストノ道理ヲ
示シ本訴ヲ裁定スルノ一證トナセシモノニシテ上告人カ解釋スル如ク本訴ヲ起スニ妨害ア

リト云ノ意ニ非ストス其他甲第十號十一十二號證ヲ以テ論スル所アルモ該數證ハ原裁判所
ニ呈供セサルモノナレハ之ヲ以テ上告ノ資料トナスヲ得サルモノトス

判決

右ノ筋合ナルニ依リ本上告ハ受理セサルモノナリ

○第四百九十八號

賣藥營業差留一件上告ノ判文(明治十七年三月一日上告
年十月十三日申渡)

大阪府東區南久太郎町三丁目四

十番地平民

上告人

小山忠兵衛

東京府芝區南佐久間町二丁目十

五番地寄留群馬縣士族

上村 乾

大阪府北區旅籠町七番地平民

小山忠兵衛

右代言人
被上告人

上告ノ要領

第一條

被上告人カ上告第一號ノ契約ニ違反シ疥癬湯藥ヲ製造發賣シ上告人ノ營業ニ妨害ヲ與フルヲ以テ上告人ヨリ被上告人ヘ係リ該賣藥營業ノ差留ヲ請求スル者ナリ而シテ大阪始審裁判所ハ能ク其實際ヲ闡明セラレ被上告人ハ正シク契約ヲ違背シ上告人ノ營業ヲ妨害セシ者ト判定セラレ該賣藥ノ發賣ヲ廢止ス可キ者也トノ判決ヲ下サレタリ然ルニ被上告人ハ之レニ服セヌシテ及控訴タルニ大阪控訴裁判所ニ於テモ始審裁判所ト同シク上告第一號ノ誓約ニ背キ上告人ノ營業ノ妨害ヲ與ヘタル者ト判決セラレタリ然ルニ該判決ノ一部執行命令文中前項判決ノ旨義ニ矛盾セシ不當ノ廉アルヲ以テ其一部ノ破毀ヲ求メ更ニ適當ノ命令ヲ乞フニ在リ

第二條

原控訴裁判所中疥癬湯藥ハ一切賣出サ、ル又紛敷製方ハ致サ、ル旨ヲ相違ヒタルニモ

拘ラス云々(中)原告申立採用セストアツテ判決ノ前項ニ(右事實ノ證アルヲ以テ控訴原告ハ(被上告人)控訴被告(上告)第一號契約ニ違背シ被告賣藥營業ノ妨害ヲナスモノトス)トノ判決ヲ與ヘラレ其後項執行命令文中所々へ差出シアル藥箱ヲ原告(被上告人)カ住所名義ニ改製サトアル一部ノ命令ハ甚ダ不完全ニシテ前項判文ノ旨義ニ抵觸スル者ト思量ス何ゾトナレハ被上告人カ發賣スルハひせん藥ノ記標ハ恰モ上告人ノ藥箱ノ記標ト其形狀体裁ヲ同ラシ又ひせん御藥トアル文字及印章モ殆ト類似セリ左レハ命令ノ如ク住所ノ一部ヲ被上告人ノ名義ニ改製スルモ尙ホ上告人ノ藥箱ト紛シテ歷然被上告人ノ名義ヲ以テひせん丸湯藥ヲ發賣スル痕跡現存シテ上告第一號ノ約旨ニ悖リ前項判決ノ旨義ニ背馳スル命令ナレハナリ依テ原判文執行命令中前項ノ判決ニ抵觸スル一部分ヲ破毀セラレ更ニ適當ノ執行命令セラレヨコナ冀望ストノ事

上告退申要領

第一條

本案ハ賣藥營業差止メト題スル訴ニシテ上告人カ被上告人ヘ對シ請求ノ目的ハ始審訴狀ニ訴的ヲ掲グル如ク被上告人小山忠兵衛カ疥癬湯藥ノ製造發賣ヲ差留ムルニ在ル者ニシテ原被兩造カ初審以來所争ノ主點ハ被上告人ノ行爲ハ上告第一號ノ契約ニ違背スルトセサルト正當ノ理由アツテ上告一號契約ヲ結ビタル被上告人ハ上告人ノ營業シアル疥癬湯藥ニ類似スル疥癬湯藥ヲ製造發賣セサルノ義務アルヤ否ヤノ二點ニ外ナラズ然リ而シテ始審處ハ被上告人ノ行爲ハ上告第一號ノ契約ニ背キ上告人ノ營業ニ妨害ヲ與フモノト

被告ノ要求ノ如ク該疥癬湯藥ノ發賣ヲ廢止スヘキトノ判決ヲ與ヘテ然ルニ被
 止告人ハ之レニ服セズ其裁判ヲ非難シ併テ上告人ノ請求ヲ不當ナリト論難セリ然レモ控
 訴廳モ初審廳ト同シク上告一號ノ契約ハ上告人カ從來製造スル如キ疥癬湯藥ハ一切賣出
 サズ又紛敷製方ハ致サ、ル旨ヲ誓タル者トノ認定ヲ下サレ被上告人ノ申立ヲ總テ排斥セ
 ラレタリ而シテ控訴原告(被上告人)ハ控訴被告(上告人)第一號契約ニ違背シ被告(上告人)
 賣藥營業ノ妨害ヲ爲スモノト明瞭ニ判決ヲ下サレ被上告人營業スル招牌ヲモ取除カシ
 ラレ上告人ヲ直トシ被上告人ヲ曲トセラレタル點ヨリ之レヲ看ルルハ上告人カ始審訴狀
 ニ掲ケル訴的(被告小山忠兵衛カ疥癬湯藥ノ製)トアル訴旨ヲ採用セラレタル者ノ如シ然
 レニ執行命令ノ一部分中何々ハ差出シアル藥箱ヲ原告住所名義ニ改製シトアル一部ニ至
 テハ上告第三號證ノ如ク恰モ上告人ノ藥箱ニ類似シテ殆ント紛ラハシキ商標ノ全部ヲ取
 除カシテ其藥箱ノ商標中僅カニ被上告人ノ現住所名義ニ改製ラレ、ニ止マリ上告人
 ノ訴旨ノ如ク未タ全ク上告人ノ害ヲ除キ去ラサルカ如キ不完全ノ命令ヲ免レズ何ソ
 トナレハ苟モ被上告人カ現ニ發賣スル疥癬湯藥ノ招牌ノ全部ヲ取除カシタル上ハ其害ノ
 尤モ著シキ商標ノ全部ヲモ十日間ニ取除カシテ上告人ノ害ヲ全ク除去セラル可キ事ナレ
 ニ藥箱ノ商標中僅カニ住所ノ一部分ヲノミ改製セシムルカ如キ命令ハ當中上告第一號明
 文ノ如ク紛ハシキ仕爲メ方ハ決シテ仕間數トアル約旨ニ背馳スルノミナラズ原裁判所カ
 自ラ判決ニ主旨ニモ副ハサル不備不法ノ命令ナリト認料ス

第二條

亦原裁判ヲシテ上告人ト同町ノ住所ヲ記載シアル招牌ヲ取除カシメ藥箱ノ商標中僅ニ住
 所ヲ被上告人ノ現住所ニ改製セシメラル、ニ止マリ始審裁判ノ如ク被上告人カ同姓同名
 ナリテ上告人カ多年發賣シ來レル疥癬湯藥ニ類セザル疥癬湯藥ヲ發賣シ差止メラレタル者
 ニ非スシテ上告人ノ訴的ノ全部ヲ達セシメサルニ於テハ爾以テ違法ノ裁判タルヲ免レズ
 何ントナレハ果シテ控訴裁判ヲシテ始審ノ判決ニ異ナリ上告人ノ訴旨ヲ全ク達セシメス
 シテ僅ニ訴的ノ一部分ヲ達セシムルニ止ル者トモハ控訴廳ハ須ラク上告人ノ論旨中反對
 ノ部分ニ對シテハ其理由ヲ辨明セサルヘカラス然ルニ毫モ斯事ナシテ執行命令スルニ
 至テ上告人ノ訴的ヲ全ク達セサル命令ヲ爲スカ如キハ要スルニ越權違法ヲ裁判ナキトノ事
 被上告人ハ貧困ニシテ本院へ出頭シ能ハサルヲ以テ欠席ノ儘裁判ヲ受ケ度旨明治十八年八
 月廿二日所轄戶長ヲ經テ申立タリ

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

本案終審判文ノ旨趣ヲ審按スルニ原裁判所ニ於テ被上告人ノ所爲ハ上告第一號證ノ契約ニ
 違背シ上告人ノ賣藥營業ヲ妨害スルモノト認メナカテ其判決ニ至リ(原告)ハ此宣告ヲ
 受ケタル當日ヨリ日數十日間ニ所々へ差出シアル藥箱ヲ原告(上告人)カ住所名義ニ改製シ又招
 牌ハ直ニ取除クヘシトアルヲ以テ看レハ其發賣ヲ差止メタルニアラスシテ單ニ上告人ノ
 妨害ヲナル可キ商標招牌ノ類似スル部分ノミ上告第一號證ノ約意ニ基キ改製ス可シト判示
 セシモノ、如シ果シテ然ラハ其實及法律ノ理由ヲ明示セサル可ラサル筋合ナルニ原判文
 中其明文ノアルニアラサレハ前後矛盾ヲ免レサル不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ大阪控訴裁判所カ本案ニ與ヘタル裁判ヲ破毀シ廣島控訴裁判所ヘ移ス
モノナリ
但土告入費ハ被上告人ノ負擔タルヘシ
○第四百九十九號

小作米代金取戻一件上告ノ判文(明治十七年三月廿一日上告)
年十月十三日申渡

兵庫縣攝津國川邊郡南田原村平

民

松原七郎右衛門

東京府京橋區西紺屋町九番地平

民

兵庫縣播磨國美囊郡法光寺村平

民

被上告人

東京府日本橋區濱町二丁目十番

地寄留埼玉縣平民

右代理人

上告ノ要領

第一條

第一項 本案小作米ノ生スル反別七町四反八畝拾貳歩ノ地所ニ元ト兵庫縣播磨國美囊郡
法光寺村法光寺ノ朱印地ニシテ明治十年三月汎々入札拂上ナリタル際上告人ハ落札シ
明治十一年一月廿一日ヲ以テ上告乙第一號證ノ如ク地所引渡サレ上告乙第二號證ニ從
ヒ爾來上告人ハ地租ヲ上納シ純然タル所有者ナリシ當時直チニ該地所ヲ被上告ヨリ可
引揚管ナリシモ被上告ハ法光寺ノ住職ニシテ從來耕作ヲ爲シ居タルニ付其儘小作セシ
メ置キタルモノナリ

第二項 明治十一年一月上告者カ該地ヲ所有セシ以來同年五月三十一日迄ノ小作米ハ當
然上告者カ所得ニ歸セサル可カラサルモノナレハ被上告ヘ對シ之レカ要求ヲ爲シ得ル
ニ被上告モ異議ナク上告乙第六號及ヒ被上告甲第一號證ノ如ク戶長立會ノ上雙方ノ合
意ニ依リ其授受ヲ爲シタルモノニシテ上告乙第六號證ニ(右ノ作徳金相渡シ方ノ義御
規則ニ基キ貴殿ヘ御拂下ケ相成候節ヨリ本年五月三十日迄作徳金ノ内ヘ相渡申候云々
戶長與川善十郎①小作代健養寂心②)及ヒ被上告甲第一號證ニ(右之小作徳金ハ御規
則ニ基キ私ヘ御拂下ケ相成候節ヨリ本年五月卅日迄ノ作徳金ノ内ヘ正ニ請取申候)ト
アル所以ナリ

第三項 前項ノ如ク明治十一年一月ヨリ同年五月三十一日迄ノ作徳米金ヲ被上告カ甘諾
シテ戶長立會ノ上其授受ヲ爲シナカラ上告乙第二號證ナル兵庫縣廳ノ縣達ニ組替ナル
美囊郡役所カ被上告甲第二號證ノ如キ郡達アルヲ奇貨トシ自己カ怠慢ヨリマテ被上告

甲第二號證附屬ノ如ク明治十年度ノ借地料ヲ上納シタルヲ口實トシ糞キニ引渡シタル作徳米金ヲ取戻サントスルノ不當ナル固ヨリ費辯ヲ要セサル所ナレハ上告者ハ之ヲ排斥セントスル所以ナリ

第二條

第一項 原裁判所判決第二項ニ曰ク(前其他ノ殘金ハ法律上ノ利息ヲ添付シ原告(被上)ニ返戻ス可キ者也)ト蓋シイカナ原裁判ノ不當ナル蓋シ原裁判所ハ所争ノ作徳米金ヲ以テ滿一年ノ作徳米金ト誤認シタルノ結果ヨリシテ斯ノ如キ不當ノ裁判ヲ下シタルニ過キサル可シ然レモ個ハ是レ決シテ滿一年ノ作徳米金ニアラスシテ明治十一年一月ヨリ同年五月三十日迄五ヶ月間ノ作徳米金ナル事ハ別ニ證據ヲ求ムル迄モナク現ニ上告乙第六號證ニ(前右ノ作徳金相渡シ方ノ儀ハ御規則ニ基キ貴殿ハ御拂下ケ相成候節ヨリ本年五月三十日迄作徳金ノ内ニ相渡申候云々)被上告甲第一號證ニ(前右ノ小作徳金ハ御規則ニ基キ私ニ御拂下ケ相成候節ヨリ本年五月三十日迄ノ小作徳金ノ内ニ正ニ請取申候云々)トアリテ而シテ同證中「貴殿江御拂下ケ」若クハ「私江御下ケ」トテ詞ハ明治十一年一月ヲ指シタルヤ實ニ觀易キ事柄ナリトス何トナレハ上告乙第一號證ノ如ク上告者ハ兵庫縣廳ヨリ拂下ケヲ受ケ全ク上告者ノ所有ニ歸シタルハ明治十一年一月ナレバナリ然レモ況ンヤ右甲乙兩號證ハ戸長立會ノ上被受シタルモノナレハ該地所ノ上告者ハ所有ニ歸シタルノ果シテ明治十一年一月ナリヤ否ヤヲ臆別セザルニ理由ナキニ於ケルヲヤ斯ノ辯シ來レハ上告乙第六號證被上告甲第一號證記載ノ米金ハ滿一年

ノ作徳米金ニアラスシテ明治十一年一月ヨリ同年五月三十日迄ノ作徳米金ナル事益々以テ明瞭ナリ然ルニ原裁判所ハ之ヲ以テ滿一ケ年ノ作徳米金ト妄認シ月割ヲ以テ被告ニ受領ス可キ如キ人裁判ヲ下シタル不當ニアラスシテ何ゾ

第二項 上告者ハ假リニ數歩ヲ退キ上告乙第六號證及ヒ被上告甲第一號證ノ米金ハ滿一ケ年ノ計算ナリトシ原裁判所判旨ノ如ク月割ニシテ計算シ超過スル部分ハ之ヲ被上告者ニ返戻ス可キモノトスルモ是亦不當ノ裁判ナリトス原裁判所判決第一項(前)「小作分ハ小作米代三百拾五圓拾九錢八厘ト見積リ其金額ノ内地方稅五圓(蓋シ拾五圓ノ拾代金ヲ引去リ殘金ヲ月割トナシ云々)トアリ然レモ此ノ地方稅五圓(ノ字ヲ脱セシナ

テ)乙第六號證内譯)ト米五石八斗ノ代金(同上内譯第二四)及ヒ改正入費拾三圓九錢九厘(第二項ニ相當ス)ト引去ル可キモノニアラストハ被上告者カ原裁判所ニ向テ自ラ陳供スル所ナリ然ルニ原裁判所ハ單ニ改正入費拾三圓九錢九厘八厘丈ケヲ引去リシメテ殘ル地方稅ト米代金ヲ謂ハレトシ引去ラシムルハ裁判ヲ爲シタルハ被上告者カ求メセル金員ヲ引去ラシメタルモノニシテ是亦不當ノ裁判ニ過キサルナリ

前條ノ理由ニ付原裁判ヲ破毀アラントテ請フトノ事
大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ
本案上告ノ要點ハ左ノ二項ナリトス

一 原裁判官カ上告ノ六號證田反別七反八畝拾貳歩トアル下ニ此作徳米三百拾五圓拾九錢

一 八厘ト記載アルハ該地ニ對スル壹ケ年ノ作德米ナリト判定シタルハ不當ナリトノ事
二 原裁判官カ被告上告人ノ求メサル改正入費金拾三圓九錢八厘ヲ上告人ヨリ返戻スヘキモノト言渡シタルハ不當ナリトノ事

右第二項ヲ審按スルニ上告第六號證書ニ記載セシ作德米代金三百拾五圓拾九錢八厘ハ上告者ハ明治十一年一月ヨリ五月迄ノ該地七反八畝拾貳步ニ對スルノ作德米ナリト申立被告者ハ明治十一年一ケ年ノ作德米ナリト辯論シ本按爭點ノ緊要ナルモノナレハ原裁判官ハ之ヲ審明シ其何レノ作德米ナルヤヲ判別スヘキモノナルニ是等ノ點ニ對シ何等ノ辨明ヲ與ヘス且其理由ヲモ示サスシテ明治十一年一ケ年分ノ小作代金ナリト言渡シタルハ審理ヲ盡サ、ル不法ノ裁判ナリ

右第二項ヲ審按スルニ被告上告者カ上告者ニ對シ請求スル所ハ作德米代金ノ内ニ於テ改正入費金拾三圓九錢八厘地方税金拾五圓諸費米五石八斗ノ三點ヲ引去リ残り金額ノ返戻ヲ求ムルモノナルニ原裁判官ハ地方税ト米五石八斗ノ三點ノミヲ引去リ残り金額ヲ月割ニ返戻スヘキモノト言渡シ其改正入費ハ之ヲ引去ルヘカラサルノ理由ヲ示サ、ル不法ノ裁判ナリ

但シ地方税金拾五圓ナルコトハ上告第六號證内譯第四項ニ掲載アリ且上告被告者ニ於テモ明認シ敢テ異議アルモノニ非サルニ原裁判官言渡書ニ地方税五圓ト記シタルハ全ク拾ノ字ヲ誤脱シタルモノト謂ハサルヲ得ス依テ上告人ハ此點ニ對シテハ原裁判所ニ之カ填補ヲ乞フヘキモノニシテ此誤脱ノ廉ヲ以テ本案破毀ヲ求ルノ理由ト爲ス得ルナリ

右ノ理由ナルヲ以テ明治十七年二月廿二日大阪控訴裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ヲ破毀シ廣島控訴裁判所ニ移スモノナリ

但シ上告入費ハ被告上告者ノ負擔タルヘシ

○第五百號

新規水除土手取拂上告一件判文

(明治十七年九月十一日上告
年十月十四日申渡)

新潟縣越後國西浦原郡松橋村入

倉周三外六十三名總代兼同村平

民

上告人

木原忠太郎

同縣同國同郡平岡新田村平民

被告上告人

田邊嘉太治

外五名

本件ハ上告人ノ起訴ニシテ其訴旨ハ被告上告人ニ於テ古來曾テ存在セサル土手ヲ新築シ爲メニ損害ヲ被ムル事少カラス依テ之ヲ取拂ハシメント請求スルニ在リ
被告上告人ハ該土手タル新タニ築設シタルニアラス古來存在スルモノナルヲ以テ上告人ノ請求ニ應スヘキ理由ナシト拒ミタリ

上告人ハ始終審共敗訴シタリ

東京控訴裁判所ハ上告人ノ口供ニ該土手ヲ築造セシ敷地ハ從來草生ニテアリシトテ

リ空シク敷地ノアルヘキ理由ナシトシ右土手ハ其以前ヨリ造築アリタルモノト認メ實地臨
檢ノ請ヲ許サス上告人ノ要求相立スト申渡シタリ
右ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告スル要點ハ左ノ五項ナリトス

- 一 本訴主眼ノ證據トシテ上告者カ捧呈セシ西蒲原郡長ヘ差出シタル願書並ニ指令ヲ敗却シ更ニ何等ノ說明ヲ與ヘテレサリシ事
- 二 甲第三號繪圖面中ニ本訴堤塘ノ記入ナキヲ證據ノ一トセラレサリシ事
- 三 上告者カ水除土手ヲ新築セシ個所ハ往古ヨリ草生ナリト申供セシヲ採テレナカラ直チニ古來ヨリ水除土手アリシト裁定サレタル事
- 四 實地臨檢ヲ肯ンセラレス空想臆測ヲ以裁判ヲ與ヘテレタル事
- 五 上告者カ確實ナル證據ヲ採ラレスシテ却テ被上告者カ無證ノ口實ヲ採リ裁判サレタル事

大審院ニ於テ右上告ニ對シ辯明并ニ判決ヲ與フルト左ノ如シ
右要點ト上告狀ノ詳論ヲ參照シ之ヲ按スルニ要點ノ第一第二第五タル原判官カ上告人ノ證據物ニ對シ說明ヲ與ヘス又之ヲ採用セサリシヲ非難スルニアレハ抑裁判官ハ詞訟人ノ各證據物ニ對シ逐一説明スヘキノ責任アル事ナシ又上告人カ列舉セシ證據物中被上告村カ水除土手ヲ新築セシ適證アルニ非ス左スレハ原判官カ其他ノ證據物ヲ取ラサリシハ其職權ヲ行ヒシモノナレバ之ヲ不法トスルヲ得サルモノトス

第三點タル原判官カ上告人ノ口供ヲ採リシニ對シ論難スレハ原判官ハ其口供ニ付感觸其ル

所アリテ其理由ヲ示シ判定セシモノナレハ今ニ至リ種々之カ付説ヲナシテ破毀ヲ求ムル因由トナスヲ得サルモノトス

第四點ヲ按スルニ實地臨檢ノ如キハ判官ニ於テ之ヲ必要ナリト思料スルニ非サレハ之ヲ行ハサルモ妨ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ本上告ハ受理セサルモノナリ

○第五百一號

民有山地券記名請求一件上告ノ判文

(明治十六年四月三十日上告) 十七年十月十五日申渡

長野縣信濃國下伊那郡生田村ノ

内福與耕地中山耕地長峯柄山耕

地總代兼同村平民

- 本 搦 勘 左 衛 門
 - 北 村 定 四 郎
 - 南 端 傳 藏
 - 福 澤 吉 左 衛 門
 - 躰 躰 源 市
 - 小 掠 定 五 郎
 - 松 下 芳 太 郎
 - 小 掠 安 太 郎
- 一一三

上告人

一一四

宮澤 佐四郎
久保田 三郎平
大島 善彌

東京府京橋區南鍋町壹丁目七番
地寄留和歌山縣平民

植木 綱次郎

長野縣信濃國下伊那郡河野村三
百六十七名總代兼同村平民

毛涯 桂太郎
林 英穗

東京府日本橋區矢倉町壹番地寄
留秋田縣平民

渡部 小太郎

右代言人

被告上告人

右代言人

上告ノ要領

第一條

原判文說明ニ(被告)上告(者)カ證據陳述ハ概明治八年以後ノ取調簿ニ原被雙方戶長村總代等連署シタルヲ採テ論實ト爲スニ在レト該一二三號證ハ入會權ヲ證スルニ足ルモ共有權ヲ表明シタルモノニアラストアレト上告第一號證ハ地代金木代金書上帳ニシテ論地拂

下ヲ願フタル節ノ書面ナリ荷モ土地ニ關係スルモノニアラサレハ出スヘキ書面ニアラス上告第二號證ハ一筆限リ地引帳ニシテ是亦土地ニ關係スルモノニアラサレハ出スヘキ書面ニアラス上告第三號證ニハ共有總代松下芳太郎福與和久司片桐久次郎トアリテ片桐ハ被告者總代ナルモ松下福與ノ兩名ハ上告者ノ總代ニシテ該三號證冒頭ニ山林六百三十町步福與中山長峯柄山入會地元河野トアルヲ以テ共有總代カ未ニ連署セシナリ即チ土地ニ關シ共有總代カ連署セル上ハ亦該第三號證ノ土地ニ關スルヲ明ナリ如此論山ノ公有地ヲリシ時ヨリ兩造連署上帳シ被告者カ一回タモ此連署ヲ拒ミタル事ナキニ據ルモ上告者カ素ヨリ土地ニ關スル同等ノ權利アル事被告上告者ノ疾ク看認ムル所トス若シ夫上告者カ土地ニ付テ被告上告者ト同等ノ權利ナク單ニ入會ニ止マルナレハ等シク論地拂下ヲ願フノ道理アラソヤ其他ニ連署スルヲ要センヤ然ルニ與ニ俱ニ事ヲ爲シタルハ即チ入會者ナラズ同等入會者ナルヲ瞭然タリ且論山ハ元公有地ニシテ民有地ニアラス全ク民有ニ編入セシレシハ明治九年三月以後トス左スレハ明治七八年以後ノ取調帳ニ依テ論スルハ相當ノ事ニシテ近製ノモノトナシ故ナク排斥スヘキモノニアラス然ルチ原裁判所カ上告第一二三號證ヲ目シテ近製ノモノトナスノミナラス伐木ニ關スルモ土地ニ關スルノ證據ニアラスト說明セラレタルハ該證據ノ趣意ニ違フタル不當ノ說明ト思考ス

第二條

同說明ニ(被告)上告(者)五號乃至九號證ハ同シク一二三號證ニ優レルモノニ非ストアレト上告第五號證ハ舊筑摩縣處分ノ儘民有ニ据置トノ達書ニシテ山林町歩ノ脇書ニ但入會同

一一五

村ノ内福與中山柄山分長峯トアリテ所有定方ノ達書ニ上告村ヲ記載シタルハ則上告村ト被上告村トノ民有ニ定メラレタルヤ明ナリ又上告第六七八號證ハ古昔ノ書ニシテ被上告者カ充分看認メタル書ナリ該六號及上告第二十三號證ノ如ク上告者カ自由ニ論山内ニ於テ開墾シ被上告者カ會テ拒ミタル事ナク却テ兩造錯雜シテ開墾セルヲ觀ルモ同等權利ニシテ毫モ主客ノ別ナキモノナリ既ニ此同等開墾アル上ハ論山山地ノ同等ナル事亦充分ナリトス若シ夫レ原裁判所カ論スル如ク原被告カ論山ニ對シ權利ノ強弱アルモノナラハ何ソ論山内ニ錯雜シテ自由ニ開墾スルヲ得ヘキノ道理アランヤ況ンヤ是開墾タル上告者カ多數ナルニ於テオヤ然ルチ原裁判所ハ此最大緊要ナル證據ヲ輕々看過シ本訴ヲ裁判セラレシハ最モ不當ノ裁判ト思考ス

第三條

同說明ニ(同上號證)上告十號(被告)三十八號證ト同一ニシテ被告(上告)十三號ノ達書ニ基キ從前通りノ入山權ヲ得タル受書ナレハ又以テ同等權權揮ノ證據ト爲スニ足ラス)トアレハ上告十號證ハ入山權ヲ得タルノ受書ニアラスシテ民有地第二種ニ編入セラレタルノ受書ナリ若シ夫レ單ニ入山權ヲ得タルノ受書トセハ上告第五號證ニ舊筑摩縣處分ノ儘據置ト達スヘキノ道理アランヤ該十號證ニハ地元河野耕地入會福與耕地中山耕地長峯柄山耕地ト列記シテ主客ノ別アルヲ見ス全ク爾來純然タル民有地ニシテ兩造カ共有權ヲ得タルモノトス然ルチ原裁判所ハ所有權ヲ得タルノ受書ヲ誤視シテ只入山權ノミヲ得テ所有權ニ關係セサルモノ、如ク說明セラレシハ祖漏ノ說明ト思考ス

第四條

同說明ニ(結局本件ハ原告(被告)一號證ヲ本幹トシ然シテ爾來ノ沿革如何ヲ討究シ以テ判斷ノ資料ニ具ヘサルヲ得ス依テ茲ニ原告一號證ヲ取調フルニ其第五項ニ河野村へ入會ノ義薪山ハ是迄ノ通り勝手次第入會可申候薪ノ外刈敷秣等一切入會不申候尤モ薪伐置ニ不致大境ヲ越シ馬牽込申間敷候事ト記載セリ是レ即論山ニ對スル明條ナリ此約旨ニオケル薪之外ハ一切入會ヲ不許假令其薪ト雖モ積置ヲ不許僅々脊負伐ヲ許ストノ意味ニ外ナラス被告(上告)ニ對シテハ至重ノ裁制力ヲ有シタルモノナリ)トアリテ本件裁判ノ主眼ハ此說明ニ在ルモノト思惟スルヲ以テ左ニ詳細此說明ニ對シ陳述セン

原裁判所ハ被上告一號證第五項ヲ本幹トシ判斷ノ資料ニ供セラレタル被上告一號證ノ如キハ被上告カ特別ニ所有權ヲ有スルト看做スヘキ廉絶テ無之何トナレハ論山ハ薪山ニシテ主タル薪ヲ採ルニハ上告者カ自由自在毫モ被上告者ノ束縛ヲ受クル事ナキ上ハ從タル刈敷秣等ヲ採ラサルトテ薪山ノ權利ニ消長ヲ生セサレハナリ其薪伐置ニ不致馬牽込マサル如キハ別紙繪圖面ノ如ク上告村ハ論山ニ接近シ被上告村ハ遠隔セルヨリ其平均ヲ取ル爲メノ約束ニ過キス固ヨリ薪山ニ對スル權利上差等ナキニ於テハ其薪山ヨリ視ルルキハ等シク入會者ニシテ決シテ主客ノ別ナキナリ原裁判所ハ上告者ヲ目シテ同等入會ニアラス稼方入會ノ如ク看做サレタルモ稼方入會ナルモノハ地元村ノ餘贏ヲ仰キ分與ヲ受ケ地元村ノ諾否ニ依テ入山スルトセサルトノ別アルノ謂ニシテ同等入會者ハ地元村ノ餘贏ヲ懇望セシニモアラス又分與ヲ受クルニモアラス地元村ノ諾否ニ左

右セラル、ナキノ謂ニシテ其行ヒ來リニハ大差アルモノナリ今ヤ本件論山ハ被上告者ノ餘贏ヲ仰キ分與ヲ受ケタルニモアラス又被上告者ノ許ス所ト爲リテ入山スルニモアラス全ク自由自在ニ入山スル次第ナレハ決シテ分與主義ニアラス同等入會ナリトス故ニ假令所得ノ物品ニ往昔制限アリタリシモ畢竟地元タル總括者ニ對シ彼此需用ノ如何ヲ酌量スル雙方ノ約諾ヨリ出テシモノニテ總括者ノ指揮ニ出ルニアラサルヲ以テ物品所得上瑣々タル約束アレハトテ夫レヲ以テ地元ニ等シキ入會權ナキモノトナスヲ得ンヤ況ンヤ其約諾タル主タル薪ニアラスシテ從タル秣刈敷ニ於テオヤ然ルニ原裁判所カ從タル秣刈敷ヲ採ラサルト採薪ノ平均方トチ引テ薪山ニ對スル至重ノ裁制力アルモノト爲サレタルハ甚タ不當ノ説明トス若シ被上告者ニ斯ル裁制力アルモノナラハ上告者カ自由自在ニ開墾スルヲ被上告者カ傍觀スルノ道理アラソヤ此開墾ト主タル薪ヲ採ルニ區別ナク等シキ入會トチ照合スルキハ上告者ハ土地ニ對スル同等權利アルモノトス左レハコソ上告一號證以下兩造カ連署シテ上帳シタルモ之ヲ以テナリ然ルチ原裁判所カ上告人ノ數證ヲ以テ判斷ノ資料ニ供スルニ充分ナルニモ拘ハラス之ヲ排斥シテ何ノ證據ニモ相立タサルノ被上告一號證ヲ將テ本件裁判ノ材料トセラレシハ不當ト思考ス

第五條

同説明ニ（論山ニ附帶スル義務即租稅ノ如キ村費ノ如キ保護ノ如キ擧テ原告^{（被上告者）}負擔ニ係レリ云々）トアレト論山ハ元ト無稅ニシテ有稅山ニアラス上告者カ記名セント請求スル地券下附以來被上告者ハ始テ租稅及村費ヲ出シタルモノナレハ本件ニ對シテ義務ヲ

盡シタルノ證據トナスニ足ラス又被上告者ニ於テ別ニ保護ヲ爲セシ等ノ義毛頭之レナマ假令被上告者カ獨リ山番ヲ置キタリトテ之ヲ以テ該山保護ノ證ト爲スニ足ラス何トナレハ雙方ノ約諾上所得品ニ輕重アルヨリ被上告者カ山番ヲ置クハ自然ノ情勢ニ出ルマテニテ他ニ山番ヲ要スルノ道理ヲ見出サ、レハナリ況ンヤ詭書ノ如キハ上告村民ノ一箇人ヨリ出セシモノニテ上告三耕地總體ニ對スルノ證據ナラサルニ於テチヤ然ルチ原裁判所カ斯ル租稅村費山番等ヲ以テ被上告者ノ盡シタル義務ト説明セラレタルハ不當ノ説明ト思考ス

第六條

以上陳述ノ如クナルニ原裁判所ハ兩造間薪山ニ對スル權利ノ強弱アルモノトナシ隨テ被上告三十二號證ノ地引帳張潰シハ古來ノ成蹟ニ依ラレタル如ク説明セラレタルハ不當ノ説明ト云フヘシ何トナレハ上告第一號證以下數證ノ如ク兩造カ主客ノ別ナク連署シテ上帳シタルニモ拘ハラス一朝頓ニ上告者ノ名義ヲ張潰シタルハ兩造間ノ約束ヨリ出ルニアラスシテ官吏カ張潰スハ一般ノ成規ナリト達セラレタルニ出テタル事ハ上告第十七號證ヲ以テ見ルチ得ヘケレハナリ左スレハ古來ノ成蹟ニ依リタルニアラサルヲ明ナリ又古來ノ成蹟ニ依テハ張潰スヘキノ理由ナキ事ハ上告第一條以下ニ陳述セシ通りナルヲ以テ兩造間權利ノ強弱アリトシテ爲シタルニアラサルヲ明白ナリト思考ストノ事

上告追伸ノ要領

本件上告第六七八號證ハ被上告者ノ認メタルモノニシテ就中其八號證ハ享保度ヨリ文化

度ニ至ル年貢皆濟書ナリ如斯論山内ノ開墾地ニ對シ百餘年間納稅シアレハ論山ニ對シテハ至重ノ効力アルモノナルニ原判文説明ニハ(被告)者(上告)五號乃至九號證ハ同シク一二三號證ニ優レルモノニアラス)ト爲シ又其一二三號證ニ對シテハ(明治七八年以後ノ取調帳云々)近時調製ノ書面ノ如ク排斥セラレタルモ上告第六七八號證ハ七八十年乃至貳百年ノモノナレハ明治度ノモノト比較スヘカラス且ツ(一二三號證ニ優レルモノニアラス)トノミニテハ斯ル有効證ヲ排セルノ理由トナラス抑モ證據ノ取捨ハ法官ノ權内ニアリト雖モ之ヲ捨ルニハ其理由ヲ載セサルヘカラス然ラサレハ如何ナル證據ト雖モ自由ニ排斥スルニ至ラン必竟證據ハ他ノ事實ト符合シテ始メテ取捨セラル、モノナレハ事實法官カ事實ニ照シ證據ヲ取捨スルハ當然ナルモ上告第六七八號證ノ如キ七八十年乃至貳百年ノ證據ニ對シテハ當時ニ於テ之ヲ打消スヘキ事實ナキ限リハ之ヲ採用セサルヘカラス故ニ兩造互角ノ證據アル時法官之ヲ取捨スルニハ宜シク其理由ヲ示サ、ルヘカラス民事ハ固ヨリ證據裁判ニシテ殊ニ本件ノ如キハ事實ヲ以テ裁判セラレタルニアラサレハ兩造證據ノ効力ヲ分明ニ說示シ裁判セサルヘカラス上告第六七八號證ニ對シ何等ノ説明モナク只(一二三號證ニ優レルモノニアラス)ト裁判セラレタルハ聽斷ノ定規ニ乖ケル不法ノ裁判ト思考ストノ事

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

第一條

上告第一號證ハ被上告第九號證ノ拔萃ニテ一村公有地代價ノ取調書ナレハ獨リ論地ノミナ

ラス數十筆掲載シアリテ其内字山手七十九町六反步字青木澤十町步二筆ノ如キ(地元河野村(被上告)入會田村村)トアリテ同村副戸長片桐喜七郎連署セリ然ルニ該地ハ田村村ト被上告村ノ共有ニアラサルヲ看レハ入會タルカ故ニ連署シタルモノニシテ上告村ノ者カ之レニ連署シタルモノ同一ノ事ト見認サ、ルヲ得ス上告第二號證ニハ(今般稅法御改正ニ付私共村方銘々持地山林原野秣場其他入會反別代價等可申上旨御達ニ付私共立會從前隱地切開立出繩延之類迄地毎ニ取調箇所落ハ勿論隱步等一切無御坐且詐偽ノ儀不奉申上云々)トアリテ調落隱步等詐偽ノ所爲ナキ事ヲ證明スルニ止ルノミナラス被上告第三十三號證ノ如ク明治十二年ニ至リ之ヲ改正シ不用ニ屬シタルモノナレハ共有權ヲ表スル證據ニハ爲シ難シ上告第三號證ハ被上告第十號證ト同一ニテ該書面共有總代ノ内松下芳太郎福與和久司ノ二名カ連署アルモ共有總代ノ名義ハ各自ノ共有ニ對シ記載シタリト被上告者供述ハ穩當トス何トナレハ該證ハ被上告村入會ノ上告村共有山及上告村入會ノ被上告村共有山(地論)チ一紙ニ列記シタルモノナレハナリ上告第五號九號證モ福與中山長峯柄山ノ入會トアルノミニテ共有ノ如何ヲ見ルヘキモノニアラス上告第六號乃至八號證ハ示談上他村ノ土地開墾ヲ爲ス往々ニシテ被上告村入會ノ上告村共有地ニモ被上告村ノ者ノ開墾アレハ果シテ同等權利ヲ有スルカ爲メ上告村ノ者カ論地ヘ開墾シタリト爲スヲ得ス況ンヤ其開墾地ニ於ケル本案論山外ナル事ハ兩造ノ異議ナキ所ニシテ其地券ノ如キモ既ニ上告村カ下付ヲ受ケ居ルモノナルニ於テテ上告第十號證ハ論地拂下願置シモ炭薪秣自由致來ル慣行ヲ以テ從前ノ通下ケ戻シ民有地トスヘキ旨ノ達ニ對スル受書ニテ入山權ヲ有スル事ヲ視ルニ過キサルモノトス因テ

原裁判所カ上告第一二三號證ハ明治七八年以後ノ取調簿ニテ入會權ヲ證スルニ足ルモ共有權ヲ表明スルモノニ非ス五號乃至九號證ハ同シク一二三號證ニ優レルモノニ非ス十號證ハ同等權權揮ノ證據ト爲スニ足ラストノ説明ハ不當ニアラストス

第二條

上告者ニ於テ原裁判所カ被上告第一號證第五項ノ約束ヲ本案判斷ノ資料ト爲シタルハ不當ナリトノ論旨ハ上告村ハ論山ニ接近シ被上告村ハ遠隔セルカ故該約旨ハ其平均ヲ取ルカ爲メニテ權利ニ差等ナク入會ニ主客ノ別ナシ固ヨリ被上告村ノ餘贏ヲ仰キ分與チ受タルニ非ス又被上告村ノ許ス所ト爲リ入山スルニモ非ス自由ニ入山シ被上告村ト同等入會ナレハ畢竟地元タル總括者ニ對シ彼此需用ノ如何ヲ酌量シタルニ過キストノ趣旨ナリ因テ按スルニ被上告第一號證ハ抑モ河野村ト福與村トノ入會境界ヲ定メシ爲取替書ニテ境界ハ間澤川中央トアリ而シテ其第三四項ハ河野村ヨリ福與村ヘノ入會制限ヲ示シ第五項ハ福與村ヨリ河野村即論山ヘノ入會制限ヲ定メタルヲ書面ニ著シシ自カラ主客分與ノ別アル事契約上互ニ裁制ヲ受クルヲ以テ知ルヘシ若シ上告者論スル如ク該書面ニ(薪之外刈敷林等一切入會不申候尤薪伐置ニ不致大境ヲ越馬牽込申間敷候事)トノ約束ハ居村ノ遠近ニ原因シタル迄ニテ同等權利ヲ有スルモノナラハ被上告村ノ入會ニ裁制ヲ與ヘ上告村ノ入會ニモ亦裁制セシ約旨ヲ列記シナカラ彼此需用ノ如何ヲ配量シタルニ過キサル趣意ヲ明記セサル道理ナキモノトス况ンヤ論山ハ元來無稅ナルモ同等權利ヲ有スルニ於テハ山番ノ如キ保護ニ係ル義務ハ勿論論地券調ノ費用モ被上告村ノミニ負擔セシムヘキ條理ナキニ於テテヤ故ニ原裁判

所カ被上告第一號證ヲ本案裁斷ノ資料ニ具ヘ論山ニ對スル權利如何ヲ判定シタルハ不當ニアラストス

但上告者ニ於テ他ニ論辯スル所アルモ既ニ本文辯明スル如キ筋合ニシテ必要ト認メサルヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

右ノ理由ナルヲ以テ東京控訴裁判所ニ於テ言渡シタル終審裁判ハ破毀セサルモノナリ但上告入費ハ上告者ノ負擔タルヘシ

○第五百二號

貸金催促一件上告ノ判文(明治十六年四月三十日上告全十七年十月十五日申渡)

熊本縣肥後國山鹿郡小原村三百六十七番地平民

上告人

眞島友太

右代人

小笠原久吉

東京府麴町區有樂町三丁目一番地寄留長野縣平民

熊本縣熊本區古城堀端町百十九番地士族

被上告人

津田滿記

上告ノ要領

本案長崎控訴裁判所ノ裁判ヲ不當トスル所ノ者多端ノ議論アルニ非ス單ニ上告者カ甲第一號證内譯ノ天引前利金五拾壹圓ヲ被上告者ニ向テ差入計算ヲ爲シ得ル者ナルヤ否ノ一點ニ止ルナリ然ルニ同裁判所ニ於テハ(第二控訴人ニ於テ本訴金圓貸借ノ際債主津田滿記代理人金谷琢磨へ前利トシテ拂渡セシト主張シ請求金高ヨリ差引ヲ求ムル金五拾壹圓ハ被控訴人ニ於テ金谷琢磨ヲ代人トナシ之ヲ受取ラシメタルノ證左ナキノミナラス甲第二號證中別紙云々ノ但書ハ後日ニ記入セシモノニシテ被控訴人ノ認知セサルモノナリト説明シ以テ被上告者カ請求スル金額ヲ返辦スヘキ旨裁判ヲ與ヘラレシト雖モ上告者甲第二號證別紙云々ノ但書ハ決シテ後日ニ記入セシ者ニ非ス尙ニ後日ニ記入セシ者ニ非サルノミナラス該五拾壹圓ヲ前利トシテ金谷琢磨カ引去リタルハ被上告者カ固ヨリ認許セシ所ナリ何トナレハ若シ被上告者カ認許セシ者ニ非スハ別紙金谷琢磨天引金ノ儀ハ實際前歩ニ相違無之候也トアル前歩ノ兩字間ニ被上告者カ實印ヲ押用スヘキ理由ナク又後日ニ記入セシ者ナラシメハ被上告者カ白紙面ニ豫メ實印ノミ押用シ置クヘキ道理ナケレハナリ且其印影タル該證附箋ノ通り戶長役場ニ於テモ被上告者ノ實印ニ相違ナキ者ト認メタル所ニシテ被上告者モ亦其眞偽ヲ争ヒ得サル所ナレハ豈之ヲ被上告者カ認知セシ者ニ非ストスルヲ得ヘケンヤ夫レ如此事理明白ナルニ同裁判所ニ於テ別紙云々ノ但書ハ後日ニ記入セシ者ニテ被控訴人ノ認知セサルモノナリト説明シ以テ該五拾壹圓ヲ被上告者ニ向テ差引計算スルヲ許サレサルハ抑モ何ソヤ實ニ探證法ヲ知ラサル失當ノ裁判ト謂フ可シ又被控訴人ニ於テ金谷琢磨ヲ代人トシテ之ヲ受取ラシメタルノ證左ナシト説明セラ

ルレモ上告者甲第一號證被上告者ヨリ金谷琢磨へ與ヘタル委任狀ニ金貸方約定ノ事務一切トアリテ其前歩ニ引去ルモ亦約定ノ一部ニシテ則チ其一切中ノ事務ナレハ決シテ委任外ノ事ト謂フ可カラス已ニ委任中ノ事ナレハ假令上告者カ本意ニ背キシ所爲ト雖モ被上告者ニ於テ其責ヲ免ルヘキ者ニ非サルナリ況ンヤ甲第一號證別紙云々ノ通り其五拾壹圓ヲ引去リタルハ被上告者カ認許セシ所ナルニ於テオヤ依テ原裁判ヲ破毀セラレノチ請願ストノ事

被上告人ハ事故コレアリ本院へ出頭シ難ク答辯ノ權利ヲ拋棄スル旨明治十七年九月廿五日所轄戶長ヲ經テ申立タリ

大審院ニ於テ被上告人闕席ノ儘判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

本訴上告ノ旨趣ヲ原訴訟書類ニ徴シ審按スルニ上告甲第一號證但書ハ後日ノ記入ニシテ被上告人ノ認メサルモノナルヤ否ヲ審究スヘキハ本訴ノ要點ナルニ原裁判所ハ其判文中單ニ(甲第一號證(上告甲)中別紙云々ノ但書ハ後日ニ記入セシモノニシテ被控訴人(被上)ノ認知セサルモノナリト説明シタル而已ニシテ其但書ハ後日ノ記入タルノ理由ヲ附セス且上告人ハ右但書ノ部分ニハ被上告人ノ押印アルアレハ被上告人カ之ヲ認メサルノ理由ヲ申立タルニ是等ノ點ニ對シ審明ヲ做サ、リシハ不法ノ裁判ナリトス

但上告人ハ尙ホ申立ル廉アリト雖モ本文辯明ノ如ク原裁判ノ不法ナル以上ハ之ニ辯明ヲ與フルヲ要セス

右ノ理由ナルヲ以テ長崎控訴裁判所ガ本訴ニ與ヘタル裁判ヲ破毀シ廣島控訴裁判所ニ移ス

モノナリ

但上告入費ハ被上告人ノ負擔タルヘシ

○第五百三號

貸金催促一件上告ノ判文(明治十六年八月六日上告
同十七年十月十八日申渡)

上告人

静岡縣遠江國豊田郡小島村平民

堀内 愛三郎

東京府深川區佐賀町一丁目十二

番地寄留茨城縣士族

右代言人

鴨志田 直

静岡縣遠江國豊田郡小島村平民

新村 林平

被上告人

藤田 廣吉

東京府麴町區飯田町四丁目十八
番地平民

右代言人

白石 剛

上告ノ要領

第一條

凡證書ハ其成立スヘキ正當ノ事實アルモノ、ミ効力ヲ有スルモノニテ其成リ立テ法律ノ

保護ヲ受クル能ハサル不正ニ原因スル時ハ決シテ其効力アルモノニ非ス抑モ被上告者カ
材料トシテ上告者ニ貸金アリトスル證書即チ甲第一號證ハ賭博ニ因リ成立シタルモノナ
ルヲ以テ法律上固ヨリ其効力有セサルモノトス今其賭博ニ原因シタル證據及本案始審ノ
裁判ハ容易ニ平讞スルヲ得サル理由ヲ左ニ開陳セン

第一項 甲第一號證ハ明治十四年十月五日ノ夜被上告新村林平方ニテ原被其他三名ノ者
カ賭博ヲナシ被上告兩名ニ上告者カ金百四圓打負ケ之ヲ催促セラレタル未成立セシ證
書ナル事共犯者關塚惣七鈴木勇次郎等カ乙第一二號證ノ如ク見附警察署ニ於テ白狀シ
タルニ依リ太々明確ナリ何ントナレハ乙第一二號證ハ普通證明書ノ如キモノト異ナリ
苟クモ法ヲ犯シタル者アル時ハ糺治セラル、官衙ニ於テノ任意ノ白狀ナルヲ以テ若
實ニ賭博ヲナサ、リシモノナリセハ惣七勇次郎等カ斯ノ如キ供述ヲナスヘキ謂レナキ
ハ敢テ言ヲ俟タサル所ナルニ付該證ハ甲第一號證カ賭博ニ因リ成立シタルヲ證スルニ
充分ノ効力アリト信スレハナリ

第二項 被上告林平ハ大工職ニテ家族五人アリ又被上告廣吉ハ他人ノ地所ヲ小作シ糊口
ズルモノニテ所謂下農ナリ故ニ被上告者ハ他ヨリ金圓ヲ借入レ糊口ニ充ル事アルモ他
人へ貸金ヲナシタル事未ダ曾テアテサルナリ而シテ斯ル身分ナル事ハ被上告者カ始審
應ニテ爲シタル口供及乙第三四號證等ニ於テ太々明テカナリ左スレハ此一點ニ依リテ
モ甲第一號證ハ賭博ニ因リ成立シタルヲ知ルニ足ルモノトス何ントナレハ既ニ他人へ
金圓ヲ貸渡スノ資力ナキ事明テカナル以上ハ乙第一二號證ノ如キ事實ナル事ハ充分信

ヲ措クニ餘リアレハナリ

第三項 被上告林平カ見附警察署ニ於テノ申立即チ乙第四號證第十二項ニ(明治十三年十二月中全村寺田惣十ニ金四拾圓ノ借用金有之是ヲ返濟セント常ニ心掛ケ大工職ヲ營ミ追々貯ヘタル金ナレモ未タ惣十ヘ返濟スル期限ニ無之故貸渡シタリ)トアリ然ルニ始審口供第二項ニ(豫テ寺田惣十ヘ返濟スヘキ金四拾圓持合セ有之ニヨリ惣十ヘ問合セタル處明治十五年暮迄ニ返納致シ差支無之トノ事ニ付)トアリテ右見附警察署ヘノ申立ト相合ハサルナリ又乙第四號證第十四項ニ(明治十五年七月廿六日午後五時頃同村姓不知松本屋千代宅ニ於テ藤田廣吉自分ト飲酒ノ席ヘ同村堀内愛三郎カ來リ金員ニ差支タル故金百四圓貸吳ル様申サレ自分廣吉ト相談ノ上出金致シタル事ナリ)トアリ始審口供第一項ニハ(明治十五年七月廿日過ト覺ヘ被告^者 自宅ヘ來リ金借依頼有之)トアリテ是亦該警察署ノ供述ト相矛盾セリ斯ク其陳述前後矛盾チナスハ畢竟事實ヲ僞ルカ故ニシテ是等ノ點ニ於テモ甲第一號證ハ賭博ニ因リ成立シタルヲ知ルニ足ルモノトス何ントナレハ若シ正當ノ事實チ有セルモノナルニ於テハ前後ノ供述一途ニ出テ毫モ齟齬スヘキ謂レナケレハナリ

第四項 被上告廣吉カ見附警察署ニテノ申立即チ乙第三號證第十八項ニ(明治十五年七月日不覺自分セト裏ニテ全村堀内愛三郎ニ出會^{即道路} 同人曰ク金ニ差支困ルニ付金六拾四圓貸吳ル様去ル替リ田地ヲ小作ニ預ケ様ト申ニ付明治十五年七月廿七日新村林平方ヘ自分出張リ愛三郎ニ貸シタル儀ニテ林平ト互ニ出會シ百四圓ニテ貸シタル次

第二ハ無之)トアリ然ルニ被上告林平カ同署ノ申立即チ乙第四號證第十四項ニハ(明治十五年七月廿六日午後五時頃同村姓不知松本屋千代宅ニ於テ藤田廣吉自分ト飲酒ノ席ヘ同村堀内愛三郎カ來リ云々)トアリテ廣吉ノ供述ト全ク相反對ス斯ク被上告兩名ノ陳述反對スルハ畢竟事實チ僞ルニ原因スルモノニテ是等ノ點ニ於テモ甲第一號證ハ賭博ニ因リ成立シタルヲ知ルニ足ルモノトス何ントナレハ賭博上ニ關セス他ニ一定ノ事實アルニ於テハ被上告兩名ノ供述一途ニ出テ其齟齬チ生スル謂レナケレハナリ

第五項 被上告廣吉カ該警察署ヘノ申立即チ乙第三號證第十六項ニ(豐田郡前野村石代甚太郎ヘ自分所有金四拾圓兼テ預ケ有之ヲ受取右金ヘ甚太郎ヨリ貳拾五圓借受ケ都合六拾五圓ノ内六拾四圓堀内愛三郎ヘ貸シタリ)トアリ然ルニ始審口供第二項ニハ(所持金トテハ無之候得共他ヨリ借入レ貸遣スヘキ旨返答ニ及ヒ置明治十五年七月廿日實兄石代甚太郎ヨリ金六拾五圓借用致シ來タル儀ニ有之候)トアリテ右警察署ニテノ供述ト相矛盾セリ斯ク其供述矛盾スルハ畢竟事實チ僞ルニ原因スルモノニテ甲第一號證ハ賭博ニ因リ成立セシモノナルハ是等ノ點ニ於テモ知ルニ足レリトス

第六項 被上告林平ノ云所ニ依レハ林平ハ寺田惣十ヘ返濟スヘキ金四拾圓ヲ上告者ヘ貸渡シタルモノナリト又廣吉カ始審廳ヘノ供述ニ依レハ廣吉ハ石代甚太郎ヨリ金六拾五圓借り來リ之ヲ貸與シタルモノナリト左スレハ右金圓ヲ一通ノ借用證書ト爲スノ理ナシトス何ントナレハ該合計金百五圓ハ被上告兩名ノ共有金ニ非ルヲ以テナリ然ルニ之ヲ一通ノ證券トナシタル證據ニ依ルモ甲第一號證ハ賭博ニ因リ成立シタルモノナルヲ

知ルヘキナリ

一三〇

第七項 被上告廣吉ノ云フ所ニ依レハ廣吉方ハ兩親モ居合ハスルヲ以テ上告者カ立越シ難シト云ニ付被上告林平方へ出張シ金圓ヲ貸渡シタルモノナリト若シ正當ノ貸金ナルニ於テハ決シテ斯ル謂レアラサルナリ何ントナレハ上告者カ廣吉ノ兩親ヲ憚ルヘキ理ナキハ勿論廣吉モ亦其言ニ應シ林平方へ出張スル理由ナケレハナリ然ルニ廣吉カ右等ノ供述ヲ爲スニ於テモ甲第一號證ハ賭博ニ因リ成立シタルヲ知ルニ足ルモノトス

第八項 夫レ金圓借用證書ニハ證券印紙ヲ貼用シ引受證人等ノ連署ヲ要シ地所抵當ナル時ハ戶長ノ公證ヲ申受クルハ一般ノ通規ナリ然ルニ甲第一號證ハ一モ是等ノ通規ニ依ラサルハ畢竟賭博ニ因リ成立シタルカ故ニシテ是レ該證成立ノ原因賭博ニ在ルヲ知ルニ足ルノ證據ナリ

第九項 甲第一號證ニ利子ノ定メナキハ賭博上ニ因リ成立シタルカ故ニシテ該證ノ成リ立チハ其原因賭博ニ在ル事此一點ニ於テモ知ルニ餘リアリトス何ントナレハ若シ賭博上ノ貸借ニ非ス被上告者ノ云フ如ク林平方へ返濟スヘキ金圓ヲ上告者へ貸渡シ廣吉ハ他借シテ上告者ニ金圓貸與チナシタルモノトセハ被上告等ノ損失ニナラサル様注意スヘキハ人情ノ常ナルヲ以テ該證ニ必ラス利子ヲ定メ置ヘキ筈ナレハナリ

第十項 上告者ハ被上告者モ控訴狀ニ明言シタル如ク多分ノ不動產ヲ所有スルモノニテ即チ富有ノ身代ナリ加之未タ若年ナルヲ以テ自家事ヲ理セス學校へ通學又ハ入學等チナシ平常學問ニ從事シアル身ナリ被上告者ハ之ニ反シ元來赤貧者ナルノミナラス皆壯丁以上ノ齡ナレハ青年書生ノ上告者へ其親族ノ保證モナク金百四圓ヲ貸與スヘキ情理アラサルハ敢テ言テ俟タサル所ナルニ付甲第一號證ハ賭博ニ因リ成立シタルモノナル事此一點ニ於テモ明ラカナリト云フヘキナリ

第十一項 該地方ニテハ元來博徒多ク常ニ賭場ヲ開張シ若年ナル富有者又ハ子弟ヲ眩惑シ不正ノ利ヲ占メ以テ糊口スルモノ少ナシトセス往時ハ現ニ金錢ヲ賭シ勝負ヲ試ミタルモ近年ニ至リテハ之ニ代フルニ種々ナル器具ヲ以テシ勝者ハ負者ニ對シ金圓又ハ借用證書ヲ要スル事トハナレリ故ニ警察官裁判官ハ一片ノ證書ニ拘泥セラレス茲ニ大ニ注目セラレ專ラ事實ヲ穿テ適實ノ處斷ヲセラル、事ニ一層ノ注意ヲ加ヘラレタルモノ、如シ是レ實ニ勸善懲惡ノ法理ニ適シタル明斷ト云フヘキナリ抑モ被上告甲第一號證ヲ始審裁判所カ事實ノ審問ヲ遂ケサセラレ法律ノ保護ヲ與ヘサル不正ノ原因ニ成立タル借用ナリト認定セラレタルハ決シテ動スチ得サルモノトス何ントナレハ始審裁判役ハ其地方ノ事情ニ通曉シ且被上告本人等ヲ親シク訊問シ充分ニ心證ヲ備ヘ之レカ認定裁判ヲ下サレタルモノニシテ斯ル裁判ハ控訴廳ニ於テ輒シ平翻シ得ルモノニ非スト信スレハナリ若シ之レヲモ容易ニ平翻セラル、モノトセハ其事情ニ通曉シ其本人ニ直接シ備ヘラレタル所ノ始審裁判役ノ心證ヲ未タ曾テ是等ノ事ヲ經驗セラレサル控訴廳カ一片ノ反證モ得ス之ヲ破リ得ルモノトセサルヲ得ス豈ニ事理ニ乖戾スルモ亦太タシカラスヤ依テ被上告者カ甲第一號證ノ他ニ之ヲ辯ラムルニ足ルヘキ證據ヲ舉ケタル時ハ格別然ラサレハ本案始審ノ裁判ハ毫モ動カスヲ得サルモノトス

一三一

前第一項乃至第十項ニ列擧スル證憑及ヒ理由ノアルアリテ甲第一號證ハ賭博ニ因リ成立シタルモノナル事太々明晰ナルニ原裁判所ハ(被告(上告)者)ニ於テ本訴ノ借用證書ハ賭博上ノ負債ナリ強迫ヨリ成立タルモノナリ騙取セラレタルモノナリト申立レモ一トシテ其證據無之)ト裁判セラレタリ其強迫騙取ニ係ル證ナシトスルモ賭博上ニ原因シタル貸借ナル事ハ證據ナシト云フヘカラス何ントナレハ前一項ニモ開陳スル如ク乙第二號證ハ普通證明書ノ如キモノト異ナリ苟モ法ヲ犯シタルモノアル時ハ其罪ヲ治セラレ、官衙ニ於テノ任意ノ白狀ナルニ付資テ以テ本案ノ證據トナスニ充分ナルハ勿論其第二項以下ノ理由モ亦之レカ證據トナスニ足ルモノナレハナリ然ルニ原裁判所カ斯ル證據有ルヲモ無之トセラレ且前第十一項ノ如キ理由ニテ始審裁判ハ概シ平穩シ得ヘカヲサルモノナルコトモ拘ハラス容易ニ之ヲ平穩シ甲第一號證ニ効力ヲ有セシメタルハ頗ル不法ノ裁判ナリトス

第二條

原裁判ニ乙第二三四號證ノ如キハ(被告(上告)者)自ラ錄載シタルモノニシテ原告(被告(上告)者)認メサルモノナルハ證據ト爲スヲ得(ト)アレ共該數證ハ被告上告及關塚惣七鈴木勇次郎等カ見附警察署ニ於テ爲シタル口供ヲ謄寫シタルモノニテ官衙ニ在ル所ノ書面ナレハ今被告上告者ノ認ムルヲ俟テ其効ヲ生スルモノニ非ルニ付被告上告者ノ代官人カ之レヲ認メカリシ連(茲ニ被告上告者代官人カ認メサル云々記シタルハ)爲メニ證據トナラサルノ理ヲ殊ニ上告者ハ若シ裁判官カ之ヲ疑ハル、ニ於テハ見附警察署ヘ照會セラレタシト請求シ

第三條

置キタルヲ以テ之レカ照會モ爲サスシテ右ノ如キ判語ヲ下シ得ルノ理由アラサルナリ何ントナレハ被告上告者ハ之ニ反對ノ證據ヲ舉ケタルニ非ス見附警察署ヨリ然ラストノ回答ヲ得タルニモ非ス該數證ハ被告上告者ノ認ムルト否トニ關セズ證據タル資格ヲ有スル事敢テ言フ俟タサル所ナレハナリ故ニ該裁判ハ第一證據ノ資格ヲ見ルノ明チ缺キ第二照會ヲナスヘキ事柄ヲ照會セス明リニ證據ヲ排斥シタル不法ノ裁判ナリトス

原裁判ニ(長シヤ該乙號證ノ通り静岡縣見附警察署ヘ申供シタルモノト假定スルモ原告

(被告(上告)者)等カ本訴貸金ハ賭博上ヨリ成立タルモノナリト自供セシ事更ニ無之關塚惣七鈴木

辰(誤リ)次郎等カ申立ハ原告(被告(上告)者)カ不正ノ所爲アリシ證據ト爲スニ足ラス)トアレモ

本案ノ如キ甲第一號證ハ不正ノ原因ニヨリ成リ立チタルヤ否ヤノ争ニ付テハ被告上告者ノ自白ヲ要セス他ノ證據ヲ資テ以テ之ヲ判定セラルヘキモノト信スルナリ何ントナレハ被告上告者ニシテ其實チ白狀スル時ハ甲第一號證ノ貸金ヲ自棄スルノ憂モアリ又爲メニ罰セラル、ヤノ恐レアルヲ以テ容易ニ白狀ヲナスヘキモノニ非サルハ人情上免レサル所ナルニ付斯ノ如キ場合ニハ法律ハ敢テ自白ヲ要セス他ノ證據ニヨリ之レカ判決ヲ下タサルハモノト信認スレハナリ故ニ乙第二號證ハ本案ニ對シテハ充分ノ効力ヲ有スルモノナルニ原裁判所カ之ヲ採用セラレサリシハ採ルヘキ證據ヲ採ラサル不法ノ裁判ナリトス

第四條

原裁判ニ(被告)原告ニ(被告)等カ見附警察署ノ申供ト始審廳ノ申供ニ吻合セカ
 廉アリ云々申立レ不正又ハ強迫ヨリ成立タル契約ナリトノ證據アルコ非レハ貸金手
 續キノ申立ニ僅カノ齟齬アリ逆雙方甘諾上ヨリ成立タル甲第一號證ヲ無効ト爲スノ理由
 ナシトアレト本案ハ甲第一號證成リ立チニ關シ之ヲ争フモノナルヲ以テ其成立セシ手
 續キハ大ニ關係チ有スルモノナリ故ニ甲第一號證ニ依リ之レカ手續ヲ無効視スルヲ得サ
 ルモノトス況ンヤ法律ハ結果ヲ以テ原因ヲ證スルヲ許サス原因不正ニ出テタル結果ハ其
 効チ有セシメサルモノナルニ於テオヤ實ニ甲第一號證ノ成リ立チヲ審究スルハ本案上缺
 シタルハ結果ニヨリ原因ヲ打消シ得サル法理ニ乖キタル不當ノ裁判ナリトス
 大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

本案ハ被上告ヨリ上告人カ自署押印シタル甲第一號證ヲ以テ貸金ノ返償ヲ請求スルモノナ
 リ然レハ上告人ハ該證書ヲ以テ不正ヨリ成立タルモノト云フニ於テハ充分ナル反證ヲ舉ガ
 ル可ラス然ルニ上告人カ賭博ヲ爲シタルヲ證スル乙第一二號證即チ關塚惣七鈴木辰次郎カ
 口供ハ假ニ其事實アリトスルモ其事ハ明治十四年十月五日ニ在テ甲第一號證ノ成立ハ明治
 十五年七月廿七日ナレハ其間既ニ一年ニ近シ賭博ノ負債ニシテ此ノ如キ日月ヲ經過シタル
 後ニ於テ尋常ニ證書ノ成立ツ可キ等ナク而シテ上告人ハ強迫又ハ騙取セラレタルヲ證スル
 能ハサル而已ナラス他人ノ口供ヲ以テ直ニ賭博ノ事實アリトハ認定ス可ラス又上告人ハ被
 上告人カ平生金ヲ貸ス可キ身分ニ非サル事及ヒ金ヲ貸シタリト云口供ノ彼前後矛盾スル

事等ヲ以テ不正ノ證ト爲スモ終ニ被上告人カ貸ス可キ金ノアラサリシヲ證セス然レハ原裁
 判所カ不正又ハ強迫ヨリ成立タル契約ナリトノ證據アルコ非サレハ貸金手續キノ申立ニ僅
 カノ齟齬アリ逆雙方甘諾上ヨリ成立タル甲第一號證ヲ無効ト爲スノ理由ナシト裁判セシハ
 當然ノ事ニシテ敢テ不法ノ廉ナシ尤モ原裁判所カ上告人ノ呈出セシ警察署ノ口供寫ニ不審
 アラハ其眞偽ヲ定ムルノ手順ヲ盡ス可キ簡ナルニ其事ナクシテ(乙第一二三四號證ノ如キ
 ハ被告)原告(被告)自テ錄載シタルモノニシテ原告(被告)ノ認メサルモノナレハ證據ト爲ス
 得ス)トセシハ瑕瑾アルヲ免レスト雖モ之ヲ以テ直ニ本案ノ曲直ヲ定メタルニ非サルコ因
 リ以テ破毀ヲ爲スニ足ラス其他上告人ノ陳述ハ瑣細ノ苦情ニ止リ無論原裁判ノ認定ヲ動カ
 スニ足ラサルニ因リ一々辯明ヲ與ヘス
 右ノ理由ナルニヨリ東京控訴裁判所ノ裁判ハ破毀セサルモノナリ
 但シ上告入費ハ上告人ノ負擔タルヘシ

○第五百四號
 田地取戻一件上告ノ判文(明治十七年七月八日上告)
 年十月廿日申渡

秋田縣羽後國南秋田郡八田村平
 民鎌田孫左衛門代人東京府日
 本橋區濱町二丁目八番地寄留靜
 岡縣平民

上告人
 飯塚 銀彌
 一三五

被告上告人

辻 兵 吉

外 一名

本件ハ上告人ノ起訴ニシテ其訴趣タル本訴ノ田地ハ年期買買ノ契約ナリトシ該約定ニ基キ被告上告人ニ對シ之レカ取戻ヲ請求スルモノナリ
 被告上告人ハ該田地タル上告人ヨリ直接ニ買受ケタルニアラスシテ高村三之助ヨリ永代ニ買得シタルモノナレハ右要求ニ應ジ難シト拒ミタリ
 上告人ハ始審ニ於テハ直者トナリシモ終審ニ於テハ曲者トナリタリ
 宮城控訴裁判所裁判ノ要點左ノ如シ

一 論地ハ曾テ被告(上告)ヨリ訴外人高村三之助ニ賣渡シ原告(被告)ハ右三之助ヨリ買受タルモノナリ而シテ曾テ被告カ三之助ニ對シ右賣買ニ付故障申立ノ際原告モ之ニ關係アルヨリシテ仲裁人ノ周旋ニ依リ訴外地即チ田地山林ヲ被告ヨリ高價ニ買受ケ所謂原告ハ被告ニ恩惠シ示談ヲ爲シタル事實ナリト確認ストノ事
 一 被告ニ於テ論地ニ對シ原告ヨリ増金ヲ受取ルヘキ證據ナキノミナラス原告第三號證ト被告第四號證ニ依レハ被告ハ示談ノ上他ノ地所ヲ高價ニ賣渡シタル事明瞭ナリ而シテ該他ノ地所トハ戸長役場地價帳ヲ援キ買買代價ノ原告一二號證賣買ノ價格ヨリ二倍ナリル事ト原告第四號中ノ文詞ト原告ノ陳述トヲ併セ即チ原告第三號證ノ附録ノ地所ヲ指シタルモノトシ且前條ノ事實モ判然ナリトシタリ

一 被告第五號證ニハ原告ノ押印ナク其他六七號及ヒ九十號證ハ確證ニ反シタルニ依リ採用セストノ事
 因之被告ノ請求相立タスト申渡タリ

右ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告スル主點左ノ如シ
 一 論地賣買ノ事ニ付高村三之助ハ全ク周旋人ナルニ過キサル證據ヲ擧ケ上告人ヨリ論シ被告上告人モ之ニ對シ種々駁辯シ一團ノ疑問トナリシニ原判官ハ何等ノ理由ヲモ付セズ被告上告人(控訴)ハ訴外人三之助ヨリ論地ヲ買得セシ事實ナリト突出想像ノ判決ヲ下サレタリトノ事

二 上告第四號證中別紙ト指タルモノヲ誤認サレシトノ事
 大審院ニ於テ辯明判決スルヲ左ノ如シ
 右第一主點ト上告狀ヲ照シ原判文ヲ觀ルニ其前ニ原告ノ陳述中ニ各其證據物ヲ掲ケ而シテ其證據書類ヲ審按シ終審テ判決スルヲ左ノ如シト云テ其次ニ第一條ヲ設ケ論地ハ云々ノ事實ナリト確認スト云ヒ而シテ第二條ニ至リ夫々ノ證據ヲ示シ前條(即第一條)ノ如キ事實ナルヤ判然ナリトスト申渡タリ然レハ只第一條中ニハ理由ヲ缺タルカ如キモ其前後ニ於テ之ヲ補ヒアルニ依リ之ヲ突出想像ノ判決ナリトシ破毀スヘキ限ニアラストス
 第二主點ト上告狀ヲ參照スルニ原判官カ上告第四號證中記載アル別紙ヲ誤認サレタリト上告スルハ左ノ三項ナリ

告人ノ依頼ニ出テタルノ證ナク却テ原告(被上)從來所用ノ實印ハ依然其手ニ存在スル所ヲ看レハ改印スヘキ由ナク其乙號證モ亦筆蹟印影相違シ原告(被上)清明ヨリ差入タル者ト認メ難キノミナラス假令清明ヨリ差入タル者トスルモ「義」(被上)カ承諾シタル證ナキ上ハ本訴ノ争點ニ効チ有スル者ニ非ス夫如此買取名前ハ原告(被上)「義」ニシテ事實被告(上告)ノ所有タルノ證ナク地券名前書換モ亦相當ノ順序ヲ用キサル跡等ヲ看レハ彌以テ被告(上告)ノ所有ト認ムルニ由ナキヲ以テ地券名前書換ノ効ナキ者ト審定ス因テ地券ハ引渡スヘキ者ト爲セリ

上告人ハ右ノ裁判ヲ不當トシテ上告スル要領左ノ如シ

第一 原裁判所ニ於テ(本訴地所ヲ買得タル代金ハ被告ノ資産ヨリ出タリト看ルヘキ證據ナク)ト判決セラレタレハ被告上告人ハ實家ヨリ持來リタル資産ナルコトヲ證明セス當ニ證明セサルノミナラス斷テ其證左ナキニ關セス偏ニ上告人ノ資産ヨリ出テタリト看ル可キ證據ナシトハ不當モ亦甚シト謂ハサルヲ得ス抑モ本邦ノ慣習ニ依ルモ概チ入嫁ノ婦ハ資産チ有セスシテ其夫之チ有スルハ普通ノ慣例ナリトス故ニ被告上告人ニ於テ其實家ヨリ持來リタル資産ナリトノ確證アラサル限りハ當然上告人即チ瓜生家ノ財產タル事明カナリ殊ニ被告上告人カ瓜生家ニ嫁シ八九年ヲ經過シテ後瓜生家ニ於テ之ヲ買得シ一時瓜生實妻瓜生「義」ト云フノ名義ヲ附シタルモノナレハ其地所ハ正シク瓜生家ノ財產ニ非スシテ何ソヤ且是等ノ理由ハ明治十一年三月十一日付ヲ以テ三重縣ヨリ内務省ニ伺ハレタル指令ヲ參考スルニ自力ヲ以テ財產ヲ増殖シ地券ヲ得タル養子スラ離別ノ際其財產ヲ持去ルヲ得サル者ナレハ被告上告人ノ如ク實家ヨリ持來リタル資産ヨリ出タリト認求スルモノニ於テハ尤其實家ヨリ持來リタル確證ヲ舉ケサル可カラズ然ルニ原裁判所カ之レニ反シ(上告人ノ資産ヨリ出タルノ證據ナシ)ト判決セラレタルハ則チ採證ノ逆求ニシテ法律ニ違背シ慣例ニ悖リ實ニ不當ノ裁判ナリ

第二 原裁判所ニ於テ(實際被告ノ所有ニシテ表面故サテニ原告「義」ノ名前ヲ用ヒタリトスル辯論ノ理由明カナラス其地券面「義」ノ苗字ニ於テハ全ク戸籍面ニ照依セシモノニシテ此一事以テ被告ノ所有ト爲スヲ得ス)ト夫レ戸籍面ニ照依セシモノナレハ尙更ニ上告人瓜生家ノ財產タル證憑充分ナリトス抑モ此戸籍面ニ照依セシハ瓜生家ノ人ト爲テ瓜生家ニ得タル財產ナルカ故ニ始テ附シ得タルノ名義チリ然ラハ則瓜生家ノ人ト爲テ瓜生家ニ於テ得タルノ財產ハ假令其人瓜生家ノ人タルヲ解キ去ルモ其財產ハ依然瓜生家ノ有タルハ自然ノ道理ナリ何ソ之ヲ奪却シ去ルノ理アラソヤ夫如此此戸籍面ニ照依スルハ却テ瓜生家ノ財產タルヲ實ニ明白ナルニ前掲ノ如ク裁判セラレシハ全ク道理ヲ顛倒セシ不當ノ裁判ナリ

第三 原裁判所ニ於テ(原告番外第一號證ハ被告ノ自筆ニシテ原告ノ依頼ニ出タルノ證ナク云々)ト凡ソ夫婦間ニ在テ事ヲ爲スニ夫マレ妻マレ其時々依頼狀ヲ取テ以テ事ヲ爲スハ未ダ曾テ聞カサル所ナリ若シ夫婦間ニ在テ依頼シタルノ證アレハ之レ却テ怪ム可キニ似タリ

第四 原裁判所ニ於テ(却テ原告(被上)從來所用ノ實印ハ依然原告(被上)ノ手ニ存在スル所ヲ看レハ實際改印スヘキ由ナシ云々)ト判示セラル、モ乙號證ノ如ク一時見當ラサル物ナレハトテ再ヒ出現セサルノ謂レ無シ故ニ今被上告者ノ手ニ存スレハトテ之ヲ以テ改印スヘキ由ナシト云フノ理アラソヤ

第五 原裁判所ニ於テ又(乙號證モ筆跡印影相違シ原告清明(被上)ヨリ差入タル者ト認メ難シ云々)トアレモ印影ニ相違アレハ確乎其相違ヲ明示セサルヲ得ス然ルニ何ニ依テ原裁判所カ斯ク判定セラレタル乎更ニ其相違ヲ明舉セスシテ訂據ノ如ク裁判セラレシハ實ニ法理ニ悖リタル審理不盡ノ裁判ナリ

第六 原裁判所ニ於テ(假令ヒ清明ヨリ差入タルモノトスルモ「義」カ承諾シタルノ證ナキ上ハ云々夫如斯買取名前ハ原告「義」ニシテ云々地券名前書換ノ効ナキモノナリ)ト抑本件ハ固ト夫婦間ニ在テ生シタル事件ニシテ他人相互ノ間ニ生シタル地券等ノ爭訟ト全ク其性質ヲ異ニシ名前ノ如何等ニ拘泥ス可キモノニ非ス而本件ノ主眼ハ夫婦間ノ一方即チ上告人タル瓜生家ノ財産ナル乎又他ノ一方即チ被上告人「義」一己(實家ヨリタル地券又ハ資産ヨリ)ノ財産ナル乎一點ニシテ夫婦雙方ノ何レニ歸スルヲ以テ當然ナリトスルニ在リ然ルニ原裁判所ハ爰ニ審定ヲ與ヘスシテ殆ト枝葉ニ馳セ全ク本件ノ主眼ヲ失却セラレ前掲ノ如ク裁決セラレタルハ審理粗漏ニシテ不當ノ最モ甚シキ裁判ナリ

上告退申(明治十七年五月廿三日)

一 地券面「義」ノ名前ヲ用キタル所以ハ一ハ上告人ト被上告人トノ間ニ子ナシ依テ若シ上告人カ不慮ノ死亡等アリタル時他親戚ノ爲メニ萬一財産ヲ濫消セラレ爲メニ上告人ノ妻タル被上告人カ艱難ニ遭遇シ自然上告人ノ名義等ヲ損傷セラレンコト慮リ又一ハ上告人カ一時購求シタルモ家財ノ都合ニ依リ或ハ之ヲ賣却センモ測リ難シ是等ノ場合ニ該テ上告人ノ名前ニテハ一家ノ戸主ニシテ外見モ如何アランカト彼是ヲ思慮シ一時表面ヲ被上告人「義」ノ名前ニナシ置タルモノナレハ他ニ根據アルニ非スシテ假名ヲ用キタル事分明明ナルニ原裁判所カ(表面故テニ原告「義」ノ名前ヲ用キタリトスル論辯ノ理由明カナラス)トハ審理ヲ盡サハル裁判ナリ

二 苗字ハ戸籍面ニ依リタルモノト假定スルモ地券面又ハ買取證ニ肩書ニ瓜生寅妻瓜生「義」ト記載シタルハ是則上告人瓜生家ノ財産タルノ證憑充分ナリトス然ルニ原裁判所ハ此肩書ノ點ニ對シ毫モ之カ判決ヲ與ヘス單ニ(其地券面「義」ノ苗字ニ於テハ戸籍面ニ照依セシモノ云々)ト判決セラレタルハ法律ニ悖リ審理不盡ノ裁判ナリ

三 被上告人ハ始審裁判所ニ於テ上告乙號證ノ印影ハ相違ナシト陳供シタルニモ拘ハテス原裁判所ハ相違シタル理由ヲ示サスシテ妄リニ(印影相違シ)ト判定セラレシハ不法ナリ

四 乙號證ノ印影ニ相違アテサレハ清明ヨリ差入レスシテ誰レカ之ヲ差入ルヘキソ已ニ清明ヨリ差入タル者トセハ被上告人「義」ヘモ地券面書換ヲ申聞ケ協議上ニ出テタル事ヲ證明スヘキ證書ナリ況ヤ清明モ亦之レカ引渡ヲ請求スルノ一人ナルニ於テヤ又一歩ヲ進

メテ之ヲ論スレハ總テ被告上告人「義」カ上告人ノ妻タリシ時ニ係ルモノナレハ焉ソシ其諾
 否ヲ要スル事ヲ必トセシ然ルニ原裁判所ニ於テ（清明ヨリ差入タル者ト看認メ難キ而已
 ナラス假令清明ヨリ差入タルモノトスルモ「義」カ承諾シタル證ナキ上ハ云々）ト判定セ
 ラレシハ粗漏ノ甚シキ裁判ナリトノ事
 本院ニ於テ辯明及ヒ判決ヲ與フル左ノ如シ

辯明

上告要領第一項ヲ按スルニ地券證ニ名義アルモノハ其買代金ノ出所如何ニ拘ハラズ其名義
 者ヲ以テ該地ノ所有者ト定ムヘキハ普通ノ條理ナリトス左レハ此名義アル即チ所有ノ確證
 ナルカ故ニ之レニ反セル事實アリトセハ之ヲ唱フルモノ即上告人自ラ反證ト其理由トヲ舉
 示スヘキ筈ナリ然ルニ其反證ノ見ルヘキナク又其表面故ラニ「義」ノ名前ヲ用キタリトノ論
 辯ニ付テハ原裁判所ニ於テ其理由明ラカナラズト認定セラレテ其認定タル原裁判官ノ主權
 トスル所ナレハ故ナク之ヲ動かスル能ハサル道理ナリ由是看之本項ニ上告スル論旨ハ上告
 人カ盡スヘキ責任ヲ盡サスシテ被告上告人ニ之ヲ盡カシメントスル趣旨ナルヲ以テ上告ノ理
 由ト爲ス事ヲ得ス而シテ彼ノ伺指令ノ如キモ隨時事ニ付テ指令セラレタルモノナレハ裁判
 ノ定規ト爲シカタク事無論ナルヲ以テ本案破毀ヲ求ムルノ材料ト爲スチ得サルモノトス
 同第二項ヲ案スルニ原裁判ノ旨趣ハ本訴物件カ瓜生家ノ財產ナレハ戶主即上告人ノ名前ト
 スヘキハ當然ナルニ左ナクシテ被告上告人ノ名義ヲナシタル理由ノ明解ナク且地券面瓜生
 「義」トアルハ當時ノ戶籍面瓜生實ノ妻瓜生「義」ナルニヨリ斯ク記シタリト見ルヘケレハ以

テ上告人ノ所有トハ爲シカタク事ナリ然ルニ上告人ハ戶籍面ニ照依セシモノナレハ猶
 更上告人ノ所有ナリト論スレハ到底原裁判官ト意見ヲ異ニスト云ニ過キサルヲ以テ上告ノ
 理由ト爲スヲ得ス

但地券面「義」ノ苗字ニ付判決ヲ與フル時ハ其肩書ハ無論ノ事柄ニ付之ヲ略シタルモノト
 心得ヘシ

同第三項ヲ案スルニ被告上告人カ甲番外第一號證ヲ掲ケテ上告人ノ私擅ノ所爲ナリト論告シ
 タルニ上告人ハ乙號證ヲ提供シテ被告上告人ノ依頼ニ出タリト辯シタルニアラスヤ然レハ夫
 婦間ノ事柄ト雖モ爭論ヲ生スルニ至リテハ證據ノ必要タルハ既ニ已ニ知得シタルモノナリ
 然ルニ今ニ至リ夫婦間ニ在リテ依頼シタル證アレハ却テ怪ムヘシト上告スルハ前後矛盾ノ
 辯論ナリトス

同第四項ヲ案スルニ原裁判ハ甲番外第一號證ハ印面ノ文字分リ兼ヌルヲ以テ改印ストノ事
 柄ナレハ其印判依然被告上告人ノ手ニ存在スルヲ見レハ實際改印スヘキ謂ナシトノ事ナリ然
 ルニ上告人ハ乙號證ノ文言（即印形不見當トアル事）ヲ援來テ一時見當ラサル印形ナレハト
 テ再ヒ出現セサルノ謂ハレナシト論告スレハ畢竟主タル證據即甲番外第一號證書ニ適セサ
 ル證書ニ依テ原裁判所ノ事實認定ヲ非難スルモノナレハ以テ上告ノ理由トスルヲ得サルモ
 ノトス

同第五項ヲ案スルニ原裁判所カ乙號證印影相違ノ點ヲ明示セサリシハ不備ナルカ如クナル
 モ原裁判所カ乙號證ヲ排斥シタル所以ハ獨此一點ニ止マラスシテ「義」カ承諾シタル證據ヲ

且筆跡モ相違セリトノ理由ヲ付シタルナレハ印影ヲ明示セサル一點ヲ以テ本案破毀ノ原因ト爲スヲ得ス但印影相違ノ判決ハ被上告人最終ノ陳辯ニヨリ與ヘタルモノニテ始審裁判所ニ對スル辯論ニ拘ハラサルモノトス
同第六項ハ原裁判所ノ事實認定ニ對シ前論ヲ再說スルニ過サレハ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

追申第一項ハ原裁判所審理中申立サル事柄ニ係リ同第二項ハ要領第二項ノ辯明同第三項ハ要領第五項ノ辯明同第四項ハ要領第三項ノ辯明ニヨリ了解シ得ヘキヲ以テ別ニ辯明ヲ與ヘス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ本上告ハ受理セサルモノナリ

○第五百六號

貸地所取戻一件再上告ノ判文(明治十七年五月廿八日上告) 同(明治十七年五月廿八日上告) 年十月二十日申渡

滋賀縣近江國伊香郡木ノ本村平

民角田勘二郎外三百五十九名總

代人同村平民

下川 太七郎

同總代人同村平民川橋又十郎安

達勘次東野善平代言人

上告人

東京府京橋區丸屋町三番地平民

松尾 清次郎

滋賀縣近江國伊香郡

川合 村一同

被上告

本件ハ被上告村ノ起訴ニシテ其村地内字川合ト稱スル官林反別凡四百餘丁歩ノ場所明治八年度ヨリ従前ノ如ク立入ルヲ許サレサル事トナリ忽耕地培養薪炭需用ニ缺乏ヲ生シタルヨリ年來上告村ニ貸與ヘアル字畔及ヒ栗谷ノ二箇所ヲ取戻サント請求スルニアリ

明治十五年九月四日彦根治安裁判所ニ於テハ被上告村ノ請求ヲ不條理トシテ之ヲ斥ケタリ被上告村ハ之ヲ不服トシ彦根始審裁判所ニ控訴シタル所同裁判所ハ此請求理アリトシ上告村ヨリ返還スヘシト裁決シタリ(明治十五年十一月廿五日)然ルニ上告村ハ之ヲ不當トシ本院ニ向テ上告シタリ

明治十六年九月廿九日本院ニ於テハ原裁判ヲ不盡ノ審理ナリトシ破毀シテ東京始審裁判所ニ移シタリ

然ルニ明治十七年四月十日同裁判所ニ於テハ之ヲ覆審シタル後結局上告村ヨリ返地スヘシト裁決シタルヨリ再ヒ本院ニ向テ上告シタル者ナリ

原裁判ノ要領左ノ如シ

原告(上告者) 以下同 山手米金ヲ出シテ柴草地ヲ借ル者ハ素ヨリ土地ノ賃借ナリ土地ヲ賃借スル者永久借用權ヲ有スト云ハ、別段ノ契約證ナカル可ラサルニ其證ナシ只其被告(被上告)以上

フコトハ田畑山林ヲ貸借スル地方ノ方言ナリト兩造ノ解釋符合スルヲ以テナリト判定セラルト雖モ第七號證ハ全ク他村ノ爭論ニ成立セシ者ノ趣ナレモ終始認メタル者ニ非サルノミナラス本訴論地迄爭フタル繪圖ニ非サレハ何ニ原因シテ請山ト記載セシヤ知ル可カラサレハ上告人ノ權義ニ痛痒ヲ來スヘキ者ニ非ス殊ニおろし山トハ貸借ノ事ナレハトテ該圖ノ書入ニ依リ返還ノ義務ヲ負フヘキ筈ナシ然ルニ斯ク上告人ニ對シ更ニ影響ナキ書面ヲ附會シテ本訴ヲ斷スルノ材料ニ充テタルハ不法ノ裁判ナリ

四 原判文ニ(又大審院ノ破毀後被告(被上告者)カ役場ヨリ發見セル十號十一號證ハ文化文政度ノ年貢諸色取立帳ニシテ紙尾ニ各村ヨリ収納セル山手米ノ廉チ掲ケタリ之ニ原告(上告者)ヨリ山手米ヲ受取リタル事ノ記載アラス然ラハ文化文政ノ比ニハ絶テ借用シタルノ形迹ナシト判定セラルト雖モ該兩號證ハ被上告村ノ手扣帳ナレハ證據上自己ノ義務ヲ認ムルノ具ニシテ權利ヲ認メシムルノ具ニ非ス且ツ十號證ハ文化十一年ノ成立ニシテ被上告人ノ論スル如ク文化三年ニ一旦取戻セリトノ事實ニ適セサル者ナリ然ルニ原裁判所ハ斯ク道理ト事實ニ適セサル者ヲ以テ上告人ニ對スル證據トナシタルハ條理ニ背キタリ

五 原判文ニ(該第七號十號十一號證ハ原告(上告者)關與セサルト認メスト云フモ此數證ハ村吏ノ印章ヲ捺捺シ其紙面墨蹟共ニ何レモ古色ヲ帶ヒ經久ノモノタルハ一目瞭然ナリト判定セラルト雖モ前ニ論述スル如ク證據ノ効力ナキモノニテ殊ニ村吏ノ押印アルモ村吏ハ被上告村ノ者ナリ又古色ヲ帶ヒタル故ヲ以テ効力ヲ生スル者ナランニ

ハ權義ハ全ク今日ノ安キヲ保ツヘカラサルニ至ルヘシ然ルニ原裁判所ハ斯ク證據ノ性質ヲ有セサル帳簿ナルニモ拘ハラズ確明ナル者ト爲シタルハ證據ノ取捨ヲ誤レリトノ事

明治十七年八月十六日退申書ヲ提出セリ其要左ノ如シ

被上告者ノ答辯書ニ對シ上告人ハ復答辯ヲ出シテ一々之ヲ駁撃シタリシ論争アル場合ニ於テハ第一永請山ト普通請山トノ區別ニ因テ返還ト否トノ事實アルヤ否ヲ究メ第二是事實アレハ論地カ普通請山ナルヤ否ヲ究メ第三普通請山ナル時ハ被上告者ノ訟求正當ナリヤ否トヲ究メサルヘカラス然ルニ原裁判所ハ第一ノ事實ヲ密究セス兩造ノ符合セサル事實アルニモ拘ハラズ被上告第七號第十號第十一號證ニ依リ第二ノ事實ヲ(一時ノ貸借タルコト明瞭ス)ト判定ス又ハ(文化文政天保頃ニハ絶テ借用シタルノ形迹ナシ)ト判定シ遂ニ此數證ヲ以テ(確明ナル事實ノ證據)トセラレタルハ事實ト理由トニ齟齬アリトノ事

本院ニ於テ辯明及ヒ判決ヲ與フル左ノ如シ

辯明

第一條

上告要旨第一二項ヲ案スルニ上告者カ本訴ニ付テノ主論ハ年度知ルヘカラサル往古ヨリ借用シタル山地ニテ其證據ハ被上告者モ百四十九年以前ヨリ貸與シタリト申立且其後一旦取戻タリト云モ之カ證據ナキニテ明了ナリ斯ク永年繼續シタル事迹アルニヨレハ別ニ契約シ

タル證書ナクモ實際永久貸借ナルヲ知ルヘシトノ事ナルニ原裁判所カ數十年(即天保度)以來借用シタル山地ニ付返却スルニ及ハスト論シタル如ク掲載シタルハ上告者立論ノ事實ヲ誤リ且天保度以來ニ於テモ連續借用セル證ト爲スチ得スト言渡タルハ被上告者ノ爭論セサル事柄ヲ判決シタルニ當リ不都合ナリト雖モ要旨第四五項ニ掲ケタル如ク被上告第十號第十一號證ニ對スル上告者ノ辯駁相立タスシテ該證ニ依リ文化文政ノ頃ニハ原被問ニ論山ヲ貸借セサリシ事跡アリト認定セラレ其認定ノ動カス事能ハサル以上ハ上告者ノ主張セル事實即年度知ルヘカヲ往古ヨリ連續借用シ來レリトノ事柄ハ到底成立ツ能ハサル道理ナルニヨリ右不都合アリトテ本案破毀ノ材料トスルニ足ラサルモノトス如何トナレハ上告者ハ年度知レサル往昔ヨリ連續借受ケ來レリト申立被上告者ノ自白(百四十九年以前)ヲ憑據トセントシタルモ被上告者ハ文化三年ニ一旦取戻タリト辯シテ其第十號十一號證ヲ提出シ文化文政ノ頃貸借セサリシ事跡判然シタレハ上告者ノ依ラントスル被上告者ノ自白ハ自然ニ無効トナルヘキ條理ナルヲ以テナリ但不動産ノ貸借ニ返濟期限ヲ定メサルモノハ永久貸借ト論スヘシ云々ノ論辯ハ上告者一己ノ私論ニ付採用スルチ得サルモノトス

第二條

同第三項ヲ案スルニ原判文ノ主旨ハ上告者カ往古ヨリ借タリト云モ其證ナク偶々被上告第七號證ニヨリ享和ノ古ヘ貸借シタル事跡アルヲ見ルモ其記スル所ニヨレハ永請山ニアラスシテ普通請山ナリトノ事ナリ然ルニ上告者ハ被上告第七號證ヲ認メサル旨ニテ種々ノ論難ヲ爲スト雖モ之ヲ要スルニ原裁判官ノ主權ナル證據取捨ニ對シ前論ヲ再說スルニ過キサレ

ハ以テ上告ノ理由ト爲スチ得サル者トス

第三條

同第四項第五項ヲ案スルニ第四項ハ原裁判所ノ主權ナル事實認定第五項ハ同ク證據ノ取捨ニ對シ意見ヲ異ニスト云ニ過キサルモノナレハ以テ上告ノ理由トナスコチ得ス但被上告者ノ所論ハ文化三年以來ニ取戻タリトノ事ニシテ其第十號證ハ文化十一年ノ成立ナレハ其取戻中ノ事ヲ證シ得ヘキモノニ付事實齟齬ノ證ト云フチ得サルモノトス

第四條

明治十七年八月十六日ヲ以テ提出シタル退申書ハ上告狀ノ趣旨ヲ擴張スルニ過キサレハ總テ前條々ノ辯明ニ付了會シ得ラルヘキヲ以テ別ニ辯明セス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ本上告ヲ受理セサルモノナリ

○第五百七號

賴母子講掛金催促豫審一件上告ノ判文(明治十六年十二月廿七日上告)
(十七年十月二十日申渡)

群馬縣上野國山田郡大間々町廣
 業講惣代發起人同町二百九十五番地平民

上告人

鈴木清七

東京府京橋區加賀町十六番地士

族

右代言人

鳩山和夫

埼玉縣武藏國幡羅郡小島村八番

地寄留群馬縣平民

被上告人

飯塚熊太郎

東京府下谷區下車坂町二十五番

地寄留群馬縣平民

右代人

岩松兼經

上告ノ要領

第一條

前橋始審裁判所控訴裁判ノ主旨ハ要スルニ控訴期限内ハ法律ニ因リ何時ナリトモ不服ヲ稱ルヲ得ルノミナラス本件豫審ハ本案ニ關セサル訴訟手續ノ豫審裁判ナルヲ以テ直ニ其控訴ヲ爲サズ本案裁決ノ後控訴スヘキ筋合ナルニ付被告第二號證(即チ上告)ノ如ク原裁判所へ答辯書ヲ差出シタル點ヲ以テ豫審裁判ニ付服シタルモノト速斷スルヲ得スト云フニ外ナラス依テ上告人ハ左ニ項ヲ分チ其不當ナルヲ論辯セントス

第一項 控訴期限内ハ法律ニ因リ何時ナリトモ始審裁判ニ對シ不服ヲ稱ル事ヲ得ルハ是レ我邦法文ノ明示スル所ナレトモ若シ其裁判ニ對シ毫モ異議ナキ事ヲ原被告又ハ原被告ノ一方ニ於テ表明セハ假令未タ控訴期限ヲ經過セサルモ其異議ナキ者ニ對シ該始審ノ

裁判ノ確定ノ効力ヲ有スル事ハ是レ普通ノ法理ナリ抑モ本件豫審ニ關シ太田治安裁判所ハ本年九月十一日ヲ以テ被告(被上)原告(上告)請求ニ對シ相當ノ答辯ヲナサハル可カラストノ主意ニテ裁判セラレ續テ同月十九日被上告人ハ上告第二號證ノ如ク本案ノ答辯ヲ爲シ竟ニ同年十月十九日太田治安裁判所ハ上告第三號證ノ如ク本案始審ノ裁判ヲ與ヘラレタリ夫レ此ノ如ク被上告人ハ太田治安裁判所ノ豫審裁判ニ基キ本案ノ答辯ヲ爲シタルノミナラス既ニ本案ニ對スル裁判ヲ受ケタル以上ハ太田治安裁判所ノ豫審裁判ハ當時被上告人ニ對シ己ニ確定セルモノト云ハサル可カラサレハ被上告人カ其答書ヲ奉呈シタルカ爲メ豫審ニ關スル始審裁判ノ己ニ確定セルト並ニ己ニ本案ノ裁判申渡相成リタルトニ拘ハラス同年十一月八日ヲ以テ豫審控訴ヲ爲シタルハ一ハ確定セル裁判ニ不服ヲ唱フルモノト云フヘク一ハ裁判權ヲ玩弄スル者ト云フヘク不當ノ甚シキニモ拘ハラス原裁判所カ右ノ如ク辯明裁判セラレタルハ不當ナリト云ハサルヲ得

第二項 原裁判所ハ又本件豫審ハ本案ニ關セサル訴訟手續ノ豫審裁判ナルヲ以テ直ニ其控訴ヲ爲サズ本按裁決ノ後控訴スヘキ筋合云々ト辯明セラレタレトモ抑モ本件豫審ハ被上告人カ管轄違ヲ申立テ本案ノ答辯ヲ拒ミタルニ起因スルカ故ニ苟モ被上告人ニ於テ豫審ニ關スル始審裁判ニ不服ナレハ直ニ控訴シ本按ノ答辯ヲ爲サハルヘキ筈ナリ何トナレハ始審ノ裁判ハ確定裁判ニアラサルカ故ニ假令本按ノ答辯ヲ爲ス可シトノ豫審裁判アルモ苟モ其控訴期限ヲ經過セサル以上ハ被上告人ニ於テ本案ノ答辯ヲ爲スヘキ義

務ナケレハナリ否已ニ本案ノ答辯ヲ爲ス以上ハ被上告人ハ豫審ニ關スル始審ノ裁判ニ付服スル者ト云フヘキナリサレハ原裁判所カ本案裁決ノ後控訴スヘキ筋合ナリト辯明セラレタルハ不當ノ甚シキ者ト云ハサルヲ得ス

第二條

原裁判所裁判ハ前條ノ如ク不當ナルノミナラス又審理不盡ノ點アリト云ハサル可カラス抑モ本件豫審ノ爭點ハ本案頼母子講掛金催促ノ詞訟ハ太田治安裁判所ノ管轄スヘキ訴件ナルヤ否ヤニ在リ而シテ現ニ被上告人ノ本籍ハ太田治安裁判所ノ管轄内ニ之レ有ルノミナラス上告第一號證抵當地所ハ盡ク太田治安裁判所ノ所轄ナリサレハ本案執行ノ場合ニ於テ太田治安裁判所カ本案訴件ヲ所轄スルハ實ニ原被告ノ便宜ナルノミナラス又普通ノ法理ナリト云ハサル可カラス何トナレハ法律ハ便宜ニ基クモノナルカ故ニ若シ特定ノ法律ナキ場合ニ於テ便宜ニ從ヒ之ヲ處スルハ是レ法ノ眞理ニシテ而シテ本件ノ如キ裁判執行ニ必要ナル抵當地所ハ所轄内ニ在リテシカモ被告カ他管轄内ニ寄留セル場合ニ向テ我邦特定ノ法律ナキカ故ニ原被告ノ便宜ニ從ヒ之カ管轄ヲ太田治安裁判所ト定ムルハ最モ至當ノ條理ナレハナリ況ンヤ被上告人ハ名ハ埼玉縣下ニ寄留スト云フモ其實本籍ニ住居シテ公私ノ用向ヲ取扱ヒ居ルニ於テオヤ夫レ此ノ如キ理由ナルニヨリ太田治安裁判所カ本案訴件ヲ管轄スルハ至理至當ナルコトニシテ而カモ此論辯ハ本件豫審ノ爭點ニ對スル必要ノ論辯ナリ然ルニ原裁判所カ此等ノ論辯ニ對シ十分ノ審理ヲ遂ケス前掲豫審ノ爭點(本案頼母子講掛金催促ノ詞訟ハ太田治安裁判所ノ管轄スヘキ訴件ナルヤ否ヤ)ニ對シ何等

ノ辯明ヲモ與ヘス前第一條ニ掲クル理由ノミヲ以テ上告人ノ申分ヲ採用セラレザリシハ審理不盡ノ裁判ト云ハサルヲ得ス依テ破毀ヲ求ムルトノ事

大審院ニ於テ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ニ付審判スヘキ要點ハ左ノ三項ナリトス

第一 本件豫審ノ言渡ハ確定ノ効力ヲ有スル者ナルニ原裁判所カ控訴期限内ハ何時ナリト不服ヲ稱ルコトヲ得ルトノ裁判ヲ與ヘタルハ不當ナリトノ事

第二 本件豫審ノ言渡ハ本案ニ關スル者ナルニ原裁判所カ本案ニ關セサル訴訟手續ノ豫審裁判ナリトノ裁判ヲ與ヘタルハ不當ナリトノ事

第三 本件控訴ノ主點ハ裁判管轄ノ争ヒナルニ原裁判所カ何等ノ審判モ與ヘザリシハ不當ナリトノ事

右第一項ヲ審按スルニ凡ソ控訴ハ法律ニ定メタル期限内ハ何時ナリト控訴スルヲ得可シト雖モ本件控訴ノ如キハ其期限内ナルニ拘ハラズ控訴スルヲ得サル條理アルモノトス何トナレハ被上告人ハ始審ニ於テ本案ノ裁判管轄ニ付故障ノ申立ヲ爲シタルヨリ豫審ノ言渡ヲ受ケ被上告人ノ故障ハ相立タサリシニ控訴ヲ爲サスシテ直ニ本案ノ答辯ニ及ヒタル而已ナラス其裁判ノ言渡ヲモ受クルニ據リ被上告人ハ該豫審ノ控訴權ヲ拋棄シタル事實ノ明白ナレハナリ然ルニ原裁判所カ斯ル事實ノ明白ナルニモ拘ハラズ控訴期限内ハ何時ナリト不服ヲ稱ルコトヲ得可キモノナリト判示シタルハ不當ノ裁判ナリトス

右第二項ヲ審按スルニ本件豫審ノ言渡ハ本案ニ關セサル豫審ノ言渡ト爲ストヲ得サル理ア

ルモノトス何ントナレハ本件豫審ノ如キハ裁判管轄ニ關スルノ言渡ナレハ本案ノ裁判言渡
ヲ埃テ本案ト共ニ控訴スルニ方リ若シ控訴廳ニ於テ管轄違ナリトノ判決ヲ受シキハ本案ノ
裁判ハ其當否ニ拘ハラス越權ニ歸シ無効トナルヘキノ結果ヲ生スルニ至レハナリ然ルニ原
裁判所カ本件豫審ノ言渡ハ本案ニ關セサルモノナレハ直ニ控訴ヲ爲サス本案ノ裁判言渡ヲ
埃テ控訴スヘキ筋合ナリト判示シタルハ不當ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ前橋始審裁判所カ本件ニ與ヘタル豫審裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁
決スルコト左ノ如シ

前第一二項ニ説明スル如クナルヲ以テ被告(被上)ハ本件豫審ノ言渡ニ付控訴スルノ權利
ナキモノトス

但上告入費并訴訟入費トモ被告ノ負擔タルヘシ

○第五百八號

立木代金請求一件上告ノ判文(明治十六年十一月八日上告) 同(明治十六年十月廿日申渡)

栃木縣下野國上都賀郡鹿沼宿寄

留平民

上告人

金子治 五治

東京府京橋區銀坐三丁目十五番
地平民

田村 成義

右代言人

栃木縣下野國上都賀郡鹿沼宿平
民

峯岸 定平

被上告人

同縣同國同郡小倉村平民

田中 嘉平

被上告人

東京府日本橋區檜物町二番地士
族

山田 直道

右代人

上告ノ要領

上告者カ甲第一號證即チ義務ノ證ヲ提供シ加フルニ被上告者カ勸解廷ニ於テ其請求高ト
之レカ返償ノ義務アル事ヲ認メタル甲第二號證及甲第三號證ヲ副呈シタルニ右甲第二三
號證ニ付何等ノ裁判ヲモ與ヘスシテ止タ上告甲第五號證ノ墨色筆勢位地等數次ノ記載ニ
アラスシテ一時ノ筆記ナルヲ明瞭ナレハ別途ニ百五拾圓ヲ貸渡シタルノ證據トナスニ足
ラスト爲シ被上告乙第五號證ノ金額ハ立木代ノ内ニ入金セシモノト認定セラレタルハ不
當ナリトノ事

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

上告ノ旨趣ヲ案スルニ被上告乙第五號證ノ金額ハ上告甲第一號證ニ對シ入金シタルモノナ
ルヤ否ヤヲ審究スルノ一點ニアリ因テ原書類及證據物ヲ閱スルニ乙第五號證ニ（右ハ田中
嘉平殿へ用立金ノ内正ニ請取申候也）トアリテ立木代金云々明記セス又上告第三號證即チ
被上告者カ説諭願ト題シタル願書ニ（代金四百圓ノ内金五拾圓ヲ直引シ殘ル三百五拾圓ハ
云々金三百二拾圓ヲ相渡シ殘金三拾圓不足ス云々）トアリ依是觀之被上告者カ自陳スル所
兩岐ニ涉リ一ハ乙第五號證ハ甲第一號證ニ對シ返金シタリト云ヒ一ハ五拾圓直引シ三拾圓
不足ストアリテ何レカ其實ナルモノアルヤ必ス一途ニ歸セサル可テサルモノタリ然リ而
シテ原裁判所ハ甲第三號證ニ對シ何等ノ説明ヲナサズ單ニ乙第五號證ハ甲第一號證ニ對シ
入金ナシタルモノナリト事實ノ認定ヲ與ヘラレタリ抑事實ノ認定ハ事實裁判官ノ全權ニア
ルヲ以テ本院ノ干與スヘカテサルハ言テ俟スト雖モ被上告者カ説諭願ト題シタル即チ甲第
三號證ニハ五拾圓直引シ三拾圓不足ストアリ又控訴廳ニ向テハ乙第五號證ヲ以テ返金シタ
リト陳供セリ夫レ然リ然ラハ則チ原裁判所ハ宜シク甲第三號證ノ審明ヲ爲シタル上ニテ乙
第五號證ノ事實認定ヲ與フヘキカ當然ナルニ甲第三號證アルモ之レカ説明ヲモ要セス漫然
被上告者カ陳述ニ據テ乙第五號證ハ甲第一號證ニ對スル證票ナリトノ判定ハ審理不盡ノ裁
判ナリト謂ハサルヲ得ス
右ノ理由ナルヲ以テ朽木始審裁判所カ本訴ニ與ヘタル終審裁判ヲ破毀シ同裁判所宇都宮支
應ニ移ス者也

但上告入費ハ被上告者ノ負擔タルヘシ

○第五百九號

草手料米催促一件上告ノ判文（明治十六年八月一日上告）
同（十七年十月廿日申渡）

鳥取縣因幡國八上郡下村平民岩
城安六外廿壹名同縣同國八東郡
郡家村平民田中惣三郎外三十六
名代言人

東京府日本橋區通り青物町廿五

番地士族

仁 杉 英

鳥取縣因幡國八東郡

西 谷 村

上告人
被上告

上告ノ要領

鳥取始審裁判所ノ言渡ノ主旨ヲ按スルニ原被ノ間入會地ノ改正シタリシトノ事ハ既ニ明
治十五年中終審ノ裁判ヲ經タルモノナレハ之ニ根據シテ請求ヲ拒ムコトヲ得スト云フニ過
キス然ルニ入會地ノ改正シタル事ハ上告第三號ノ如クニシテ被告モ之ニ連署シ承諾ヲ表
シアリテ被上告第四號第五號證ニ照シ既ニ請書ヲモ捧呈シタルニ於テ判然タリ此件即チ
秣山入會故障ノ件及ヒ明治九年ヨリ十二年迄ノ草手料米催促ノ件ニ付テハ明治十五年中

始終審ノ裁判ヲ經テ本院へ上告シ十五年第三百八十七號及ヒ第三百八十八號ヲ以テ當時御審理中ニ有之夫レ既ニ鳥取縣ノ處分ニ於テ入會ノ地ヲ割替ラレタル以上ハ其舊入會地ニ關スル被上告第一二號證ニ據リ草手料米ヲ請求スルノ不當ナル事ハ論ヲ俟タサルナリ然リ而シテ上告者ハ明治九年來新入會地ニ於テ稼來リタル事ハ上告第四號證ノ如クナレハ舊入會地ニ立入ラサルヲ知ルヲ得ヘクシテ被上告第一二號ノ裁判書及ヒ議定ノ主旨タル草手料ヲ拂ハサレハ秣苜取ルヲ得スシテ秣苜取ラサレハ草手料ヲ拂フニ及ハサルモノナリ如何トナレハ上告第一號證ニハ(草手料八斗差立字口失白小屋云々入會草苜可申)トアリ被上告第一號證ハ(草手料八斗受取字口失白小屋云々一圓入會爲草苜可申)トアレハナリ既ニ草手料ヲ拂ハサレハ秣苜取ルヲ得スシテ秣苜取ラサレハ草手料ヲ拂フニ及ハサルヲ前陳ノ如クニシテ上告者ハ鳥取縣ノ割替處分ニ服シ之ヲ主持スルモノナレハ徒ラニ遠ク舊入會地ニ入ルヘキ筈ナキノミナラス新入會地ニ稼來リタル事上告第四號證ノ如クナル以上ハ假令ヒ被上告ハ鳥取縣ノ處分ニ服セサルモノトスルモ本按草手料ニ拂フヘキ義務ノ上告者ニアラサル事ハ實ニ瞭然タルモノナリ況ンヤ被上告カ入會割替處分ニ服從シタル事ハ前陳ノ通りナレハ旁先ニ確定裁判アリタリトテ被上告カ請求ヲ拒ムハ不條理ナリト判セラレタルハ事實ヲ誤リ證據ニ據ラサル不當ノ裁判ナリト思考ス

被上告者ハ本院再度ノ召喚ニ應セサルヲ以テ答辯ノ權利ヲ拋棄セシ者ト看做シ闕席ノ儘裁判ニ及ブ者也

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

本案ハ被上告者カ其第一二號證ノ入會秣山ニ對スル明治十三年度ノ草手料ヲ上告者ニ向テ要求スル者ナリ而シテ其論點タル上告者ニ於テハ被上告第一二號證ノ入會秣山ハ明治九年中地方廳ノ處分ニテ他ノ箇所ニ割替ヘラレ舊約ハ已ニ消滅シタル者ナレハ該證ノ秣山ニ對スル草手料ヲ拂フヘキ義務ナシト云ヒ被上告者ニ於テハ地方廳ノ割替處分ノ無効ニ屬シ被上告第一二號證ノ効力依然トシテ存スル事ハ曩ニ秣山入會拒障解除ノ訴訟并草手料米催促ノ訴訟ニ對シ言渡サレタル確定裁判ノ如クナレハ上告者カ本案ノ要求ヲ拒ムヘキ理由ナシト云ニ在リ

原裁判所ハ右爭點ニ對シ曩ノ確定裁判ヲ援引シ上告者カ本案ノ要求ヲ拒絕スヘキ條理ナキ旨言渡シタリ

依テ按スルニ曩ノ確定裁判ハ即チ廣島控訴裁判所カ明治十五年四月二十日本案原被兩造ニ言渡シタル秣山入會拒障解除ノ控訴并ニ草手料延滞催促ノ控訴ニ對スル終審裁判ヲ指シタル者ナリ然ルニ該裁判ハ本案上告者ノ上告ニ因リ明治十七年六月十日之レヲ破毀シ大坂控訴裁判所ニ移シタリ然ラハ則原裁判所カ本案判定ノ資料ニ援引シタル確定裁判ハ早已ニ破毀セラレ無効トナリタル者ナレハ其之レニ根據シタル原裁判ノ理由モ隨テ虚空ニ屬シタル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ鳥取始審裁判所カ本訴ニ與ヘタル終審裁判ヲ破毀シ同始審裁判所米子支廳ニ移ス者也

但上告入費ハ被上告ノ負擔タルヘシ

○第五百十號

草手料米催促一件上告ノ判文(明治十六年八月一日上告)
全 十七年十月廿日申渡)

鳥取縣因幡國八上郡下村平民岩

城安六外二十一名同縣同國八東

郡郡家村平民田中惣三郎外三十

六名代言人

東京府日本橋區青物町二十五番

地士族

仁 杉 英

鳥取縣因幡國八東郡郡家村平民

中川教音代人

同縣同國邑美郡西町二百十五番

地平民

岡 村 平 次 郎

鳥取縣因幡國八東郡

西 谷 村

上告ノ要領

鳥取始審裁判所ノ言渡ノ主旨ヲ按スルニ原被ノ間入會地ノ改正シタリシトノ事ハ既ニ明

上告人

被上告

治十五年中終審ノ裁判ヲ經タルモノナレハ之ニ根據シテ請求ヲ拒ム事ヲ得スト云フニ過
キス然ルニ入會地ノ改正シタルトハ上告第三號ノ如クニシテ被告モ之ニ連署シ承諾ヲ表
シアリテ被上告第四號第五號證ニ照シ既ニ請書ヲモ捧呈シタルニ於テ判然ヨリ此件即チ
林山入會故障ノ件及ヒ明治九年ヨリ十二年迄ノ草手料米催促ノ件ニ付テハ明治十五年中
始終審ノ裁判ヲ經テ本院へ上告シ十五年第三百八十七號及ヒ第三百八十八號ヲ以テ當時
御審理中ニ有之夫レ既ニ鳥取縣ノ處分ニ於テ入會ノ地ヲ割替ラレタル以上ハ其舊入會地
ニ關スル被上告第一二號證ニ據リ草手料米ヲ請求スルノ不當タル事ハ論ヲ俟タサルナリ
然リ而シテ上告者ハ明治九年來新入會地ニ於テ稼來リタル事ハ上告第四號證ノ如クナレ
ハ舊入會地ニ立入ラサル事知ルヲ得ヘクシテ被上告第一二號ノ裁判書及ヒ議定ノ主旨ヲ
ル草手料ヲ拂ハサレハ林苴取ルヲ得スシテ林苴取ラサレハ草手料ヲ拂フニ及ハサルモノ
ナリ如何トナレハ上告第一號證ニハ(草手料八斗差立字口失白小屋云々一圓入會爲草苴可申)トアレ
トアリ被上告第一號證ハ(草手料八斗受取字口失白小屋云々一圓入會爲草苴可申)トアレ
ハナリ既ニ草手料ヲ拂ハサレハ林苴取ルヲ得スシテ林苴取ラサレハ草手料ヲ拂フニ及ハ
サル事前陳ノ如クニシテ上告者ハ鳥取縣ノ割替處分ニ服シ之ヲ主持スルモノナレハ徒ラ
ニ遠ク舊入會地ニ入ル可キ筈ナキノミナラス新入會地ニ稼來リタル事上告第四號證ノ如
クナル以上ハ假令ヒ被上告ハ鳥取縣ノ處分ニ服セサルモノトスルモ本按草手料ニ拂フヘ
キ義務ノ上告者ニアラサル事ハ實ニ瞭然タルモノナリ況ンヤ被上告カ入會割替處分ニ服
從シタル事ハ前陳ノ通りナレハ旁先ニ確定裁判アリタリトテ被上告カ請求ヲ拒ムハ不條

理ナリト判セラレタルハ事實ヲ誤リ證據ニ據ラサル不當ノ裁判ナリト思考ストノ事
被上告者ハ本院再度ノ召喚ニ應セサルヲ以テ答辯ノ權利ヲ拋棄セシ者ト看做シ闕席ノ儘裁
判ニ及フ者也

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

本案ハ被上告者カ其第一二號證ノ入會秣山ニ對スル明治十四年度ノ草手料ヲ上告者ニ向テ
要求スル者ナリ而シテ其論點タル上告者ニ於テハ被上告第一二號證ノ入會秣山ハ明治九年
中地方廳ノ處分ニテ他ノ箇所ニ割替ヘテレ舊約ハ已ニ消滅シタル者ナレハ該證ノ秣山ニ對
スル草手料ヲ拂フヘキ義務ナシト云ヒ被上告者ニ於テハ地方廳ノ割替處分ノ無効ニ屬シ被
上告第一二號證ノ効力依然トシテ存スル事ハ曩ニ秣山入會故障解除ノ訴訟并草手料米催促
ノ訴訟ニ對シ言渡サレタル確定裁判ノ如クナレハ上告者カ本案ノ要求ヲ拒ムヘキ理由ナシ
ト云ニ在リ

原裁判所ハ右爭點ニ對シ曩ノ確定裁判ヲ援引シ上告者カ本案ノ要求ヲ拒絕スヘキ條理ナキ
旨言渡シタリ

依テ按スルニ曩ノ確定裁判ハ即チ廣島控訴裁判所カ明治十五年四月二十日本案原被兩造ニ
言渡シタル秣山入會故障解除ノ控訴并ニ草手料延滞催促ノ控訴ニ對スル終審裁判ヲ指シタ
ル者ナリ然ルニ該裁判ハ本案上告者ノ上告ニ因リ明治十七年六月十日之レヲ破毀シ大坂控
訴裁判所ニ移シタリ然ラハ則原裁判所カ本案判定ノ資料ニ援引シタル確定裁判ハ早已ニ破
毀セラレ無効トナリタル者ナレハ其之レニ根據シタル原裁判ノ理由モ隨テ虛空ニ屬シタル

者トス

右ノ理由ナルヲ以テ鳥取始審裁判所カ本訴ニ與ヘタル終審裁判ヲ破毀シ同始審裁判所米子
支廳ニ移ス者也

但上告入費ハ被上告ノ負擔タルヘシ

○第五百十一號

田畑山林秣場數名前換請求一件上告ノ判文(明治十六年九月十九日上告)
同十七年十月廿一日申渡)

長崎縣肥前國長崎區引地町二十

一番地平民

安中 朋太郎

長崎縣肥前國西波杵郡戸町村六

十一番戸平民山下代造代兼同村

六十九番戸平民

岩崎兵太郎

被上告人

上告ノ要領

第一條

第一項 長崎控訴裁判所ハ裁判言渡書ニ被上告人岩崎兵太郎ノ肩書ニ山下代造代兼ト記
載之レアリ然ルニ被上告人兵太郎ニ山本徳三郎カ擅ニ差入レタル地所讓渡約定書ハ單
ニ岩崎兵太郎一名ノ宛名ナリ而シテ右約定書ヲ根據トシテ本訴ニ及ヒタル明治十五年

七月廿六日始審裁判所へ捧呈スル訴狀并ニ明治十六年五月十七日ノ控訴狀ニ於ケルマ
 テ岩崎兵太郎單一ノ名義ニシテ山下代造ノ代人兼タルハ上告人カ曾テ承知セサル所ナ
 リ尤今般上告ニ付控訴裁判所ニ於テ一件書類寫取タルニ原被告對審ノ後被上告人兵太郎
 ヨリ呈供シタル委任狀ノ寫アリ是レ原裁判所カ代人兼ト記載シタル所以ナルカ果シテ
 然ラハ豈特リ山下代造而已ナランヤ黒田吉次外五名モ控訴人ノ資格ヲ有スルモノニ非
 スヤ而シテ猶明治十六年六月十六日山下代造カ原裁判所ニ於テ陳述シタル(上告人ハ
 ニ與カ)調書ニハ引合人ト肩書アリ然ルチ忽然ト山下代造ノミチ控訴人ノ資格ヲ有セ
 シメシハ何等ノ理由ニ憑ルヤ上告人ハ甚タ解説ニ苦マサルチ得サルナリ何トナレハ控
 訴ハ初審ノ判定ヲ經過シタル後チニ非サレハ控訴スルチ得サルハ法律ノ然ラシムルニ
 アラスヤ然ルチ特ニ山下代造ニ限り控訴人ノ位置ニ記載シアルハ審理ヲ盡サス法律ニ
 背キタル不法ノ裁判ナリト思料ス

第二項 長崎控訴裁判所ハ本訴ニ付明治十六年六月十四日ヲ以テ原被告ノ對審ヲ開カレ
 タル迄ニテ爾後密審ナク然レハ被上告人岩崎兵太郎引合人山下代造三根祥太郎鹽谷万
 次郎等カ陳述ハ如何ナル不實ナルモ之レヲ駁撃スルニ由ナシ然ルチ引合人ノ供述モ聞
 タリトテ上告人カ毫末モ與リ知ラサル契約ヲ(地所ヲ被控訴人(上告)ハ賣渡ノ名義ニ
 仕ナシ其實三ヶ年期賣ノ契約云々)ト漫然被上告人口頭ノ陳述ヲ偏信セラレタリ抑法
 官ノ事實ヲ探ルハ其據ルヘキノ證左ヲ踏シテ而シテ其實跡ヲ確認スヘキノナリ然ル
 チ他ニ據ルヘキノ確證モナキヲ擅ニ事實ナリト結局(右ノ事實ニ由ルニ本訴ノ地所ハ

元來年期賣リノモノニシテ其實質地ト一般云々)ト小作ノ實跡杯ハ利足金ニ宛タルカ
 如ク臆斷セラレタルハ聽斷ノ定規ニ乖キタル不法ノ裁判ナリト思料ス

第三項 被上告人カ山本德三郎ヨリ請得タル地所讓渡約定書第十七項第十八項第廿一項
 ノ地所ハ明治十二年六月廿一日買求タル上告第一號第二號證ノ別途ノ地所ニシテ就中
 其第十八項ノ地所ノ如キハ明治十四年八月三十日被上告人ト連署ヲ以テ地券下渡シ方
 チ出願及ヒタルモノナレハ決シテ外地ニ關係ナキ地所ナリ然ルニ原裁判所ハ其區別モ
 ナサス(二口元金合テ貳百九拾五圓返却ノ上ハ云々)トノ事實ヲ舉ナカラ單ニ明治十二
 年六月廿一日買求メタル地所ト同一ニ名前換ナセヨトノ誤判ハ事實ニ反對シタル不法
 ノ裁判ナリト思料ス

第四項 長崎控訴裁判所ハ被上告人カ提出シタル地所讓渡契約書ノ事實ヲ採ルニ(其後
 年限滿期ニ至リ云々)ト是レ不當モ又甚シト言ハサルチ得ス抑モ右年限滿期トハ法官
 ハ何等ノ證左ニ依據セラレタルヤ假令三ヶ年期賣買ナリシト假定スルモ上告人カ該地
 所ヲ買受ケタルヨリ被上告人カ勸解請願及ヒタルマテハ都合二年六ヶ月ナラスヤ然レ
 ハ何チ以テ滿期ニ至リト云フチ得ヘキヤ又曰(控訴人(被上)ハ被控訴人(上告)ハ係リ
 明治十四年十二月廿八日長崎治安裁判所へ該地所名前替ノ勸解ヲ乞願セシニ右勸解中
 被控訴人ヨリ總理代人トシテ差出タル山本德三郎ニ於テ控訴人ト示談ヲ遂ケ云々甲第
 一號證ヲ控訴人へ渡シタルモノナリ)トアリ抑該勸解ニ於ケルヤ元來被上告人カ勝手
 ニ山本德三郎ヲ總理代人トシテ乞願シ德三郎亦之レニ應シ且自儘ニ願下ケナシ或ハ

示談ヲ遂ケ是レニ基キタリトテ上告人ノ所有地ヲ私擅ニ讓渡ノ契約書ヲ授受ナスモ素ヨリ權限外ニテ孰レモ効力ヲ有セサルモノナリ如何ントナレハ德三郎ニ與ヘタル總理代人ノ權限ハ明治六年第二百十五號布告第七條ニ基キ其權限ヲ分條記載シテ商法上ト金穀貸借上ノ兩事ニ止ルモノニテ其他ニ總理代人ノ故ヲ以テ勸解ニ出頭シ契約ヲ結フモ上告人ノ承諾ヲ經サレハ悉ク權限外ナリ如是ノミナラス被上告人カ最初ノ請求高ヨリ遙カニ余計ノ地所ヲモ併セテ讓渡スヘシト契約セシハ被上告人ト德三郎ト馴合上タルハ明瞭ナルヲ反テ有効ノ契約ト看認ラレ其契約證ヲ指シテ(尙ホ鄭重ニモ甲第一號證ヲ以テ該契約ヲ鞏固ナラシメタルモノトハ探證ヲ失リタル不法ノ裁判ナリト思料ス

第五項 別冊參觀書第三號證ハ本件ニ關涉シタル山本德三郎ト上告人トノ間柄ナル訴訟判決書ニシテ該件ニ付テハ被上告人ト山本德三郎ト取結タル地所讓渡契約證ヲ權限外ナル旨意ニ辯明ヲ與ヘラレ而シテ本訴ニ就テハ前項ニ論スル如ク不法ニモ有効ノ契約ニ誤判セラレタルハ同一ノ裁判所ニ於テ同一ノ契約證ヲ二樣格別ニ解釋ヲ與ヘラレ人民ニ於テ何時カ安堵スルヲ得ンヤ是レ長崎控訴裁判所ノ裁判ハ條理ニ違ヒタル不法ノ裁判ナリト思料ス

第二條

前條ニ縷陳スルカ如ク長崎控訴裁判所ノ裁判ハ不法ナリト思料シ敬服スル能ハサルヲ以テ本院ニ於テ破毀セラレゾトテ請願スルモノナリ

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

上告第一條第二項末段(抑法官ノ事實ヲ採ルハ云々)ノ論旨及ヒ第四項(控訴人(被上)ハ被控訴人(上告)ニ係リ云々)ノ判文ニ對シタル論旨ニ因リ原裁判所ハ如何ナル證據理由ヲ以テ事實ヲ認定セシヤヲ審究スルニ全ク被上告人ノ陳述ヲ採リタルモノ、如シ而シテ其然ル所以ノ證據及ヒ理由ヲ明示セズ殊ニ山本德三郎カ權限ノ事ニ付テハ上告人カ主トシテ論辯セシ所ナレハ甲第一號證ノ正否ヲ定ムルニハ其權限如何ヲ判定セサル可ラサル筋ナルニ原裁判所ハ上告人ノ論辯ニ對シ毫モ判決ヲ與ヘタル事ナシ抑裁判ハ必ス其因ル可キノ證據及其理由ヲ明示シテ兩造ノ曲直ヲ判ス可キ筋ナルニ原裁判所カ之ヲ明示セズシテ漫然事實ナリト判定セシハ條理ニ背キタル不法ノ裁判ナリトス

但シ上告人ニ於テ尙數點ノ陳述アリト雖モ原裁判所ニ中立サル事柄又ハ間違ノ事瑣細ノ事等總テ枝葉ニ屬スルヲ以テ每件辯明ヲ要セス

右ノ理由ナルニ因リ長崎控訴裁判所ノ裁判ヲ破毀シ相當ノ處分ヲ爲サシムル爲メ大坂控訴裁判所ニ移スモノナリ

但シ上告入費ハ被上告人ノ負擔タルヘシ

第五百十二號

止宿料費用損害要償一件上告ノ判文(明治十七年六月十七日上告)

全(年十月廿二日申渡) 埼玉縣武藏國秩父郡別所村五十 八番地平民

上告人

兒 玉 萬 平

東京府下谷區練堀町拾四番地士族

右代言人

長谷川 陳

被上告人

埼玉縣武藏國秩父郡別所村平民

富田 捨五郎

外四拾六名

東京府深川區佐賀町壹丁目拾貳

番地寄留茨城縣士族

右代言人

鴨志田 直

上告ノ要領

第一條

原裁判所ハ告訴發下吟味願ヲ區別シテ吟味願ハ恰モ檢察官カ犯罪ノ取調ヲ豫審判事ニ囑托セラル、カ如キ性質ヲ有スルモノ、如ク論セラルレモ上告人ハ未曾テ人民ニ犯罪有無ノ取調ヲ官ニ請願スルノ法規アルヲ聞カス若シ人民ニ犯罪ノ取調ヲ願フ事ヲ許シタラハ官ニ於テ犯罪ノ徵憑ナシトスルモ人民ハ公訴ヲ起スヲ得又官ニ於テ其徵憑アルモノトスルモ人民ハ公訴ヲ拋棄スルニ至ルヘシ豈如斯道理アラシヤ然ラハ則チ此吟味願ナルモノハ名社異ナレ告訴發ニ外ナラサルナリ而シテ此告訴發ナルモノハ人民ニテ爲ヌヲ得ルモ必ス爲サ、ルヲ得サルノ義務ハ負ハサルモノナリ果シテ然ラハ告訴發スルト告訴告

發セサルトハ人民ノ自由ニアルモノナレハ人民カ他ノ同等ノ人民ヲ告訴發スル場合ニ在テハ宜シク鄭重ニ鄭重ヲ加ヘサルヲ得ス故ニ苟モ鄭重ヲ欠キ他人ニ迷惑ヲ掛ル事アレハ粗暴ノ責ハ免レサルモノトス粗暴ノ責ヲ免レサル以上ハ自己ノ粗暴ニ因リ他人ニ損害ヲ蒙ラスル事アレハ其損害ヲ引キ起サシメタル粗暴人ハ其責ニ任セサルヲ得サルハ法理ノ然ラシムル所ナリ依之本案要領事件ノ起因ヲ吟味スルニ被上告人等ハ明治五年中上告人及當時ノ戸長井上理吉ト馴合ヒ亡勘六ノ潰株田畑合八反六畝歩ヲ冒認スル者ナリトシ明治十二年十月申井上理吉ヲ相手取リ熊谷警察署ヘ吟味願ヲ爲シタルモ却下セラレタリ然ルニ又候被上告人等ハ明治十三年七月大宮區裁判所第千五百八十一號ヲ以テ上告人ニ對シ亡跡地專斷ノ勸解ヲ願出ルモ是亦請願相立サルヨリ願下ヲ爲シナカラ如何ニモシテ上告人ヲ刑ニ陥入ント欲シ明治十三年九月二十二日又候無縁亡跡欺取候廉御吟味願ト題シ上告人ヲ相手取リ熊谷警察署ヘ吟味願ヲ爲シタリ事實如此ナレハ被上告人ノ吟味願ハ惡意又ハ重過失ニ出テタルハ論ヲ俟タサルナリ

第二條

明治九年第六十三號同第七號ノ公布ヲ拜讀スルニ該法律ハ罪囚ノ證人タルヘシト思量シ裁判官ニテ呼出ス者探索上捕ニ就キ及ヒ裁判官ノ呼出テ受ケ無罪ニ歸スル者等ノ旅費日當ノ規則ニ係レハ本案ノ如キ告訴發アリ官署ノ呼出テ受ケ爲メニ損害ヲ蒙リタル場合ニ適用スルモノニ非サルナリ

第三條

第一條第二條ニ告白スル理由ナレハ原裁判所カ該願ノ事タル犯罪アリトシテ告訴ヲ爲スト同一ニアラスシテ犯罪ノ有無ヲ吟味スル爲メノ願ニ係ルモノナリ云々該願タル全ク爲スヘカラサルヲ爲シ重キ過失又ハ惡意等ニ出テタルモノト見ルヘキ證左ト看認ムルヲ得ス云々其義ニ付テハ明治九年第六十三號及第百七號公布ニ定ムル所ニ準據スヘキモノナルヲ以テ被告カ原告ニ對シ吟味願ニ係ル其費用ノ損害ヲ原告ニ對シ請求スルハ失當ナリトスト言渡サレタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリト思考ストノ事

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ
明治九年第六十三號及第百七號公布ハ裁判官又ハ警察官ノ意見ヲ以テ呼出シタル者無罪ニ歸シ其他證人タルヘシト思量シテ呼出シタル者等ニ旅費日當ヲ給與スヘキ限定ヲ定メタル規則ニシテ人民ノ願ニ係ル被告ノ損害ヲ償フヘキ規則ニ非サルハ該公布ノ明文ニ照シテ判然タリ然ルニ原裁判官ハ人民ノ願ニ原因セシ上告人カ損害要償ノ事ニ對シ該公布ヲ援引シタルハ不法ノ裁判ナリトス
上告人ニ於テ被上告人ノ爲セシ吟味願ハ惡意又ハ重キ過失ニ出テタルモノト爲スモ是レ事實裁判官ノ認定ニ任スヘキモノニシテ本院ノ鑑査スヘキ限ニアラサレハ以テ上告ノ理由トナシカタクシ
前條辯明ノ通浦和始審裁判所熊谷支廳ノ與ヘタル終審裁判ノ中二點ヲ破毀シ東京始審裁判所ニ移スモノナリ
但上告入費ハ被上告者負擔スヘシ

○第五百十三號

家督相續一件上告ノ判文

(明治十六年八月十五日上告) 同(十七年十月廿五日申渡)

山形縣羽前國北村山郡蟹澤村平民

上告人

石川ヒテ

同縣同國同郡宮崎村平民

右總理代人

高橋正左衛門

東京府京橋區南鍋町一丁目一番地

右代言人

秀島虎二郎

山形縣羽前國北村山郡蟹澤村平民

被上告人

石川シユン

東京府麴町區有樂町三丁目一番地

右代言人

齋藤孝治

上告ノ要領

一被上告者カ自己ハ亡貞助ノ正妻ナリト稱シ又原裁判所カ被上告者ハ亡貞助ノ正妻ナリ

ト認メラレシ證憑ハ僅カニ被上告第一號第五號第八號證ノ三通アルモ被上告者カ亡貞助ト結婚ヲ爲シタリシ證憑ト爲スニ足ラス其理由ハ左ノ如シ

一被上告第一號證ニハ(十三年五月廿日入籍)ト記載アレハ亡貞助ハ其明治十三年中ハ上告第一號證ノ如ク家出中ニテ結婚ヲナシ得ラルヘキ道理ナシ加之上告第七號證ニ依レハ右被上告第一號證ニ(十二年五月廿日入籍)ト記入セシハ明治十四年三月ニシテ全ク村吏ト通謀シテ入籍ノ姿ニ構造シタル不正ノ登記ナリ故ニ被上告第一號證ハ被上告者カ亡貞助ノ正妻タル證據ト爲スヲ得ス

一被上告第五號證ハ亡貞助家出中ノ日附ニ係ル證券ニシテ實際如斯證券ノ成立ツヘキ道理ナシ殊ニ被上告者カ明治十三年五月中入籍シタルニアラサル事ハ前項ニ於テ述フルカ如シ左スレハ當時貞助ノ妻ニアラサル被上告者カ妻タルノ名稱ヲ以テ明治十三年十月中右五號證ノ如キ契約ヲナスヘキ道理ナシ故ニ該證ハ不真正ノ者ナリトス

一被上告第八號證ハ亡貞助カ死亡後被上告者カ擅ニ石川家ノ財産ヲ寺院ニ寄附セシ其受領書ナリ如斯書面ニハ如何ナル事柄ヲ記載アルモ決シテ裁判上ノ證據ト爲スヲ得ヘカラサルナリ

一事實ニ於テモ亡貞助ハ病氣危篤ヲ以テ明治十四年一月廿九日歸宅シ其後僅カニ二日ヲ經タル明治十四年二月一日ニ死亡セシモノナレハ夫妻ノ交リヲナシ得ヘカラサルヲハ論ヲ俟タサルナリ

以上數項ノ理由アルニモ拘ラス原裁判所カ其判文第二條ノ如キ判決ヲ與ヘラレタルハ疎

漏ノ裁判ナルヲ以テ該第二條ノ破毀ヲ請願スルトノ事

大審院ニ於テ判決スル左ノ如シ

原告(被上)第五號第八號證ハ被上告カ既ニ貞助ト夫妻ノ交リヲ爲シ貞助病中ヨリ最後ニ至ル迄看護シタル實際ノ證據トスル充分ノ効力アリヤ否ヲ審究スルニ第五號證ハ被上告カ石川貞助代妻ノ名義ヲ以テ明治十三年二月廿一日耕地ヲ賣渡シタル公正證ニシテ被上告カ第四號證ヲ以テ委任ヲ受タリト稱スルモノ又第八號證ハ大崇寺住職吉田悅巖ヨリ石川貞助妻石川シユン殿ト宛名シ物品及ヒ佛供米布施ノ受領證ニシテ上告人ハ原裁判所ニ對シ明治十六年五月十五日ノ口供ニ(原告(被上)第八號證ハ本件ニ關係ナク殊ニ何時モ成立ヲ得可キ書類ナレハ被告(上)ニ對シテ効力ナシ)又十六年三月廿二日付再答書第八條第四項ニ於テ原告(被上)第四號證貞助失踪中ノ委任狀ハ真正ノ成立ト認ムルヲ得ス從テ第五號證ノ地所賣買モ亦不正擅横ノ賣買ナルヲ論シタリ左スレハ原裁判所ハ貞助失踪中財產ノ管理及ヒ病氣ニテ歸宅シタル後ノ景情等ヲ審ニシテ第五號證ノ真正ナル事及ヒ第八號證ノ事實相違ナクシテ相當ノ處置ナル理由ヲ付スヘキ筋ナルニ原裁判所ハ一方ノ異論アルニモ拘ハラズ第五號證及ヒ第八號證ヲ以テ直ニ實際夫妻ノ交リヲ爲シ最後ニ至ル迄看護ヲ爲セシ證ト爲セシハ審理ヲ盡サス且理由ヲ示サ、ル不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ明治十六年六月五日宮城控訴裁判所カ與ヘタル終審裁判ヲ破毀シ東京控訴裁判所ニ移スモノナリ

但上告入費ハ被上告者負擔スヘシ

○第五百十四號

一七八

山林所有權遷塞立木專伐一件上告ノ判文

(明治十五年九月十五日上告) 同十七年十月廿五日申渡

大坂府大和國高市郡小槻村三拾

三番地平民

上告人

岡橋清三

東京府京橋區南鍋町壹丁目四番

地寄留佐賀縣士族

右代言人

土山虎四郎

大坂府大和國吉野郡增口村五拾

七番地平民

被上告人

大北與三郎

上告ノ要領

第一條

山林論所ハ大坂府大和國吉野郡中黒村ニ在リテ一ヶ所ハ其字ヲ堂ノ奥ト稱シ他ノ一ヶ所ハ其字ヲ廻ノ口ト號ス皆ナ曾テ被上告ノ所有山林タリシナ他山林ト俱ニ今ヲ距ル二十八年前則安政二年二月第一號證ノ通り上告者へ買得シ爾後所有シタリ今其證據ヲ列舉セ

第一 第一號證被上告人ノ先代與兵衛カ山林賣渡添證文第一項ニ字堂ノ奥トアリ其第五

項ニ字廻ノ口トアルヲ以テ上告人カ買得ノ證十分ナル事

第二 第二號證ノ通り第一號證列記ノ山林ハ今ヲ距ル二十六年前則安政四年十一月源助

ヨリ久右衛門へ流質トナリシヲ其翌則安政五年三月第三號證ノ通り久右衛門ヨリ上告人先代へ買得セリ是ニ於テ乎論所山林ハ他山林ト共ニ上告者ノ所有ニ歸シ其權利ヲ移

轉スルヲナシ常ニ保有スル事

第三 上告者ハ論所ニ付キ山守久保西久四郎ヲシテ終始保護ヲ爲サシメ且第七號證被上告人カ上告人へ宛タル手簡文中該山林私名前ニ改換差配可仕云々トノ文詞アルヲ以テ

上告人カ支配シ居リシ實跡ヲ見ルニ足ル事

夫レ如斯上告人ハ論所ノ山林ヲ買得シ未タ曾テ他へ賣却等ヲ爲シタルヲナク其所有權依然トシテ存在セリ然ルヲ被上告人ハ明治十四年八月中大丸久五郎等ト俱ニ該山林ヲ代採セシヲハ明確タレハ本訴ハ該山林ノ所有權ハ上告人ニ在ルカ將タ被上告人ニ存スルカノ一點ヲ知ルニ在リ

第二條

被上告カ原裁判所ニ答辯ノ主旨ヲ分析セハ

第一 論所ハ被上告第一號證及ヒ第三第四第五號證ニ據テ被上告人ノ所有タリトノ事
第二 上告人カ所謂字堂ノ奥及廻ノ口ノ山林ハ被上告ノ所謂廻ノ口ト別所ナリトノ事
被上告第一號證ハ印影曖昧タレハ偽證タルヘキ旨曾テ陳述セリト雖モ之ヲ真正ナリトスルモ該證ハ文政五年八月ノ成立タルハ今ヲ距ル殆ト六十五年前タリ而シテ上告人第一號

一七九

證ハ安政二年ノ成立タレハ僅ニ二十八年前ノ事ニ係リ則チ被上告第一號證ハ安政以前ノ所有チ證明スヘキモ上告第一號證成立後ノ所有權チ證スルノ具ト爲スヘカラス其眞ナルト否トヲ問ハス本件ニ對シ毫モ効力チ有スルモノニアラサルナリ然レモ果シテ眞正ナリトセハ則論所ニ關スル古證文タルヲ以テ上告人第一號證ニ基キ必ス上告人ヘ引渡スヘキモノニシテ決シテ被上告ノ手ニ留置スヘキモノニアラス又チ被上告第二號證ノ如キハ現今ノ戸長カ保證シタレハ今其有効無効ヲ論ゼンニ凡ソ戸長カ職權上保證スヘキモノニアラス自己ノ聞見スル所チ保證シシモノナラシメハ上告第一號證ノ事實ニ反異シ一モ採ルニ足ラサルモノナリ又被上告第三號證ニ據レハ堂ノ奥ト榎ノ口ハ隔絶ノ別所ニ在リ云々上告第六號證ニハ總山ヲ堂ノ奥ト稱シテ今ノ論所ハ榎ノ口黒岩ト稱シ他ニ道程隔絶シテ堂ノ奥ト稱スル地所アル事ナシト夫レ上告第六號證及被上告第二號證ハ均シク中黒村戸長福井万藏カ保證スル所ナリ而シテ如斯矛盾ノ言アル戸長ノ職固ト如斯ニシテ而シテ保證ノ効何ニカ在ル是レ被上告第二第三號證ハ採ルニ足ラサル所以ナリ又被上告者ハ論所ト上告第一號證ニ記スル山林トハ別所ナルモノ、如ク申陳スト雖モ上告第一號證ハ素ト被上告ノ先代與兵衛ヨリ出テシモノナリ而シテ全證中字榎ノ口及ヒ堂ノ奥ト記載アリ然ラハ則被上告ハ其實者タルヲ以テ該第一號證ニ付テハ必ス擔保ノ義務ヲ負フモノナリ故ニ若シ論所チ榎ノ口ト云ハシ歟則第一號證ニ記載スル山林ナリ之ヲ堂ノ奥ト云ハシ歟又該第一號證ニ記載スル山林ナラスヤ然ラハ則論所ハ最初ヨリ上告者ノ有タル事明白ナリ若シ然ラストセハ被上告ハ必ス他ニ其場所チ指摘セサルヘカラス然ルニ他ニ其場所無

クシテ論所ハ上告第一號證中ノモノニアラスト云ハ、上告者ハ只名チ買フテ其實チ採ラサルニ至ルヘシ殊ニ該第一號證末文ニ至リ但シ古證文ノ義ハ云々トシテ當時見當ラサレハ後日之レチ送ルヘシト約セリ然ラハ則被上告第一號證ハ眞正ナリトセハ必ス上告者ニ送致セサルチ得サルノ證書ナリ何ソ該證チ以テ現今ノ所有チ證スヘケンヤ夫レ如斯論所山林ハ上告者ノ所有ニシテ被上告者ノ所有ニアラサルヤ明確ナリ

第三條

原裁判所判決ノ趣旨タルヤ上告第一號證山林ノ字チ列記スル終尾字瀧ノ方ト登記スル左傍ニ古證文ノ義ハ當時不相知云々トアリテ後ニ古證文十二通添トアルハ山林ハ十三筆ニシテ古證文十二通アリ而シテ但書云々ト字瀧ノ方左傍ニ註セルヲ以テ見レハ只瀧ノ方ノ古證文ト見ヘ其他ノ古證文ハ存在スヘキ理ナレハ論所ニ對スルノ古證文ハ必ス現存スヘキチ上告者カ呈出セサルハ舉證ノ責チ欠クトノ事
夫レ舉證ノ法ハ其詞訟ノ目的ニ依リ自ラ異ナルモノニシテ決シテ一概ニアラス本件ハ被上告カ上告者ノ山林チ擅伐セシヲ以テ其材木チ取戻サンヲ請求スルモノダレハ論所ノ山林ハ上告者ノ所有タル事ト被上告者カ伐採セシ事トチ證明スヘキモノタリト雖モ被上告カ論所ノ山林チ伐採セシ事ハ被上告ノ白狀及ヒ被上告第三號證戸長ノ保證ニ據テ明確タレハ上告者ハ只山林ノ所有者タル事チ證明セハ足レリトス因テ上告者ハ第一條ニ開載セル如ク其所有ノ證據ト實歷トチ證明セシニ原裁判所ハ第一號證山林ノ字チ列記スル後ニ至リ但書チ加ヘテ古證文ノ不足ナルヲ約セシト後ニ古證文十二通添トアルヲ將テ前

ニ列記スル山林ハ十三筆ナレハ壹筆ニ一通ノ古證文トシテ十二筆ノ古證文ハ添加シアレト只其末筆ニ記載スル字瀧ノ方ノミ古證文ナシト解釋セリト雖モ是大ニ妄思ノ判定ト云フヘシ何トナレハ山林一筆ニハ必ス古證文一通トノ布告又慣習モアラス凡ソ古證文ノ出來スル所以ノモノハ初メテ其苗芽ヲ植付シモノ他ニ賣却シ展轉甲賣乙買ヲニ至テハ證文ニ證文ヲ累スルニ至ルヲ以テ初メテ古證文ナルモノ出來ス故ニ其賣買多キモノハ古證文數十通アルモ其賣買少キモノハ二三通ニシテ止ムアリ或ハ伐木ニ至ルマテ古證文ノナキアリ是レ理ノ當ニ然ラサルヲ得サルモノナリ故ニ上告第一號證山林ノ字ヲ記載スル第二項以下第四項ニ至ルノ三筆ハ故サラニ庄兵出喜兵衛出五右衛門出等ノ字樣ヲ註記シテ其出所ヲ明ニセハ其他十筆ノ山林ノ如キハ被上告先代與兵衛カ自己ニ植付タルモノヤモ亦知ルヘカラス殊ニ但書云々ノ文詞ヲ觀味セハ決シテ瀧ノ方一箇所ノヲ指シタルニアラスシテ右ノ内古證文ノ義ハ當時相知レ不申分モ之レアレハ云々トノ意タル事明確ナリ且賣買ハ所有者ヨリ其所有權ヲ買得スルモノダレハ畢竟賣買者雙方ノ承諾ヲ以テ足レトス其古證文ヲ添加スル所以ノモノハ賣者カ擔保ノ義務ヲ確實ナラシムルニ過キス故ニ假令古證文ナカリシトテ決シテ賣買ノ本義ニ違フニアラス若シ然ラスシテ古證文アラサル以上ハ賣買ノ効ナシトセハ不幸ニシテ失火等ノ災ニ罹リ古證文ヲ燒失セハ到底其山林ハ如何トモスヘカラサル歟若シ又古證文ヲ添へ買得ノ後水火侵盜等ノ爲メ古證文ヲ消失セハ山林所有ノ權利ハ是ニ於テ消滅シ却テ其盜有タル古證文ヲ有スルモノ、手ニ其所有權移轉セリトスル歟實ニ抱腹ニ堪ヘサルナリ然ルチ原裁判所ハ古證文ヲ呈出セサルヲ以テ所

有ト認ムルニ足ラス云々斷定セシハ探證法ニ違ヒシ不法ノ裁判タレハ速ニ破毀セラレト事ヲ請フトノ事

追上告ノ要領

一夫レ本件上告第一號證第十項字堂ノ與一ヶ所トアル山林ハ既ニ上告狀ニ開陳セル如ク其レ明カナリ然リ而シテ被上告ハ上告第一號證ノ如ク原賣主ナレハ其物件即該山林ニ對シテハ擔保ノ責ニ任セサルヘカラサル者ナリ然ルニ被上告ハ本件始終審ノ訟廷ニ於テ屢爲シタル陳述及ヒ上申書等ニ上告第一號證第十項字堂ノ與一ヶ所トアル山林ハ圖面ニ三百八拾四番地ニ適當セル旨ヲ申立且ツ其三百八拾四番地ノ山林ハ村人七拾名ノ所持ナレハ其一部分即自分一人持分ヲ賣渡シタルモノナリト申立タリ而シテ終審裁判所ノ審問將サニ了ラントスルノ際ニ至リ更ラニ三百八拾四番地ニ適當セルモノナリト其申立ヲ變シタリ茲ニ於テ上告者ハ其申立ノ一定ナラサルヲ體カメン爲メ裁判官ニ請ヒ地券繪圖面ニ被上告ノ見認メシ所ヲ附記セシメタリキ抑モ被上告ニ於テ何ノ故ニ前ニハ三百八拾四番ナリト云ヒ後チニ三百八拾三番ナリト翻異シタルヤヲ推考スルニ村人七拾名持ノ一部分ヲ賣渡シタルモノナリト申立ニ對シ上告者ヨリ其三百八拾四番地ハ現ニ地主ハ大谷與市立木主ハ大北作治郎ニシテ村持ニアラサルヲ陳辯シタルニ喫驚シ更ラニ三百八拾三番地ナリト申立ヲ翻異シタルモノナリ夫レ被上告ハ擔保ノ責任ヲ有シナカラ其申立ノ不正ナル斯ノ如シ是レ被上告カ上告第一號證第十項ノ山林ハ本論所ニアラストノ構言ヲ彌縫セント試ミタルニ過キサルノミ是レヲ以テ觀ルモ本論所ノ

山林上告第一號及第二號第三號證ニ據リ上告者ノ所有ナルコトヲ了知スルニ足ルヘシ

一上告者ハ今一步ヲ讓リ被上告ノ申立前後差異アルニ係ハラス甲第一號證第十項ノ山林ハ本論所ノ外ニアルモノトセシ平如何セン被上告自ラ提供セル證書及ヒ始終ノ申立ニ據テ上告第一號證第十項ノ山林ハ本論所ヲ措テ他ニアラサル事實ヲ證明スルニ充分ナルモノアルヲ被上告カ原裁判所(始終審廳共)ニ於テ上告第一號證第十項ニ(字ナ堂ノ奥ト云フ一同一ヶ所)トアルハ村人七拾名持ニ係ル字堂ノ奥ノ山林一ヶ所中ノ一人持分ニ適當スルモノナル旨ハ屢上申シ且其證據トシテ提供シタル乙第六號第七號證ヲ見ルニ山林一ヶ所(即全)ト壹ヶ所中一人持分(即壹)トヲ區分シ明カニ其譯書ヲ爲シタリ此二證及ヒ事實ニ據テ觀ルニ上告第一號證中他ノ十二項共ニ一ヶ所ト記載セルモノハ都テ其全部ナリ若シ特リ第十項ノミ其一ヶ所中ノ一部分ナレハ奚ソ他ノ全部ニ係ル十二項ト等シク一ヶ所ト單記シ其一部分ナルコトヲ明載セサルノ理アラソヤ是上告第一號證第十項ニ適當スル山林ハ本論所ヲ措テ他所(三百八拾三番)ニアラサルコトハ徵證ヲ俟タスシテ明カナリ茲ニ於テ本論所ハ即甲第一二三號ノ證ニ適當セル上告者所有ノ山林ナル事ハ固リ論ナカルヘシトノ事

上告人ハ明治十六年七月廿三日附上告追補書明治十六年八月三十日附上申書明治十七年一月十六日附口供等參照ノ上裁判アリ度旨申立タリ
被上告人ハ明治十七年一月廿二日附ヲ以テ召喚狀ヲ發シタルニ其期限ニ何等ノ申立モナ

ク出頭セス尙又明治十七年八月十五日附ヲ以テ明治十七年九月十五日迄ニ出頭スヘク若シ右期限ニ出頭セサルニ於テハ答辯ノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做シ闕席ノ儘裁判ニ及フヘキ旨ノ召喚狀ヲ發シ請書ヲ徵シタルニ其期限ニ至テモ竟ニ出頭セス本案答辯ノ權利ヲ拋棄セリ

仍テ大審院ハ被上告人闕席ノ儘裁判ヲ與フルコト左ノ如シ
本案上告ニ付原訴訟書類并裁判言渡書ヲ審閱シ原裁判ノ當否ヲ鑑査スルニ抑モ本案ノ主要タルヤ論山立木ハ上告第一號證第十項字堂ノ奥杉檜山ニ的當スルモノナルヤ將タ被上告第一號證字堂ノ奥榎ノ口杉檜山ニ的當スルモノナルヤ判別スヘキノ一點ニ在リ左スレハ論山立木ハ原被兩造カ本案ノ根據トスル各證書(上告第一號乃至第三號證)ニ就キ原被孰レノ所有ニ屬スヘキカヲ反覆審理スヘキハ普通ノ定規ナリ然ルニ原裁判所ハ本案ノ起訴者ナル上告人カ其第一號證ニ附從スヘキ論山字堂ノ奥ノ古證文ヲ提出セカリシトテ單ニ其點ノミヲ以テ上告人ハ本案ノ訴權ナキモノ、如ク排斥セシ而已ナラス上告人ハ被上告第一號證ニ付其成立ノ不完全ナル數個ノ疑點其他被上告反證ノ不當ナル理由ヲ屢々陳辯シタルニ總テ是等ヲ不問ニ附シ去リタルハ審理不盡ヲ免レサル不法ノ裁判ナリトス何ントナレハ上告人カ安政度ニ論山立木ヲ買得セシ證書ナリト云フ上告第一號乃至第三號證ハ即チ本案ノ確證ナレハ之ニ附從スヘキ論山古證文ノ存在スルト否トニ就キ主タル上告第一號乃至第三號證ニ依テ得タル權利ノ消長スヘキ條理ヤク特ニ上告第七號及第十號證即チ被上告人ノ手簡中ニ於ケルカ如ク本訴未發ノ當時上告人ハ論山立木ヲ保有シ來リタル端緒ノ看ルヘキモノア

レハ是等ノ事實ヲ推究シタル上ニアテサレハ未タ遽カニ上告人ニ訴權ナシト速了ス可ラス
既ニ論山立木ハ上告人カ安政度買得セシト云フ證據及其保有者タル端緒ノ看ルヘキモノア
ルヲ斯ノ如シ然ルニ被上告人カ論山立木ハ自己ノ所有ナリト主張シ之ヲ擅伐シタルヨリ本
訴ノ起リシ所以ナレハ他人即チ上告人カ保有セシ論山立木ヲ擅伐シタル被上告人ニ於ケル
モ亦舉證ノ責ナシト斷言シ難ケレハナリ是ヲ以テ上告人カ本案原裁判ノ破毀ヲ請願スルハ
相當ノ上告ナリトス

但上告人ハ其第一號證但書ノ文意ニ付原裁判官ノ見解ハ不當ナリト申立ルト雖モ右ハ上
告人ト其見解ヲ異ニスルト云フノ旨趣ニ過キサレハ上告ノ理由ト爲スヲ得ス
右ノ理由ナルヲ以テ大坂控訴裁判所カ本按ニ與ヘタル裁判ヲ破毀シ東京控訴裁判所ニ移ス
モノナリ

但上告入費ハ被上告人ノ負擔タルヘシ

○第五百十五號

協議費怠納請求一件上告ノ判文(明治十六年八月八日上告
十七年十月廿七日申渡)

新潟縣越後國西蒲原郡國上村第

六十八番地平民

戸長

湧井道忠

東京府京橋區山下町八番地寓居

上告人

平民

渡邊 稻人

新潟縣越後國西蒲原郡國上村九

十四番地平民

玉木久太郎

東京府日本橋區西河岸町十七番

地主族

岡山 兼吉

右代言人

被上告人

右代言人

上告ノ要領

第一條

本件原裁判ノ趣旨ヲ要約スレハ左ノ數點ニアリトス

第一 被上告外三名(重立ノ者)カ村會規則編製委員ヲ定ムル協議ニ加ハリタルモノト認め難
シトノ事

第二 被上告等カ闕席ノ處分ヲ縣令ニ伺ヒタルハ直ニ該規則ヲ被上告ニ適用シ得ヘカラ
サル所アルヨリ規則ノ効力ニ完全ヲ與ヘントセシ所爲ナリト認ムルトノ事

第三 被上告等ヲ撰擧權拋棄者ト見做ス可キ場合ナラサルニ直ニ規則第十四條但書ニ由
テ處分ヲナシタルハ當然ノ事ト云ヒ難シトノ事

第四 村會議員ハ撰擧權ヲ有スル被上告ノ撰擧ヲ經タルニ非サレハ其議決セシ事トモ被

上告ニ對シ其効ヲ有シ得サルモノト認定ストノ事

今ヤ右掲ケル判旨ノ不當ナルヲ陳述スルニ先タチ本件ハ左ノ條款ヲ論定スルヲ必要ナリト認ムルニ依リ茲ニ其旨ヲ掲ケ次條ニ於テ之ヲ論述セン

第一款 村會規則ニ附シタル縣令カ認可ハ一般ノ法律ト等シキ效果ヲ有スルモノナルヤ否ノ事

第二款 縣令カ認可シタル所ノ規則ヲ廢棄セントスルノ訴件ハ縣令ニ係ルヘキモノニシテ其裁判管轄ハ控訴裁判所ニアリテ特別ノ規則ニ依ル可キモノナルヤ否ノ事

第三款 認可アル確定ノ規則ニ對スル異議ハ該規則ヨリ成立タル公會カ議定シ既ニ其職ノ可決シタル所ノ義務ヲ拒マントスルノ口實ト爲スヲ得サルヤ否ノ事

第二條

本條ニ於テハ前第一條次項ノ要點ヲ論セントス
抑モ本件村會規則ニ附シタル縣令カ認可(上告第八號證ナリ)ハ明治十三年第十八號布告第二條ノ法文ニ基キシモノナリ蓋シ之カ規則ノ可否ヲ決スルハ則縣令ノ特權ニシテ我々一己ノ能ス可キモノニ非ス然リ之カ制裁モ亦我々一己ニ冠スヘキモノニ非ス該規則ニ支配セラルハ所ノ人民一般ニ冠スルモノナレハ其人民ハ必ス此規則ヲ遵守セサルヲ得ス是レ所謂私權ニ關スル事ニ非スシテ公權ニ關スルモノナレハナリ而シテ縣令カ認可ヲ附セラレタルハ行政上ノ職權ヲ以テセラレタルモノナレハ其認可ハ則チ一般ノ法令ト等シキ效果ヲ有スルモノナリトス

村會規則ハ素ト委員ノ起草シタルモノナルモ縣令カ完全ナルモノト認メ可決セラレタルモノナレハ之レニ對シ異議ヲ唱ヘントセハ宜シク其決定者即チ縣令ニ質ス可キモノナリトス然リ被上告モ業已ニ舉證(被上告第二十八號及ヒ三十一號證)シテ認可ノ取消ヲ望ミタリト云フ所ノ事蹟ニ徴スルモ亦明カナリ而シテ縣令ハ被上告カ意ニ反シ(村會規則編製ノ順序ハ規則ニ抵觸セシモノニ無之儀ト可相心得事)被上告第三十號證ナリトノ指令ヲ附セラレタルハ何ソ該規則成立ニ於テ瑕瑾ナク完全無缺ナルカ故ニ外ナラス既ニ其指令ニ服サスシテ漫然該規則ノ實施ヲ妨ケントスレハ縣令ニ係リ起訴スヘキハ當然ナリトス蓋シ上告者ハ該規則ヲ可否スルノ職權ナキモノナレハ其職權外ノ事柄ニ對シ奈何ナル裁判ヲ得ルモ更ニ其効ヲ有セサルナリ果シテ然ラハ異議ノ所詮如何ハ措キ免ニ角縣令ニ係ル所ノ詞訟ハ明治八年司法省第五號布達ニ基キ所轄控訴裁判所ニ訴フ可キモノニシテ其裁判所ハ明治九年司法省第五號達ニ由リ審理セラル可キモノナリトス又始審裁判所カ治安裁判所ノ與ヘタル裁判ニ對スル控訴ヲ覆審セラル、場合ハ治安裁判所ノ權限内ノ詞訟ニ限リ其範圍以外ニ及スヘカラス故ニ本件ハ假リニ通常裁判所ノ管理スヘキモノトスルモ規則云々ノ事柄ニ至テハ即チ治安廳權限外ノ爭點ナルヲ以テ同應モ此點ニ對シテハ更ニ判決ヲ與ヘラレサリシナリ然ルニ原裁判所カ規則云々ノ爭點ニ判決ヲ與ヘラレタルハ即チ覆審ノ權限外ニ涉リタルモノナリトス

夫レ規則認可ノ効果ハ前項ニ論スル如ク一般ノ法令ト等シク遵守スヘキモノナレハ其シヤ之レカ成立ノ手續キニ不充分ナル事柄アリト假說スルモ之ヲ辭柄トシテ背馳スルヲ得

ス然ラハ該規則頒布アル限ハ此ノ規則ニ因リ組織シタル公會ヲ議定シテ其職ノ可決シタル所ノモノナレハ被上告ハ到底上告者カ請求ニ抗シ能ハサルモノナリトス况ヤ不充分ナルコアラサルニ於テオヤ

斯ノ如クナレハ該規則奈何ノ訴點ハ被上告等カ縣令ニ向テ論シ得ルモノトスルモ上告者ニ向テ論争ス可キ事ニ非ス隨テ之カ訴件ニ對スル裁判ハ控訴裁判所カ特別ナル定規ニ基キ審判セラル可キ事柄ナルコハ業己ニ明白ナレハ原判官カ是等ノ點ニ對シ判決ヲ與ヘラレタルハ權限ヲ踰越シタル不法ノ裁判ナリトスル所以ナリ既ニ原裁判ノ不法ナルコ確的ナリト雖モ尙第一條ノ初項ニ列記スル事項ノ不當ヲ後條ニ於テ論述セン

第三條

原判文初段ニ(原告ハ第二十一號證ノ伺書ヲ縣廳ヘ差出シタル等ノ述ニ就テ觀レハ被告ハ編製委員ヲ定ムル協議ニ加ハリタルモノト認メ難シ云々)トノ判示ハ之レ臆測附會ノ談ナリト云ハサルヲ得ス畢竟規則第十四條但書ノ如キハ萬一ヲ制スルモノニシテ輕忽ニ適用ス可キモノニ非サレハ職務上鄭重ヲ加ヘン爲メ成シタルモノナレハ却テ適用ヲ輕忽ニ爲サ、リシトノ事ヲ證シ得ルモ被上告等カ參會セスト云フノ根據ト爲ス可ラス又(直ニ該規則ヲ被告ニ適用シ得可カラサル所アルヨリ重キ官ノ認可ニ歸シ云々)トアル(直ニ)ノ文詞ヨリ其判示ノ意味ヲ考察セハ恰モ第十八號公布ヲ誤解セラレタルモノ、如シ如何トナレハ假令公會ノ委員カ起草シタルモノニセヨ該規則ノ施行權ヲ有スル縣令ノ認可ヲ得サレハ直ニ實施シ能ハサルモノナルコハ公布第十八號ニ明晰ナレハナリ是ニ於テ

原判官ハ公布ヲ誤解セラレタルニ非ス該規則ハ認可ヲ經タルモノナルモ編製ノ方法充分ナラサルヲ以テ到底被上告ニ適用シ得可カラサル所アリトノ趣意ナリトシテ論スレハ幾千度縣令ノ認可ヲ得ルモ被上告ニ適用シ能ハスト云ハサルヲ得サルヘシ蓋シ業己ニ認可ヲ得タル所ノ規則ノ適用ヲ伺ヒタルモノナルコハ原判官モ認メテ裁判狀ニ掲ケタル、所タリ左スレハ上告者カ如何ナル伺ヲ爲スモ所詮完全ヲ得ルノ理ナシトセサルヲ得ス然ルニ其伺ノ手續ハ該規則ノ効力ニ完全ヲ與ヘントセシ所爲ナリトハ自家撞着ノ判示ナリト云ハサルヲ得ス凡ソ伺ナルモノハ意味ノ疑ハシキヲ儘カムル爲メニスルカ將タ事務ニ鄭重ヲ得ントスル等ノ爲メニアレハ本訴ノ伺ヲシテ該規則成立ノ如何ヲ推定スルノ要トナス可カラス況ンヤ其編製委員撰定會ニ參セスト變言スルハ僅々タル少數ノ人々ニシテ其人々ニ十倍スル所ノ大數ノ人名カ該協議ニ被上告等モ加ハリタリトスル事迹アルノミナラス縣令モ既ニ認可シテ後被上告等ノ伺書ニ對シ(村會規則編製ノ順序ハ規則ニ牴觸スル者ニ無之儀ト可相心得事)トノ指令ヲ附セラレタルヲヤ斯ノ如クナレハ該規則ノ成立ニ付テハ毫モ間然スル所アラサルニ不完全ナルモノ、如ク認定セラレタルハ頗ル失當ノ裁判ナリト思考ス

同判文中段ニ(猶以テ撰舉權拋棄者ト看做ス可キ場合ナラサルコト明ケシ然ルニ直ニ規則第十四條但書ニ因テ拋棄者ノ處分ヲ爲シタルハ當然ノ事ト言ヒ難シ云々)ト判示セラレタルハ究竟認可アル規則ノ効力如何ノ理ヲ誤マシタルニ起因スルナラン若モ該規則ノ効力ハ上告者カ申スル如クナリトセラレタルハ必スヤ此ノ適用ヲ相當ナリトセラルヘキ